平成 27 年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業

ブルーフラッグ認証取得活動を通じた

海岸維持管理体制の再構築業務

業務成果報告書

平成 28 年 3 月

一般社団法人 若狭高浜観光協会

目 次

1. 業務概要	
(1)事業の目的	1
(2) 事業の内容	1
(3)事業実施期間	4
2. 実施体制	
(1)経緯	
(2) 目的	
(3) 構成及びその役割	8
3. 事業実施の概要	
(1)全体協議会の設置・開催	10
(2)協働取組カレンダーの作成	12
(3)協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施	13
(4)地方支援事務局への月次報告	34
(5) 3力年の中期計画等の策定	34
(6)連絡会、合同報告会、意見交換会への参加	34
4. 事業の評価・分析	36
5. 総括	39
	4.0
(資料 - 1) 協働取組カレンダー	
(資料 - 2) 月次報告	
(資料 - 3) 中期計画(簡易版)	
(資料 - 4) 中期計画(詳細版)	
(資料 - 5) 会議・協議 議事録	
(資料 - 6) ブルーフラッグ交流会計画書	
(資料 - 7) 湘南ビジョン研究所交流会計画書	
(資料 - 8) アンケート調査結果	132

1. 業務概要

(1) 事業の目的

地域における課題解決や地域活性化の上で重要な役割を果たしている地域の各主体の活動を 支援するため、中間支援組織の体制強化や地域における協力・連携体制の整備等を促進すること が重要である。

このため、民間団体、企業、自治体等の異なる主体による協働取組を実証するとともに、中部環境パートナーシップオフィスが設置する「地方支援事務局」の助言を受けつつ、協働取組の過程等を明らかにし、協働取組を加速化していく上での様々な手法や留意事項等を、協働取組を行おうとする者の参考資料として共有することを目的とする。

(2) 事業の内容

高浜町内の海水浴場を中心とする海岸の環境維持について、昨年度事業「平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(ブルーフラッグ(以下「BF」という。)認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築)業務」(以下「昨年度事業」という。)における協働主体に加えて、新たに教育機関、公民館、障がい者団体等と協働することで、これまで地元の海岸及びその環境維持に係る取組への関心が低かった層を巻き込み、環境維持に係る取組が確実かつ継続的に実施されるための体制の構築を目指した。

この目的を達するため、昨年度事業に引き続き、FEE(国際環境教育基金)のビーチやマリーナを対象とする環境認証であるBFの認証取得に向けた活動をテーマとし、新たに安全管理、環境マネジメント、教育プログラムなどの面で具体的な取組を進め、BF認証基準の達成及びそれに向けた協働取組の促進が、海岸の環境保全・整備のため必要な取組であるという認識を広く地域住民において共有した。

なお、業務の実施に当たっては、地方支援事務局と連携を密にしながら実施した。

①全体協議会の設置・開催

町全体の海浜の管理に係る関係者で構成される「安心・安全な海構築会議」及び同会議の下に組織される「ブルーフラッグ推進部会」を中心として、本事業の目的及び目標を共有するための全体協議会を設置し、本事業に係る協働取組関係者(以下「協働関係者」という。)の役割及び取組の具体的実施方法の協議等を行った。

全体協議会は、安心・安全な海構築会議を4回、ブルーフラッグ推進部会を8回開催し、本事業を通じて、協働取組推進のための協定・規約等の締結又は締結に向けた取組方針の規定、及び「若狭高浜海のルールブック」へのBF認証基準の行動規範全項目の規定を進めた。

また、協働関係者の目的及び目標の共有に関連し、BF認証取得に係る基準、手続等確認の ため、次に掲げる業務を行った。

- ア FEE Japan (東京) との打合せ
- イ FEE国際本部 (デンマーク・コペンハーゲン) に対する情報収集及び伝達
- ウ FEE Japan又はFEE国際本部が行う現地視察対応
- エ その他認証に必要な団体等の協議など

②協働取組カレンダーの作成

事業開始後速やかに、中部地方環境事務所、地方支援事務局、協働関係者等が、目的、目標及び課題解決のための行動計画を共有するため、別途地方支援事務局が示す様式により協働取組力レンダーを作成した。

③協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施

ア ブルーフラッグ推進部会の開催

ブルーフラッグ推進部会では、BF認証取得を目指す和田海岸を重点的な取組地域とし、 取組の具体的な実施方法、BF認証条件である情報掲示板のデザインについて検討した。併 せて、高浜町内全体のビーチの良好な景観形成のため、景観デザインの専門家の参加を得て ビーチの景観デザインについても検討した。ブルーフラッグ推進部会は本業務期間中に8回 開催した。

なお、ブルーフラッグ推進部会には、BF認証取得を目指す和田海岸の近隣住民・事業者、 高浜町教育委員会、高浜町内の小学校、障がい者団体が参加したほか、前年度事業で協働が 図られていない住民・団体として、和田地区委員会および和田海浜組合から出席者が加わっ た。

イ 勉強会の実施

下記ウを実施する指導者の育成のための勉強会を実施した。勉強会は、「海辺の生き物観察会」の実施に向けた指導者育成と、プロジェクトWETの指導者講習会を各1回、計2回実施した。なお受講者は、学校等における環境教育の促進のため、広く教育関係者に勉強会への参加を呼び掛けた。

ウ 環境教育プログラムの実施

高浜町内の海岸関係者、町民、観光客等の海岸の環境維持の啓発のため、環境教育プログラムを実施した。環境教育プログラムは7~8月にかけて、6本実施した。

なお、環境教育プログラムは、高浜町ならではの自然環境等を活用したオリジナルの要素 として、ライフセーバーによる講習や、遠浅という条件を活かして入水して観察を行う内容 を盛り込んだ。

エ 地元説明会の実施

BF認証の取得に関連する各種の取組みについて、地元住民の中でも、これまで比較的疎遠であった方々を対象に、取組への理解を深め、協力を得るための地元説明会を実施した。 地元説明会は、和田地区の居住者および事業者を対象に、6回実施した。

オ シンポジウムの開催

主に協働関係者以外の海岸関係者及び高浜町民を対象に、海岸の環境維持の啓発及び取組への参画の促進のため、BF認証の取得及び活用方法等をテーマとしたシンポジウムを1回 開催した。

カ パンフレット等の作成

本事業の目的、取組等の周知広報のためのパンフレット(A4サイズ8頁フルカラー 2,000部)・ポスター(B2サイズ屋外用フルカラー50部)を作成した。

また、シンポジウムの開催に併せて、告知用ポスター(B2サイズ屋外用フルカラー50部)及びのぼり旗(600mm×1,800mm シルク印刷、100本、若狭高浜観光協会既存品

の追加作成)を作成した。

なお、FEE および BF のロゴマークを使用する上では、デザイン等 BF 認証との関係で問題が生じないよう、FEE Japan との事前協議を十分に行った。

キ 町内夏期イベントにおける周知広報活動

若狭高浜花火大会や若狭たかはま漁火想など、高浜町内で開催されるイベントにおいてPRブースを設け、プレゼンテーションの実施、ポスター展示、パンフレット配布、のぼり旗の設置等による周知広報を行った。併せて、来訪者に呼びかけて海岸の美化を行う等、来訪者に環境保全行動を促す呼びかけを行った。

ク 出向宣伝等における周知広報活動

若狭高浜観光協会又は高浜町として出展する、上記キ以外の町内のイベントや、町外への 出向宣伝等に併せて、取組みの周知広報を行った。

なお、町内イベント(ぷらっと Home 高浜収穫祭 11月15日)における高浜町民に対するBF及びBF認証取得に向けた取組に係る認知度は82%であり、前年の同じイベントで計測した認知度57%から周知が進んでいることが伺えた。

ケ 他地域との課題共有

BF認証取得を目指す他の団体と連携を密にし、BF認証取得に向けた課題について情報の共有を進めた。具体的には、湘南地域(由比ヶ浜海岸 鎌倉市)で行われた「ブルーフラッグカフェ」(FEE 国際委員が出席)に参加し、BF についての最新情報や取得効果について学んだ。また、由比ヶ浜で実施された「ビーチクリーン」及び「環境学習ワークショップ」に高浜町から8名が参加し、海岸の管理運営に関するノウハウを共有した。

コ BF申請書の提出

平成 28 年春の国際審査委員会における認証取得を目標に、若狭和田海岸においてBF認証を取得するための申請書を作成し、国内審査に向けて提出した。

なお、国内審査委員会は平成27年11月から平成28年2月に渡って3度実施され、最終2月11日に実施された国内審査会を通過し国際審査委員会への推薦を受けている。

④地方支援事務局への月次報告等

本事業実施期間中毎月、当月の事業実施内容、新たに認識された課題等について、別途地 方支援事務局が示す様式に従い、地方支援事務局に翌月5日までに報告した。また、地方支 援事務局がヒアリングを実施した際に、日程調整等の協力を行った。

⑤3か年の中期計画等の策定

下記⑥イの報告会までに、3か年の中期計画、事業の振返り等を、別途地方支援事務局が 示す様式に従い作成し、地方支援事務局に提出した。

⑥連絡会、合同報告会及び意見交換会への参加

連絡会及び合同報告会、意見交換会には、本事業の責任者(若狭高浜観光協会)と協働取組相手の担当者(高浜町役場)各1名が参加した。

ア連絡会

課題の共有、事業の進捗の確認等のため、地方支援事務局が名古屋市において開催する連

絡会(平成27年7月3日と平成28年1月22日の2回)に参加した。また、連絡会において課題の共有、事業の進捗の確認等を行うため、必要な資料を作成した。

イ 合同報告会

平成27年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業における全国の関係者が東京に集まって開催される合同報告会(平成28年2月6日)に参加し、本年度事業の成果と3か年の中期計画等の発表・共有を行った。

ウ 意見交換会

地方支援事務局が名古屋市において開催する地域において協働取組を拡大していくための 意見交換会(平成28年1月22日)に参加した。

(3) 事業実施期間

自 平成27年6月30日

至 平成28年3月 4日

■主な取組み一覧(月次報告より)

	-	事業	会議	
	実施日	実施内容	実施日	実施内容
	7月11日	ビーチラグビー大会PRブース	7月3日	第1回連絡会
	7月11~12日	FEE Japan 現地調査	7月8日	BF推進部会
	7月14日	第一回水質調査 以降計 20 回実施	7月29日	BF推進部会
	7月17日	ポスター/のぼり旗制作	7月30日	安心・安全な海構築
7月	7月19日	環境教育プログラム(ライフセーバー体験)		会議
	7月25日	密漁パトロール		
	7月28日	環境教育ブログラム(ライフセーバー		
		体験)		
	8月1日	若狭高浜花火大会PRブース	8月23日	日本ライフセービ
	8月2日	三方五胡PA出向宣伝		ング協会打合せ
	8月5日	環境教育プログラム(星空観望会)	8月31日	安心・安全な海構築
	8月11日	環境教育プログラム(川の生物探し)		会議
	8月15日	密漁パトロール		
8月	8月16日	勉強会(砂浜の生物観察)		
	8月19日	環境教育プログラム(ライフセーバー		
		体験)		
	8月21日	環境教育プログラム(磯の生物探し)		
	8月22日	漁火想PRブース		
	8月25日	和田地区盆踊り PR ブース(雨天中止)		
	9月5日	密漁パトロール	9月16日	BF推進部会
	9月5日	ハッピースマイル in 高浜(ハンディ		
		キャップを持つ子供たちの海体験)		
	9月5日	船釣りフェスタ 2015PR ブース		
9月	9月20日	和田路地祭 PR ブース		
	9月22日	金沢出向宣伝		
	9月26日	京セラドーム出向宣伝		
	9月26~27日	神戸出向宣伝		
	9月29日	BF 申請書提出		
	9月30日	和田地区委員会・地元説明会		
	10月17日	ブルーフラッグ交流会(シンポジウ ム)	10月20日	夏期反省会(全体会 議)
	10月17~18日	´_^ / ご当地キャラ博 in 彦根において PR	10月28日	BF推進部会
	10月17 10日	FEE Japan 申請書確認と現地確認	. о / ј. 20 гд	
10 月	10月10日	P		
	, , ,	収録)においてPR		
	10月30日	FEE Japan からの指示の対応につい		
	.07,00 🖬	て、福井県立大富永先生と協議		
		- 、 田川 水土八田 小儿上 こ 伽成		

		事業	会議	
	実施日	実施内容	実施日	実施内容
	11月3日	若狭高浜ふぐ祭りPRブース	11月25日	BF推進部会
	11月7日	湘南ビジョン研究所との交流会		
	11月15日	まちの駅収穫祭 PR ブース		
11月	11月21~22日	東京神楽坂商店街出向宣伝		
11 73	11月28~29日	名古屋テレビ塔下広場出向宣伝		
	11月29日	勉強会(プロジェクト WET 指導者講習		
		会)		
	11月30日	和田観光協会総会説明		
	12月4日	和田地区委員会地元説明	12月11日	安心安全な海構築会
	12月6日	和田海浜組合地元説明		議
	12月12~13日	勉強会(プロジェクト WET ファシリテ	12月17日	BF推進部会
		ーター講習会)		
12 月	12月13日	和田三区区長会地元説明		
12 /3	12月15日	FEE Japan 協議(国内審査会の指摘事項		
		への対応について)		
	12月15日	安全リスク評価報告受領。それに伴い、		
		日本ライフセーバー協会認定海水浴場		
		に若狭和田海水浴場が認定		
	1月11日	FEE Japan 第 2 回国内審査委員会	1月22日	第 2 回連絡会/マル
	1月27日	パンフレット「若狭高浜の海にブルー		チステークホルダー
1月		フラッグを立てよう」完成		ダイアログ
. ,,			1月26日	安心安全な海構築会
				議
			1月27日	BF推進部会
	2月5日	ブルーフラッグ座談会(ライフセーバ	2月6日	協働ギャザリング
2 月		一による住民説明会)		2016
	2月11日	FEE Japan 最終国内審査委員会	2月17日	B F 推進部会
3月	上旬	町内小学校 (4 校約 550 名) へのパンフ		
0 /3		レット配布		

2. 実施体制

(1) 経緯

これまでの海浜の管理運営に関する主な経緯は、下記のとおりである。

1975 年頃~	・町内の有志が日本赤十字社の水上安全法救助員の資格を取得し、「高浜町
	水難救助員会」を組織。以降、現在まで海水浴場開設期間内の監視活動
	を実施
1990年頃~	・町内の海岸部で水上バイクが出現し、遊泳者の安全が脅かされるほか、密
	漁が広がるなどの問題が顕在化しはじめる
2008年~	・若狭和田海水浴場において、「若狭和田ライフセービングクラブ」発足。
	同年よりライフセービング活動を開始
2013年10月	•三松地区の海浜を不法占拠して水上バイクの発着を行う事業者の取り締ま
	りを目的に、「ジェットスキー対策会議」発足
	• 「快水浴場百選」指定自治体を対象に、FEE Japan がブルーフラッグに
	関するアンケート調査を実施。これを契機に若狭高浜観光協会および町
	において、ブルーフラッグ認証の取得にむけた検討がはじまる
2014年4月	•「高浜町の海岸を守り育てる条例」施行
	• 「若狭高浜海のルールブック」 策定。 浜地の占有の禁止と密漁の禁止を明
	文化する。同時に密漁パトロールを実施
2014年5月	• ブルーフラッグ認証取得をきっかけに、上記「ジェットスキー対策会議」
	を「安心・安全な海構築会議」に名称変更。より広範囲の海浜に関する
	課題解決の場として位置づけ、現在に至る
2014年7月~	・ 平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業実施
2015年2月	• 若狭和田海水浴場においてブルーフラッグの取得を目指すことを受けて
	「ブルーフラッグ推進部会」を発足。「安心・安全な海構築会議」を補完
	し、より現場に密着した連携の場としての運営をめざす
2015年6月	・2016 年のブルーフラッグ申請正式エントリー
2015年9月	・2016 年春の国際審査委員会に向けて、申請図書を提出
2016年2月	• FEE Japan による国内審査委員会を通過

(2)目的

本事業の推進母体となる全体協議会としては、「安心・安全な海構築会議」と、それを補完する「ブルーフラッグ推進会議」の両者を位置づけ、それぞれの目的を次のとおりとした。

①安心・安全な海構築会議

本町の海浜について、主に海水浴場開設期間内における安全確保と、適切な維持管理の体制およびルールづくりを目的とする。なお、ここで決定されたものの内、必要なものは「若狭高浜海のルールブック」の条文に反映していくものとする。

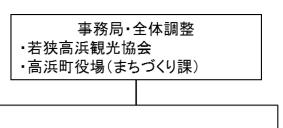
②ブルーフラッグ推進部会

「安心・安全な海構築会議」を補完し、ブルーフラッグ認証の獲得に向けた具体的な取り組みを実施するとともに、認証取得後の波及効果を拡大することを目的とする。

(3) 構成及びその役割

本事業を推進した全体協議会の構成を下図に示す。また、「安心・安全な海構築会議」と、「ブルーフラッグ推進会議」それぞれの構成員とその役割は次表のとおりである。

■推進体制図



安心・安全な海構築会議

- •観光協会各支部
- ·町内海浜組合
- •地元区
- •高浜町水難救助員会
- 若狭和田ライフセービングクラブ
- •若狭和田漁業協同組合
- ·小浜海上保安署
- •高浜警察交番所
- •消防高浜分署
- ・町内全体を対象とする海浜の管理運営
- 海のルールブック検討
- ・海浜清掃、密漁パトロールの実施
- ・その他問題点への対策

ブルーフラッグ推進部会

- •若狭和田観光協会
- •浜茶屋事業者
- •和田小学校
- ·和田小学校PTA
- •和田公民館
- 若狭和田ライフセービングクラブ
- やまぼうしの会
- •地元事業者
- ·高浜国際交流協会
- ·NPOおひさま
- ・NPO青の里地球まるごと会議
- 高浜町教育委員会
- ・ブルーフラッグ認証取得の為に必要 な具体的な取り組み実施
- ・環境教育プログラムの実施、地域教育への反映
- 観光サービスなど受け入れ態勢の 整備、充実
- ・その他和田地区における関連取組 の推進

■安心・安全な海構築会議 構成員

	団体等名称	出席者	役割
1	若狭高浜観光協会(本部、支部)	会長、副会長	観光誘致、海浜施設管理
2	各地区海浜組合	組合長	浜茶屋経営、遊泳者誘導
3	若狭高浜漁業協同組合	組合長	漁業
4	高浜町水難救助員会	会長	事故防止、救急対応
5	若狭和田ライフセービングクラブ	代表	事故防止、救急対応
6	高浜マリンクラブ	代表	利用誘導
7	小浜海上保安署	署長	安全確保
8	小浜警察署高浜交番所	所長	安全確保
9	若狭消防署高浜分署	署長	安全確保
10	高浜町まちづくり課	課長、他	会議事務局
11	若狭高浜観光協会 事務局	事務局長、他	会議事務局

■ブルーフラッグ推進部会 構成員

	団体等名称	出席者	分野
1	若狭和田観光協会	顧問、会長	全体統括、海浜施設管理
3	和田地区委員会	事務局長	地元
4	浜茶屋事業者	事業者	飲食等サービス
5	和田小学校	教頭	環境教育プログラム協働
6	和田小学校 PTA	会長	環境教育プログラム協働
7	和田公民館	公民館長	環境教育プログラム協働
8	若狭和田ライフセービングクラブ	代表、その他	事故防止、救急対応
9	やまぼうしの会	代表	まちづくり
10	地元事業者	事業者	飲食等サービス
11	高浜国際交流協会	会長	外国人対応
12	NPO おひさま	代表理事	障がい者福祉
13	NPO 青の里地球まるごと会議	会員	環境教育プログラム催行
14	高浜町教育委員会	事務局職員	環境教育プログラム催行
15	若狭和田観光協会 事務局	事務職員	地元事業者調整
16	若狭高浜観光協会	事務局長、その他	事務局
17	高浜町まちづくり課	課長、その他	事務局
18	高浜保育所	職員	環境教育プログラム協働
19	和田文化推進協議会	会長	環境教育プログラム協働
20	若狭高浜漁業協同組合和田支所	代表者	環境教育プログラム協働

3. 事業実施の概要

(1)全体協議会の設置・開催

①安心・安全な海構築会議

町内の海の関係者が集まる全体協議会として「安心・安全な海構築会議」を開催・運営した。前年度の活動と比較して、行動規範の規定内容とその運用方法、子供用ライフジャケットの貸出し体制整備など、水難事故防止に向けてより具体的かつ効果的な取組みについて議論し、実践した。

■平成27年度 安心・安全な海構築会議 名簿

No.	所属	役職	氏 名	備考
1	若狭高浜観光協会	会長	大角 一馬	
2	若狭高浜観光協会	副会長	小松 政春	和田支部長
3	若狭高浜観光協会	副会長	藤本 誠	東部支部長
4	若狭高浜観光協会	副会長	永野 和夫	内浦支部長
5	和田海浜組合	組合長	岸野 一男	
6	白浜海浜組合	組合長	松岡 明雄	
8	城山海浜組合		臼井 弘明	
9	若宮海浜組合		田宮 きよの	
10	はまなすパーク管理組合	組合長	一瀬 幸生	
11	難波江海浜組合		松田 泰知	
12	若狭高浜漁業協同組合	組合長	板倉 健治	
13	高浜町水難救助員会	会長	磯部 功	
14	若狭和田ライフセービングクラブ	代表	細田 直彦	会長 今井 満
15	高浜マリンクラブ	会長	秋岡 武治	
16	小浜海上保安署	署長	窪田 保司	
17	小浜警察署高浜交番	所長	谷本 裕也	
18	若狭消防署高浜分署	分署長	吉田 考完	
	高浜町 まちづくり課 (H28.1.より産業振興課)	課長	河合 徹 (H28.1.より冨永輝生)	担当者;米川浩司、本郷要因
	若狭高浜観光協会事務局	事務局長	吉岡(久	担当者;武村亨導、須藤竜乃介

■安心・安全な海構築会議 開催記録

開催日	協議内容と決定事項	議事録
7月30日(木)	①水難事故の発生状況	71 頁
19:30~	②水難事故の対応策	
21:30	③水上バイク対策	
(通算第 22 回)	④密漁パトロール	
	⑤海のルールブックの運用状況	
	⑥ブルーフラッグ認証取得に向けた取組みの進捗状況	
8月31日(月)	①今夏の状況及び課題報告、来夏に向けての対応	74 頁
19:30~	②その他	
21:30		
(通算第23回)		
10月20日(火)	①今夏の全般概要報告(観光、海上警備・監視、交通防犯警備、救	81 頁
14:00~	急・消防、夏期シーズン概要)	
16:00	②各種団体による概要報告(高浜町区長連合会、高浜町商工会、関	
(夏期シーズン	西電力高浜発電所)	
反省会)	③夏期観光に関する意見交換	
12月11日(金)	①H28 海水浴場開設に向けて	96頁
19:30~	② H28 海のルールブックについて	
21:30	③H28 に向けて取り組むこと	
(通算第24回)	④ブルーフラッグの進捗について	
1月26日(火)	①H28 海水浴場開設に向けて	105頁
19:30~	②ライフジャケット整備事業について	
21:30	③H28 ルールブック内容について	
(通算第25回)	④ブルーフラッグの進捗について	

②認証関連団体との協議

ブルーフラッグの国内認証団体である FEE Japan とは、下表に示す通り、現地調査 2 回と調整会議を2回実施した。国内審査委員会は3回開催され、それぞれに向けて必要な資料を送付し審査を受けた。

また、申請の要件の一つとして、海岸の安全リスクについて、資格を有する団体(国内では日本ライフセービング協会)より評価を受けることとされていることから、若狭和田海水浴場においても、同団体に安全リスク評価を実施していただいた。

■認証関連団体との協議等 開催記録

開催日	協議内容と決定事項
7月11~12日	FEE Japan 現地調査および会議
	・認証条件を満足しているかの現地確認
	• その他質疑応答
8月23日	日本ライフセービング協会による安全リスク評価 現地調査
	• 現地調査
	・若狭和田ライフセービング協会へのヒアリング調査
10月18日	FEE Japan 現地調査および会議
	・7月の現地調査を踏まえた追加調査と質疑応答
11月29日	FEE Japan 国内審查委員会
	• 改善点指摘
12月15日	FEE Japan との会議
	・今後のスケジュール
	・申請書作成に関する確認事項
	日本ライフセービング協会より安全リスク評価の結果受理
	・改善点は指摘されたが、適合と評価
1月9~10日	FEE Japan 国内審查委員会
	• 改善点指摘
2月11日	FEE Japan 国内審查委員会(最終)
	• 国内審査会通過

注) 認証条件の審査に係る具体的な協議内容については、非公開 12月15日の会議の内容は公開可。議事録は99頁に掲載

(2)協働取組カレンダーの作成

事業の目的、目標、行動計画を町内の関係者や中間支援団体と共有するため、協働取組みカレンダーを作成した。

(3)協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施

①ブルーフラッグ推進部会の開催

前出の「安心・安全な海構築会議」は、町内全域の海岸を議論の対象とし、また関係団体の長が参加し意思決定する場である。これに対し、若狭和田海水浴場および和田地区における取組を中心に、より住民に近く、具体的な実践の中心となるべく立ち上げたのが、ブルーフラッグ推進部会である。

前年度末に立ち上げ、第1回を開催したが、本年度は活動を本格化するとともに、各メンバーが主体的に取組みを進めていくことをはかった。

■ブルーフラッグ推進部会 名簿

	所属等		名前	備考
1	若狭和田観光協会 顧問	安田	涉	部会長
2	若狭和田観光協会 会長	小松	政春	
3	和田地区委員会 事務局長	成田	幸彦	
4	和田海浜組合 組合長	岸野	一男	
5	若狭和田観光協会	小幡	憲仁	町議会議員
6	和田小学校	松井	昭男	
7	和田小学校 PTA	西野	仁貴	
8	和田公民館	村宮	博明	
9	若狭和田ライフセービングクラブ	細田	直彦	
10	やまぼうしの会	大塚	ひとみ	町議会議員
11	地元事業者	今井	俊吾	ファミリア
12	高浜国際交流協会	池田	充宏	
13	NPO おひさま	小島	真弓	
14	NPO 青の里地球まるごと会議	ШШ	志穂	
15	高浜町教育委員会	仲野	博之	
16	若狭和田観光協会 事務局	今井	満	
17	若狭高浜観光協会	吉岡	久	事務局
18	若狭高浜観光協会	須藤	竜之介	事務局
19	高浜町まちづくり課	米川	浩司	事務局
20	高浜町まちづくり課	亀川	麻衣	事務局
21	高浜保育所	角谷	有紀	事務局

■ブルーフラッグ推進部会 開催記録

開催日	協議内容と決定事項	議事録
7月8日(水)	①ブルーフラッグ取得に向けた今後のスケジュールについて	65 頁
19:00~21:15	②ビーチのゴミ問題について	
(通算第6回)	③その他	
7月26日(水)	①夏期反省会	68頁
19:00~21:40	②懇親会	
(通算第7回)		
9月16日(水)	①シンポジウム、湘南交流会の案内	78頁
19:00~21:40	②ビーチデザイン等について	
(通算第8回)	③その他報告事項	
10月28日(水)	①報告事項	87頁
19:00~21 : 00	・湘南ビジョン研究所との交流会	
(通算第9回)	• 申請状況	
	②今後の取組みの検討	
	③地元の皆さんへの周知・広報	
11月7~8日(土•日)	①湘南ブルーフラッグカフェ参加	_
(通算第 10 回)	②ビーチクリーン参加	
	③環境教育プログラム参加	
11月25日(水)	①湘南視察報告	90頁
19:00~21:00	②各人・各団体として、今後どんなことができるか	
(通算第 11 回)	③オープニングイベント企画	
	④機関誌 Blue+	
	⑤和田小学校での読みきかせ	
12月17日(水)	①これまでのふりかえり	101頁
19:00~21:00	②機関誌 Blue+ Q&A コーナーについて	
(通算第 12 回)	③ブルーフラッグ関連イベントについて	
1月27日(水)	①オープニングイベントについて	108頁
19:00~21:00	②ブルーフラッグ認証に向けた周知活動について	
(通算第 13 回)	③その他	
2月17日(水)	①国内審査会結果について	114頁
19:00~21:00	②ブルーフラッグ関連イベントについて	
(通算第 14 回)	③その他	

注)通算第10回は、湘南地区との交流会として実施

②勉強会の実施

ブルーフラッグの認証条件には、環境教育ブログラムを5種以上提供することが規定されており、本町ではその体制づくりが大きな課題の一つとなっている。本年度は、昨年度に引き続き公益財団法人河川財団が主催する「プロジェクト WET」のエデュケーター講習会を開催し、新たに14名の指導者を育成した。また、特に課題である、生き物に関する環境教育プログラムの実施に向けて、その指導者の育成をはかり、福井県立大学より講師をお招きして勉強会を実施した。

ア)海の生き物観察

◆日時 2015年8月16日(日)

◆時間 9:00~10:00

◆開催場所 若狭和田海水浴場(はまなす公園前)

◆講師 富永 修(福井県立大学海洋生物資源臨海研究センター センター長)

◆参加費 無料

◆参加者 6名(その他一般参加者約50名)◆主催者 一般社団法人若狭高浜観光協会

◆内容 海水浴場での海の生き物の観察会を通じて、観察会開催のノウハウを学ぶ

同時に、一般参加者として、開催当日近くに居たお客さまに自由に参加いた

だき、実践的な指導を学ぶ場とした。









イ)プロジェクト WET 指導者講習会

◆日時 2015年11月29日(日)

◆時間 9:00~17:00

◆開催場所 ぷらっと Home 高浜(JR 若狭高浜駅)

◆講師 田中 謙次(プロジェクト WET ファシリテーター、RAC•CONE トレーナー)

◆参加費 2,000 円/人 (ガイドブック代込み)

◆参加者 受講者 14 名 サポート 2 名

◆主催者 一般社団法人若狭高浜観光協会

◆内容 プロジェクト WET は、日本河川財団が主宰する体験型の環境教育プログラム。 体験学習法にもとづき、水に対する「気づき」を促がし、学びを深め、「責任感」

と「社会参加意識」を高めることを目的とする。ここでは、このプロジェクト

WET の指導者を育成する「ファシリテーター講習会」を実施した。







③環境教育プログラムの実施

ブルーフラッグの認証条件である環境教育ブログラムの提供をめざし、平成 28 年度以降に実際に催行することを想定した環境教育プログラムを実施した。本年度は、下記の4種類、6本のプログラムを実施した。なお実施においては、今後の継続的な実施を念頭におき、行政や観光協会と異なる協働主体が主催するような体制づくりをはかった。

ア) ライフセーバー体験

◆日時 2015年7月19日(日)、7月28日(火)、8月19日(水)

◆時間 13:30~15:00 (海水浴自由時間含む)

◆開催場所 若狭和田海水浴場

◆講師 若狭和田ライフセービングクラブ

◆参加費 旅行ツアー代金に含む

◆参加者 3回合計 87名

◆主催者 若狭路サマーキャンプ実行委員会(若狭高浜観光協会)

◆内容 安全に海で遊ぶために、必要な海の知識と緊急時の対応について学ぶ。

特にインショアホールや海流など、自然現象については、紙芝居を使って重点的に学ぶ。

高浜町および隣接するおおい町が合同で開催する小学生向けの旅行ツアー 「若狭路サマーキャンプ」のメニューの一つとして、若狭高浜観光協会が提 案、実施した。









イ)星空観望会

◆日時 2015年8月5日(水)

◆時間 19:30~21:00

◆開催場所 和田公民館

◆講師 舞鶴市天文同好会

◆参加費 無料

◆参加者 約33名

◆主催者 和田公民館(高浜町教育委員会)

◆内容 大型天体望遠鏡で、講師の説明を聞きながら観察する。



ウ) 川の生き物探し

◆日時 2015年8月11日(火)

◆時間 9:00~11:00◆開催場所 和田公民館、片間川

◆講師 和田グリーンネット、水土里ネット

◆参加費 無料◆参加者 26 名

◆主催者 和田公民館(高浜町教育委員会)

◆内容 川辺の生き物を現地で採取し、講師の説明を聞きながら観察する。





エ)磯の生き物探し

◆日時 2015年8月21日(金)

◆時間 9:00~12:00

◆開催場所 和田マリーナ、若狭釈迦浜◆講師 福井県海浜自然センター職員

◆参加費 無料

◆参加者 9名(同伴した父兄含まず)

◆主催者 和田公民館(高浜町教育委員会)

◆内容 磯の生き物を現地で採取し、講師の説明を聞きながら観察する。





④地元説明会の実施

若狭和田海水浴場の維持管理や、BFの認証条件を継続的に満足していくためには、地元の住民や事業者の理解と協力を深めることが必須となる。このため、地元地区を中心に、下記のとおり説明会を実施した。

開催日	対象	場所	備考
9月30日	和田地区委員会	和田地区公民館	住民代表 11区
11月30日	和田観光協会総会	和田地区公民館	地元事業者
12月4日	和田地区委員会	和田地区公民館	住民代表 11区
12月6日	和田海浜組合総会	若狭和田観光協会	和田海岸で経営する浜茶屋事業者
12月13日	和田三区区長会	和田地区公民館	地元住民
			区長より依頼を受け説明会開催
2月5日	ブルーフラッグ座	和田地区公民館	ライフセーバーによる意見交換会
	談会		住民など有志

■ブルーフラッグ座談会の様子





⑤シンポジウムの開催

ア) 開催の目的

ビーチの国際環境認証である「ブルーフラッグ」について、人々の認知度を高めること。また、 既にご存じの方については、その理解度を高めること。

特に今回は、地元関係者より、昨年の開催から1年間の取組みや将来展望を報告いただき、それを通じて、ブルーフラッグ認証取得がまちづくりへと拡がっていくための可能性を探るものとした。

イ)構成

名称 ブルーフラッグ交流会

主催(一社)若狭高浜観光協会、高浜町

協力 環境省中部環境パートナーシップオフィス

日程 2015年10月17日(土)

内容 13:00~16:30 体験メニュー/パネル展示(城山公園、城山荘1階ホール他)

14:00~16:30 シンポジウム(城山荘3階ホール)

17:00~20:00 懇親会 中庭でガーデンパーティ(会費制)

■全体の流れ

時間	内容	備考
14:00~	開会	司会:有堀さん
(5分)	主催者開会挨拶、来賓挨拶	挨拶者:町長、振興局長
14:05~	講演 1【FEE Japan 伊藤正侑子氏】	海外事例、取得後の展開
(30分)	「ブルーフラッグビーチの魅力」	他
14:35~	講演 2【株式会社 GK 設計関西事務所所長 門脇宏治氏】	景観整備の事例、高浜の
(30分)	「ビーチデザインの可能性」	ビーチデザイン案他
15:10~	公開座談会	各パネリストからご自身
(75分)	「ブルーフラッグを活かしたまちづくり」	の取組みや今後取組みた
	●若狭和田 LSC 代表 細田直彦氏	いことを紹介
	●NPO おひさま 代表 小島真弓氏	専門家からアドバイス
	●和田地区公民館 館長 村宮博明氏	
	●和田小学校 教諭 松見 浩司氏	
	●浜茶屋/民宿事業者 今井 満氏	進行:若狭高浜観光協会
	●地球環境パートナーシッププラザ 尾山 優子氏	吉岡
16:25~	閉会	挨拶者:観光協会会長
(5分)	主催者閉会挨拶	

※セッティングの時間を含む

ウ)参加者

シンポジウム:62名 体験メニュー:7名

■ブルーフラッグシンポジウムの様子









■体験メニューの様子





⑥パンフレット等の制作

本町のブルーフラッグ認証取得に関する PR を進めるための印刷物を制作した。

ア) パンフレット

A4 変形サイズ・8頁/フルカラー/2,000 部

●1/8頁

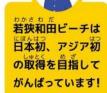


ブルーフラッグってなに?

FEE(フィー) という国際的な環境団体が行う、優れたビーチやマリーナを認める取り組みで、世界中で50か国、約4,000か所のビーチやマリーナが取得しているんだよ。



高浜町にある若狭和田ビーチはには、かいずいよくじょうでは、これは日本だけの認証。ブルーフラッグは世界中で認められているので、取りまして、またらもっと多くの人に高い海をアピールできるんだ!



ブルーフラッグとは

1985 年フランス発祥。FEE(国際 環境教育基金)が運用するプログラ ム。世界で最も歴史のある環境認証 のひとつで、ビーチやマリーナが対 象です。認定されるためには①水質 ②環境マネジメント③安全性・サー ビス④環境教育と情報の4分野33 項目の認証をで満足し、毎年 審査に合格する必要があります。日 本での運営は、FEE Japan が行って います。

http://www.feejapan.org

主な取得のメリット

1. ヨーロッパを中心に世界中で普及している認証であり、アジア初の取得は、高浜の海が注目される大きなきっかけになると期待されます。
2. 認証条件にある数値やチェックリストは、30年以上に渡って多くの専門家が練り上げてきたもの。美しい海を守っていく上で、これ以上ない目標・指標になるでしょう。
3. ブルーフラッグを運営する FEEの国際審査委員会では、毎年世界中のビーチの情貌が報告されます。認証ビーチとなることで、これらの費重なノウハウを共有することが出来るようになります。



「いろんなことが学べる海」にするために

たがはまちょう では ひと 高浜町に住む人にとって、とても身近にある海。 みんなは海のことをどれだけ知ってるかな?



『ビーチコーミング』 見がらなど、海辺に落ちている はなる。 ものを拾って好きなものを作るよ

『海の生き物観察』 海の生き物を捕まえて観察するよ



環境教育への取り組み

プロジェクトWETは、体験型の水の環 境教育プログラム。幼児から高校生まで 年齢に合わせ、楽しみながら様々なレッ スンを受けられます。

高浜町内では、こういった環境教育プログラムが開催できるよう、指導者の育成などにも積極的に取り組んでいます。



『プロジェクトWET』

水のことが楽しく学べるよ

地域の海のことを学んで、もっと海を好きになろう!



「安心して楽しめる海」にするために

パトロールをしてくれる人がいたり、みんなで決めたルールがあるから、

安心して海で遊べるんだね。



ラみ みまも すいなんきゃうじょいん みまも 海から見守る『水難救助員』 ビーチから見守る『ライフセーバー』

高浜町の海のルール 高浜町では 2014 年に「高浜 町の海岸を守り育てる条例」 と「若狭高浜海のルールブッ ク」が定められました。 海のルールブックには、町内 の海に共通する様々なルール が定められおり、今後多くの 人々の意見や世の中のニーズ に応じて必要な見直しを はかっていきます。

をかき、D. だ 若狭和田ビーチには、もしもの時や危険から守るための道具や施設がそろってるよ



『ライフジャケット』 着てると絶対沈まないよ



『レスキューボード』 『レスキューチューブ』 おぼれた人を勤ける ために使うよ



AEDなどが置いてある救護所 は、土・日曜日はお医者さん か看護師さんがいるよ



どんな海ならブルーフラッグが取得できるの?





「キレイな海」にするために

海のうつくしさは高浜町の自慢! なんでこんなにキレイなビーチなのかな?



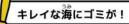


を 住んでいるみんなで ていまてき 定期的に行っている 『浜そうじ』

がいまいよく また お客さんも 海水浴で来たお客さんも いっと はま 一緒に浜そうじをする

高浜町の海の水質

福井県では毎年海水浴場の水質調査を行っていますが、高浜町内の海水浴場は常に AA という最高評価を得てきました。これは、日本海特有の海水の美しさもありますが、早くから都市下水が普及し生活排水や工場排水が海に流れこまないこと、町内には大きな河川がないことも理由です。







海を大切に思うみんなが協力してキレイな海が保たれているんだね みんなもこの想いを持って、キレイな海であり続けるよう協力してね!

4

「みんなにやさしい溝」にするために

みんなが気持ちよく海で遊ぶためには、どんなことが必要かな?



車イスの人も快適に海で遊んでもらいたいね!







バリアフリーの シャワー室・トイレ

関係者による管理委員会

高浜町では、年間を通じて適切な 海の利用を進めるための「安心・ 安全な海構築会議」という組織が あります。町役場と地元の観光協 会が中心になって、警察、消防署、 海上保安署、地元区、漁協、水難 救助員、ライフセーバーなどが参 加して、利用のルールや管理体制 の整備に取り組んでいます。



道具や設備も大切だけど、みんなの協力が必要だよ 「みんなにやさしい」気持ちが大切だね!

イ)ポスター(一般告知用) B2 サイズ/屋外用フルカラー/50 枚



ウ)のぼり旗W600×H1,800 シルク印刷/100本 (既存ののぼり旗の増刷)



エ) ポスター(シンポジウム告知用) B2 サイズ/屋外用フルカラー/50 枚

地域の誇りである美しい海を次世代に

10.17

13:00 ~ (シンポジウム 14:00~)

城山荘 3Fホール

福井県大飯郡高浜町城山公園内 TEL.0770-72-0357

プログラム

- ■14:00 ~ 16:30 シンポジウム
 - 講演『ブルーフラッグビーチの魅力』 FEE Japan 代表理事 伊藤正侑子氏
 - ●講演『(仮題) ビーチデザインの可能性』 株式会社GK設計 関西事務所所長 門脇宏治氏
 - 『ブルーフラッグを活かしたまちづくり』
- ■13:00~16:30 体験メニュー 場所:城山公園芝生広場(参加費無料)

 - ヨガ・ストレッチ ・水に関する体験プログラム
 - ●海辺でゆったりあそび など ※内容は予告なく変更になる場合があります。
- ■17:00 ~ 20:00 (雨天の場合 17:30 ~) 懇親会 場所:城山荘1階中庭(雨天の場合は室内)

会費:3,000円 ※事前予約が必要です ※懇親会の参加申し込みは、若狭高浜観光協会にお電話ください

福井県高浜町は ビーチの国際環境認証 『ブルーフラッグ』の 取得を目指しています



ブルーフラッグとは

ブルーフラッグは、ビーチおよびマリーナの 水質、環境マネジメント、環境教育と情報、 安全・サービスの状況が国際的に優れている と認証される制度のことです。認証されると、 ビーチなどに期間限定でブルーフラッグ旗を 掲揚することができます。

【お問合せ・懇親会参加申込先】 若狭高浜観光協会 TEL:0770-72-0338

無料自然体験メニューも開催!







ヨガ・ストレッチ

海辺で ゆったりあそび

協力:環境省中部環境パートナーシップオフィス 主催:高浜町、若狭高浜観光協会

⑦町内夏期イベント等での広報活動

町内で開催されるイベントは、主に地域の住民に対してブルーフラッグプログラムの存在を周知するとともに、本町がその取得に向けて活動していることをPRするには格好の機会である。本年度も、昨年度に引き続き、各イベント会場において積極的にPRブースやパネル展示、のぼり旗の掲揚を行った。

なお下表に示すように、夏期イベントだけでなく、秋季に町内で行われたイベントにも同様に PR ブースを出展した。

■高浜町内におけるPR出展記録

日付	イベント名称	主な取組み内容
7月11日	ビーチラグビー中部大会	・PR ブース設置、チラシ配布
8月1日	若狭高浜花火大会	・大会本部においてパネル展示、チラシ配布
8月22日	若狭高浜漁火想	・PRブース設置、チラシ配布
		・アンケート調査実施
9月20日	和田路地祭	・案内所でパネル展示、チラシ配布
11月3日	若狭高浜ふぐ祭	・イベント本部にてパネル展示、チラシ配布
11月15日	ぷらっと Home 高浜収穫祭	・パネル展示、チラシ配布、アンケート調査

■町内イベントでのPR出展の様子



(若狭高浜花火大会 PR ブース)



(若狭高浜漁火想 PR ブース)



(和田路地祭 PR ブース)



(若狭高浜ふぐ祭り PR ブース)

⑧出向宣伝等における周知広報活動

観光協会は、その業務の一環として年間を通じて出向宣伝を行っている。昨年度に引き続き、この場を活用してブルーフラッグプログラムの存在と本町がその取得に向けて活動していることをPRした。

■町外におけるPR出展記録

日付	実施場所	主な取組み内容
8月2日	三方五胡パーキングエリア出向販売	パネル展示、チラシ配布
9月5日	船釣りフェスタ(ATC)	パネル展示、チラシ配布
9月22日	金沢市出向宣伝(金沢駅前)	パネル展示、チラシ配布
9月26日	京セラドーム出向宣伝	パネル展示、チラシ配布
9月26/27日	神戸市出向宣伝(デュオ神戸)	パネル展示、チラシ配布
10月17日/18日	ご当地キャラ祭 in 彦根でパネル展示	パネル展示、チラシ配布
10月22日	ゆるキャラ運動会(番組収録)	パネル展示
11月21日/22日	ドーンと福井 in 神楽坂	パネル展示、チラシ配布
11月28日/29日	名古屋テレビ塔下広場出向宣伝	パネル展示、チラシ配布

■町外における PR 出展の様子



ANTI-UE

ANT

(三方五胡 PA 出向宣伝)



(船釣りフェスタ PR ブース)



(金沢駅前出向宣伝)

(デュオ神戸出向宣伝)

9他地域との課題共有

国内で BF の取組みを最初に始めたのは湘南海岸(鎌倉市由比ヶ浜)であり、認証団体である FEE Japan の理事の多くを湘南海岸の関係者が占めている。また、民間主導のビーチクリーンを体系的に実施しているほか、神奈川県が設立した「公益財団法人かながわ海岸美化財団」による横断的な海岸清掃の仕組みがあること、毎年多くの海水浴客を誘致していること、国内でもいち早くビーチでの禁酒や禁煙、音楽の禁止を条例化するなど、多くの先進的な点がある。その一方で、日本海側と比較して、漂着ごみの内容や、気候風土、景観などが異なるため、今後国内の多様な海岸で BF 認証を普及させていく上で、性格の異なる両者の連携は、ノウハウの蓄積という点で大きな意味を持つと考えられる。

ここでは、同時期に認証取得を目指す仲間であり、また海岸の維持管理に関する先進地である湘南 ビジョン研究所と交流の場を持ち、課題を共有することで、これまで以上に連携を深めることをめざ した。

ア) 行程

●日 時 2015年11月7日(土)~8日(日) 1泊2日

※7日朝5:30 若狭高浜駅出発 5:40 頃和田観光協会出発

8日夜20:00頃 高浜町帰着予定

●内容 7日・湘南ブルーフラッグカフェ(13:30~16:00 建長寺にて)

・懇親会(大船駅前 いろは茶屋)

8日 ・環境教育プログラム体験(由比ヶ浜海岸)

その他

●参加者 8名

イ) プログラム

- ●1日目 11月7日(土)
- 13:30~ ブルーフラッグカフェ開会
- 13:35~ 海外から学ぶブルーフラッグの魅力 講師: Sophie Bachet Granados 氏
- ・14:45~ パネルディスカッション日本における鎌倉市・高浜町での「Blue Flag」取得に向けた取組み
- 15:45~ ブルーフラッグカフェ閉会
- •17:00~ 懇親会(大船駅前 いろは茶屋)
- ●2日月 11月8日(日)
- •10:00~ 集合 ビーチクリーン
- •10:40~ 湘南地域の海岸ごみの話(湘南クリーンエイド代表五十嵐実氏)
- 10:50~ 環境教育プログラム (FEE International Blue Flag Director が実施)
- 11::30~ ワークショップ 参加料:1000円 自由参加 (S-Nature 湘南ビーチグラス工房)
- 12::OO 解散

■ブルーフラッグカフェの様子





■ビーチクリーン





■環境教育プログラム ワークショップ





⑩ブルーフラッグ申請書の提出

2016 年春の FEE の国際審査委員会に申請するため、下記の申請業務を行った。なお、申請業務を進めるに際しては、国内の認証団体である FEE Japan と十分な協議と情報交換を行いつつ進めた。

この結果、2月11日の最終国内審査委員会を通過した。

●平成 27 年 5月31日 エントリー締め切り

●平成27年 6~8月 事前予備審査(仮申請書類による予備審査)

●平成27年9月30日 申請締め切り(正式版申請書類提出)

●平成27年 11月~1月 国内審査委員会 意見書に基づく申請書類の修正、追加

●平成28年2月11日 国内審査委員会(最終)

(4) 地方支援事務局への月次報告等

事業期間の7月~2月の各月において、当該月の新たに認識された課題、事業内容、会議、メディア掲載、特筆事項、支援事務局への要望等について、地方支援事務局が示す様式に従い、地方支援事務局に毎月5日までに報告した。

(5)3カ年の中期計画等の策定

3カ年の中期計画および事業の振り返り等を、地方支援事務局が示す様式に従い作成した。

(6) 連絡会、合同報告会、意見交換会への参加

①連絡会、意見交換会

課題の共有、事業の進捗の確認のため、地方支援事務局が名古屋市において開催する連絡会および中部地域関係者の交流会、意見交換会に、次頁表の通り参加した。

②合同報告会

全国の加速化事業関係者が東京に集まって開催される報告会に参加し、本年度事業の成果と3カ年の中期計画等を発表した。

■連絡会/意見交換会の参加記録

開催日•場所	協議内容	協働主体参加者
7月3日(金)	●目的は、各事業の今年度の目標達成のためにど	若狭高浜観光協会
13:30~16:30	のようなプロセスを組み立て、成果を上げよう	吉岡
	としているかを共有、意見交換する	高浜町まちづくり課
環境省中部地方環境事務	●採択された2つの事業を通しての意見交換を	米川
所	行う	
	●昨年の成果からどう展開しようとしているの	
	か、昨年の事業との相違は何かなどについて確	
	認する	
1月22日(金)	●平成27年度地域活性化に向けた協働取組の加	若狭高浜観光協会
10:00~16:30	速化事業「第2回連絡会」(10:00~11:00)	吉岡
	●平成27年度地域活性化に向けた協働取組の加	高浜町まちづくり課
ウィンク愛知会議室	速化事業「協働取組加速化のための意見交換会」	米川
	(11:00~12:00)	
	●MSHダイアログ(13:00~16:30)	
	• 事業紹介	
	• 問題提起	
	・ステークホルダートーク	
	・まとめ	

■合同報告会の参加記録

開催日•場所	協議内容	協働主体参加者
2月6日(土)	●環境教育等促進法に明記された「協働取組」を	若狭高浜観光協会
10:00~18:00	より加速化していくため、今年度の成果報告を	吉岡
	基に協働主体となる NPO/NGO、行政、企業、	高浜町まちづくり課
ベルサール西新宿	中間支援組織、専門家らが集い、理論と実践の	米川
	両方から学び、対話を深めていく	
	●今年度の採択事業の 1 年間の協働取組のプロ	
	ジェクトマネジメント評価を合同で行いつつ、	
	参加者間での協働プロセスについての価値共有	
	を目指す	

4. 事業の評価・分析

本事業の取組みについて、以下の7つの視点から評価分析する。

(1) 効率性

- 高浜町の海岸は、延長 8km にも及ぶ長い砂浜が続き、ステークホルダーも多岐に渡る。様々な利 害関係を調整することは困難であり、これまでも総論賛成各論反対という状況が多くみられた。こ れに対して、アジア初・国内初の国際認証を獲得するという目標は、多様な関係者が共有する獲得 目標としては分かりやすく、少なくとも従来と比較して協働を実現しやすい状況を生むことができ た。
- BF 認証に必要な環境教育プログラムの造成への取組みは、地元の和田公民館と協働して行った。 これにより、海水浴客だけでなく、地元の子供達が参加することとなり、開催後にヒアリングや改善点への意見について後追い調査ができた。ここから得られたノウハウは、来年度以降の環境教育プログラムの実施において効果的に活用できることが期待できる。

(2) 効果/目標達成度

- 平成 28 年 2 月 11 日に開かれた、FEE Japan による国内審査委員会において、若狭和田海岸 は各基準を見たし「合格」であると認められた。その結果、4 月に行われる国際審査委員会に送られることとなった。
- 本業務を実施するにあたり、当初掲げた実施目標に対する実績は、下表のとおりである。

項目	目標	実施	達成度	備考
安心・安全な海構築会議の開催	20	50	250%	夏期反省会含む
ブルーフラッグ推進部会の開催	3 🗆	80	267%	湘南交流会は含まず
勉強会の実施	20	20	100%	
環境教育プログラムの実施	5 🛮	60	120%	
シンポジウムの開催(集客数)	100人	62名	62%	
高浜町民の BF の認知度	70%超	82%	+12%	町内イベントにおけ るアンケート調査
他団体との交流会の開催	1 🗆	1 🗆	100%	鎌倉市 湘南ビジョン研究所他

(3) 関係主体の巻き込み度

・全体協議会である「安心・安全な海構築会議」では、前年度から引き続いて、観光関係者と漁業関係者、水難救助員/ライフセーバー、警察/消防/海上保安署、水上バイク事業者、地元区等の代表者等が一同に会し、海浜利用の規制誘導について具体的な協議を実施した。本年度は、昨年から引き続きの2年目ということで、より具体的な議論を進めることができ、例えば子供の水難事故の大

きな要因となっているシュノーケルについて、地元の浜茶屋では販売しない方針を固めるなど、具体的な方策に展開することができた。

- BF 認証の取得を目指す若狭和田海岸の地元である和田地区の関係者を中心に、「ブルーフラッグ 推進部会」を平成28年2月までの間に13回開催した(内、当該事業期間内は8回)。この会議 を母体にして、様々な関係者および関係団体が主体となってBF取得に向けた取組みが進められた。 この中から自発的な取組みが生まれ、例えば障がい児向け海水浴体験イベントを開催したり、地元 小学校における特別授業の実施、地元有志による読み聞かせ授業におけるBF紙芝居の実施など、 新たな取り組みが始まった。
- BF 認証の要件である、国際ライフセービング連盟による海水浴場の安全リスク評価の実施にあたっては、同連盟の日本代表機関である日本ライフセービング協会(JLA)に評価を依頼した。評価の結果は、基準を満たしているとされ、JLA が認定する認定海水浴場の日本第一号となった。このような取り組みを通じて、これまで感覚的に評価していた安全性について、国際的なノウハウを活かした客観的な評価を受けることができた。今後も JLA とは継続的に交流や技術指導を受けることができる体制を充実させ、より海水浴場としての安全性を高めたい。
- ・昨年度に引き続き、今年度事業においても地方支援事務局が、観光協会と行政を除く協働主体にヒアリング調査を実施し、事務局が十分に引き出せていない意向や意見を炙り出してくれることとなった。これらの意見は、安心・安全な海構築会議やブルーフラッグ推進部会の議事進行において、重要なアドバイスとして活用することができた。特に若狭和田ライフセービングクラブのメンバーにおいては、やや遠慮気味の姿勢から、より積極的に取組みを進めることとなったと感じられる。

(4) 関係主体の満足度

- ・今年度の獲得目標であった、BFの国内審査委員会の通過を果たせたことにより、BFの認証取得をひとつの目標に据えて活動してきた各関係主体は、一定の満足感を得ていると考えられる。
- ・町内の障がい者支援団体である NPO 法人「おひさま」は、本取組みを通じて若狭和田ライフセービングクラブとの関係を深め、障がい児向け海水浴体験のイベントを開催することができた。また、次の夏に向けて浜茶屋の関連商品化においては、消耗品の制作事業を獲得することができた。
- •観光事業者や一般地元住民には、まだ BF 認証取得のメリットが体感できる状況とはなっていない。 これに対して、4月に BF 認証を獲得できれば、その後使用可能となる BF のロゴマークを用いた 商品を展開し、主に観光事業における具体的な効果を作り出したい。またそれを活用し、事業者が 魅力的なサービスや商品を展開するための取組みを誘導したい。
- ・ブルーフラッグ交流会(シンポジウム・懇親会)において、東京都市大学佐藤真久先生より、高浜町のような小さな自治体がBF認証にチャレンジすること、またそれを協働の視点で取り組んでいることについて評価するコメントをいただいた。シンポジウムには町長および副町長も参加しており、当該事業の町内での評価を高める大きな機会となった。

(5) 社会的インパクト

• 高浜町における BF に関する取り組みは、取り掛かり当初は福井県からはほぼ黙殺状態であり、協働を依頼してもほとんど関心を示さなかった。それに対して、町内の盛り上がりや国内審査委員会の通過等を契機に、例えば県が主宰する観光会議の中に「ブルーフラッグ」の名前が僅かながら見られるようになるなど、少しずつではあるが関心を示し出している。

• BF 認証に興味を示す海岸や自治体が国内に広がっている。FEE Japan によると国内の複数の地域から問い合わせがあり、また高浜町役場および若狭高浜観光協会にも直接問合せがあるなど、B Fプログラム自体への関心が高まっている様子が伺える。

(6) 計画妥当性

- ・協働主体による自主的な活動が期待されるなか、事務局である行政(町)や観光協会の積極的な行動がかえって自主性を育む上での障害となっていた。これに対して、地方支援事務局によるヒアリングを通じて聞き出せた協働関係者の本音を受け止め、その自主性を支援するよう方向転換した。
- ・シンポジウム(ブルーフラッグ交流会)では、昨年度に引き続き集客に苦戦した。今年度は、昨年度の内容と比較して、協働関係者の代表者にパネルディスカッションのパネリストとして登壇してもらったことで、周囲の理解がやや進んだと評価されるものの、一般の住民のBFへの関心はまだまだ高くないと実感される。今後は、湘南海岸の取組みに学び、より小規模で気軽に人々が参加できるカフェ形式での運営を検討したい。湘南ビジョン研究所では、シンポジウムよりも小規模な集まりである「湘南ブルーフラッグカフェ」を毎月開催しており、主催者も参加者も無理なく多様な話題で意見交換をはかっている。

(7) 自立発展性

- BF の認証基準に準じた行動規範作りなど、認証取得をめざして行った活動の幾つかは、地元の関係者からは、上から規定されたものという印象で受け止められたものもあった。これに対して、地方支援事務局によるステークホルダーへのヒアリングが実施されたこと、地元説明会を丁寧に実施し少しずつ理解を得ていったことにより、自主的なルール作りが進む例がみられた。例えば、死亡事故の原因として多いシュノーケルについては、浜茶屋事業者にとっては利益率の高い商品であるにも関わらず、今後は販売自粛することが決定された。
- ・ 平成 28 年 4 月に開催予定の国際審査委員会での認証取得が実現すれば、それを祝うイベントを 開催する予定である。このようなイベントの計画には、既に住民等から自主的なアイデアが多く寄せられており、関心の高まりが伺える。
- 平成28年2月5日には、地元ライフセービングクラブのメンバーが中心になって、「ブルーフラッグ座談会」が開催された(110頁議事録参照)。これは、観光協会や行政が主催するものではなく、住民による自主的な意見交換会であり、より現場に近い住民の本音を聞き出す新たな機会となった。

5. 総 括

(1)協働を加速化した手法とその成果

本事業において、協働が加速化したと考えられる部分においては、次のような手法が有効であったと考えられる。

- ・既存の国際環境認証があり、それがアジア初、日本初の取得になるという、分かりやすい目標を掲げたこと。これにより、例えば具体的なルール作りなど、これまで総論賛成各論反対になりがちな議論を前進させることが出来た。
- BF の認証条件は、広い分野に及び、しかもそれぞれに具体的な基準を掲げていること。これにより、多様なミッションを持った団体や個人がそれぞれの獲得目標を持って取り組むことができ、かつ到達点を描きやすい状況がみられた。
- •「安心・安全な海構築会議」の運営を通して、町内の主な関係団体の長が直接意見交換する場を作ったこと。これを継続して開催することで、定期的に意見交換の場が出来、これまでより問題点をより初期段階で皆で共有し、またその対策も出来るところから実行に移すことができた。
- 同時に、関係団体の若手や直接現場に関わる人が参加する場として「ブルーフラッグ推進部会」を 作ったこと。これによって、若い人たちなど気軽に参加することが出来る場ができ、結果的にそこ から多様な取り組みが生まれた。
- FEE Japan との協議は主に観光協会が行う一方で、日本ライフセービング協会との協議は若狭和 田ライフセービングクラブに任せるなど、必要な協議やその対応を、能力や特性に応じて分担した こと。これによって、特に安全確保の面では、今後継続的に BF の認証審査を受けるための体制づ くりができた。
- 高浜町と同様に、認証取得を目指す湘南ビジョン研究所(鎌倉市由比ヶ浜)と交流会を設け、高浜の協働主体の皆さんに先進的な取組みを体感してもらったこと。このような先進的な他団体と交流することで、効果的な手法や優れた道具を導入できた。また、民間主導で積極的に取り組む人たちと交流することで、地元の協働主体が大いに刺激を受けた。
- ・協働主体が参加する会議を毎月行う一方で、地方支援事務局によって個々の関係者個人に対するヒアリングが実施されたこと。高浜町民の気質として、公の場ではあまり発言しないという傾向が強く、会議だけではなかなか本心が聞き出せていなかった。これに対して、地方支援事務所という第三者が客観的な視点で本音をうまく聞き出してくれたことで、以降の会議の進行について再考すべき点や、事業を推進する上での課題を把握することができた。
- 地方支援事務局が主催する連絡会/意見交換会に参加し、事業内容の報告と審査委員等からの意見をいただいたこと。2回開催された連絡会/意見交換会では、事業報告の視点や説明のポイントが十分に把握できていなかったこともあり、厳しいご意見を多くいただいた。その結果、事業を短時間で効果的にプレゼンテーションできる能力の必要性を改めて実感できただけでなく、取組みを説明していく上でのここで得られたことは、地元における住民説明や議会説明等で活用できた。また、客観的な疑問点を多く投げかけていただけたことで、町内向けの広報資料(各戸配布)作成においても活用することができた。

(2) 課題および反省点

今年度の取組みを通じて認識された課題および反省点としては、次のような事項が挙げられる。

- ・平成28年2月11日の国内審査委員会を通過することが出来たものの、4月に予定される国際 審査委員会に向けて、国内審査委員会より何点かの指摘を受けた。これらの事項については、国際 審査委員会までに確実に解決することが求められる。特に安全リスク評価で指摘された改善点については、対応の具体的なタイムスケジュールを示すよう指摘されており、地元ライフセービングクラブのメンバーと協働し、解決をはかりたい。
- ・本年度も昨年度に引き続き、BF 認証取得をテーマとしたシンポジウムを開催したが、集客数は少なく、目標の6割程度であった。本年度は、名称を「交流会」とし、登壇するパネリストを地域住民とするなど、親しみやすく住民の関心が高まるよう配慮したが、関係の深い町民が来場してくれたものの、一般住民の参加を得るまでにはいたらなかった。要因としては、シンポジウムのような難しい印象のあるイベントには、地元住民はなかなか参加しにくいという感情があることが考えられる。このため、今後は小規模な対話する機会を多く作っていくよう方針転換するとともに、住民説明会を多く開催した。住民説明会は、わざわざ機会を作るのではなく、既存の集会で時間を確保していただき、説明していくこととした。今後は、湘南地区のノウハウに学び、カフェ形式のイベントも実施していきたい。
- 地元住民団体の長が、BFの取組みに積極的に関わろうとしない姿勢は、今年度になってもあまり変わらなかった。それについて地方支援事務所によるヒアリングから、地元で役員などをしている方や順番で団体の長をされている方のこれを受けて、地元説明する際には、例えば浜の清掃であれば、BFへの取組みを通じて海水浴客にも参加してもらう機運を高めることにより、結果的に地元の負担が減るというような説明を行うこととした。今後も、地元の人々からみて、協働に参画する上で障害となっている意識を的確に把握することに留意したい。
- •BF 認証を取得することで、結果何を実現したいか、という説明については、昨年度から引き続き、 事業年度を通じて悩むこととなった。実際、説明する相手の属性や期待、世代が異なれば、ある人 には魅力的な獲得目標であっても、別の人には反対要因となる場合もある(例:観光事業者には出 来るだけ具体的な経済的なメリットを示すことが求められるが、一般住民は単なる「金儲け」であ れば協力できないと考えることなど)。当面は、これまで地元に説明してきた取得効果を、相手に よって変えながら説明することとなるが、今後は、FEE Japan とも協議の上、効果的な説明手法 を整理していきたい。
- BF 認証に係る状況としては、平成 28 年 3 月現在、国内審査委員会を通過し、最終の国際審査委員会の結果を待つ状態にある。この国内審査委員会の通過は、当初から大きなステップの一つとして考えており、実際多くの困難を乗り越えての通過であった。しかし、多くの関係者の中では、その困難を充分に共有できておらず、地元では、結果として簡単に通過してしまったという感想さえ聞かれる。こういった認証制度や表彰制度を、多くの関係者の協働を進めるツールとして活用する場合、一つ一つのステップを踏んで前進する様子を、出来るだけ詳細に皆で共有し、ステップアップを感動的に演出することも大切であると感じる。

□資 料

(資料 - 1)	協働取組カレンダー	42
(資料 - 2)	月次報告	44
(資料 - 3)	中期計画(簡易版)	52
(資料 - 4)	中期計画(詳細版)	54
(資料 - 5)	会議・協議 議事録	65
(資料 - 6)	ブルーフラッグ交流会計画書	118
(資料 - 7)	湘南ビジョン研究所交流会計画書	13C
(資料 - 8)	アンケート調査結果	132

■協働カレンダー ①事業の全体構成

ておらず、来訪者が美しい海を満喫できるような受入体制がない。その ため、BFの取得を地域の活性化に結びつけることができない。

記入日:2015年7月1日 記入者:若狭高浜観光協会 吉岡 久 |事業名:ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築| ②【WHAT】この取組で何をめざすか ①【WHY】この取組がなぜ必要なのか ③【GOAL】2016年2月までのゴールはどこか ・現状表面化している問題 最高の状態 ●昨年から引き続き、海岸維持管理体制の整備をめざして、 ●海の関係者による議論や、和田地区(認証取得を目指す和 I・BFの認証条件を全て満足し、2015年末のBF国内審査会を ビーチの国際認証ブルーフラッグ(以下BF)の認証取得をは |田海岸の地元)の関係者の協働を進め、認証条件を全て満足|通過すること かっているが、現状では地元の合意形成や具体的な取組み するために必要な状況を整えること。具体的には、下記の事 ・上記に関連する全ての事項で、地域で概ね合意が形成され が不十分なため、認証条件の一部を満足できていないこと 項が挙げられる ていること ●仮に認証を取得できても、現状では、取得の目的やめざす 環境教育プログラムづくりと、それを催行する体制づくり 認証を地域活性化に繋げる体制が概ね形成されていること べき効果が地域で共有されていないこと ・多様な利用者が共存するための行動規範づくり 望ましい状態 安心安全を確保するための体制および環境整備 ·BFの認証条件を2016年春までに全て満足する目処が立ち、 ・問題を放置した場合に想定される状況 2015年末のBF国内審査会を通過すること ●2016年春に、日本初の認証取得が実現できない ●認証取得をより地域の活性化に繋げるため、住民や事業者|・上記に関連する全ての事項で、地域で概ね合意が形成され 等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービス ●取得しても、地元で充分な合意形成ができないまま認証を ていること 取得することとなり、認証取得を継続できない づくり、人材育成、景観整備を進めること 確実に達成する状態 ●認証を取得した効果が十分に得られない BFの認証条件を2016年春までに全て満足する目処が立ち、 ●町内外で、BFに対する認知度を向上させること 2015年末のBF国内審査会を通過すること ④【HOW】 この取組で何をどのように進めていくか ⑤【WHO】誰とどのような関係性で協働するのか ⑥【WHO】誰がなんの役割を果たすのか |若狭高浜観光協会:海水浴場の申請者。高浜町とともに全体会議の事 若狭高浜観光協会 高浜町 務局、BFの申請者、認証取得に向けた事務作業等 ・昨年に引き続き、海の関係者が参加する「安心・安全な海構 高浜町:全体会議の事務局、海水浴場の管理運営全般統括 築会議」を開催し、主に行動規範づくりや水難事故対策を進 事務局(会議運営) 高浜町水難救助員会:海水浴場の安全確保を、主に海上から実施 める 若狭和田ライフセービングクラブ:海水浴場の安全確保を、主に砂浜側 安心・安全な海構築会議 ブルーフラッグ推進会議 ・上記会議と並行して、主に和田地区の関係者が参加する「ブ から実施。 (若狭和田海岸を対象) (町全体を対象) ルーフラッグ推進部会」を開催する。同部会では、BF認証条 |地元区/地区委員会:地元の合意形成、海浜の清掃、緊急時の行政支 件対応を通じて、環境教育プログラムづくり、ライフセーバーを ·高浜町水難救助員会 •若狭和田観光協会 町内海浜組合:浜茶屋(海の家)の経営、海水浴場の日常的な清掃、安 中心とする安全確保体制づくり、障がい者対応を含む環境整 若狭和田ライフセービンググラブ 若狭和田ライフセービンググラブ 地元区 ·和田地区委員会 全確保、AEDの管理、商品開発等 |備、広報PRを進めるほか、商品/サービスづくりや関連する人 若狭高浜漁業協同組合:密漁対策、海難事故時の協力 ·町内海浜組合 •和田海浜組合 材育成をはかる 警察、海上保安署、消防署:海浜および周辺の警備や違法者の摘発 •若狭高浜漁業協同組合 ·和田小学校/町教育委員会 ・シンポジウム開催や広報活動を通じて、町内外の人々にBF やまぼうしの会:地元の女性グループ 清掃活動等の実施 ·警察 やまぼうしの会 プログラムの普及をはかるほか、景観整備についての認識を NPOおひさま:障がい者視点から海水浴場の整備計画へのアドバイス •海上保安署 ・NPOおひさま 高める 和田小学校/高浜町教育委員会:環境教育プログラムの企画催行への 町内飲食店等事業者:BFにふさわしい新しい商品の開発 アドバイス FEE Japan: BFの認証取得活動の監修 FEE Japan ⑦【PROBLEM】事業実施における課題・懸念はなにか 8【IMAGE】課題・懸念が解決された状態はどのようなものか ⑨【SOLUTION】課題・懸念を解決するための対策はなにか 要素例)人員、財政、法・制度など (1)町内でのBFへの理解が高まり、行政や観光協会と住民が協働して 【(1)様々な機会を捉えて周知活動や説明会の開催等を行い、広報を行 将来に渡って継続できる、質の高い海の管理体制が構築される。その結 「う。対外的な広報PRを行う。環境教育プログラムを地元で開催したり学 (1)町内での盛り上がり/理解不足 BF認証を取得する意義が町民に十分理解されていない。BFはあくまで早として、BFの認証を継続的に取得できる。 校教育プログラムに組み込んでもらうことで、住民の環境に対する意識 と知識を高める。環境教育の指導者を育成する。 環境認証であり、町民が当事者意識を持たない限り、取得の効果は低 い。また、地域や国内全体でBFへの認知度が上がらないと、取得の効 (2)美しい海に代表される自然や、集落環境を敬愛してくれるようなお客 (2)海岸での行動規範を規定した「若狭高浜海のルールブック」の細部 様が増え、ゴミの不法投棄や迷惑行為などが減少する。また、町外の |項目を検討・充実する。ビーチの景観計画/コントロールを実施し、ビー 果が広がらない。 人々も海の管理体制に参画してくれる。 チおよびその周辺を質の高い空間とすることで来訪者の意識を高める。 (2)海水浴客のモラル低下 来訪者も参画する浜清掃や環境教育プログラムなど、多様な参画機会 近年、ゴミの不法投棄や迷惑行為など、モラルの低下傾向がみられ る。お客様の理解や協力がなければ、BF認証の継続的な取得は望めな (3) 浜茶屋や民宿、観光メニューなど、お客さまの受入体制が、質量とも を作る。 にBFにふさわしいものとなって、観光客等の満足度が高まり、消費単価 (3)若い事業者に、BF推進部会での議論や取り組みに参画してもらい、 も向上する。また、海岸における安全確保の設備や体制が充実してい |具体的なメニュー開発やそのPR活動を進める。ライフセーバーが常駐す (3)認証取得の効果が実感にしくい る監視所の設備や環境を充実する。 浜茶屋や民宿、観光メニューが質量ともに近年の観光ニーズに合致し

■協働カレンダー ②事業スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協働取組全主体 の連絡会・勉強 会・報告会の開 催		第1回連絡会(キックオフ)	3ヵ年の中期計画記 入フォームの提示			第2回連絡会		記入フォームの提出 (1月末予定)	報告会	
各協議会の開催		・BF推進部会(7/8) ・安心安全な海構築 会議(7/30)	·BF推進部会	·BF推進部会	・BF推進部会 ・安心安全な海構築 会議	·BF推進部会	·BF推進部会	·BF推進部会	*BF推進部会	
町外での広報普 及活動		•京丹波PA出向宣伝 (7/12)	・若狭高浜花火大会 PRブース(8/1) ・若狭高浜漁火想PR ブース(8/22)	出向宣伝(9/5)		•神楽坂出向宣伝 (11/22·23) •名古屋市出向宣伝 (11/28·29)				
町内での広報普 及活動		・BFのぼり、ポスター 制作と地元協力者へ の配布 ・浜清掃(随時)	・景観検計勉強会 (BF部会) ・浜清掃(随時)	・若狭路ハッピース マイル運動会PRブー ス(9/12) ・和田路地祭海遊び 体験会(9/20)	・BFシンポジウム (10/24) ・BFパンフレット、ポ スター制作					
来訪者の受入体 制整備		・アクティビティメニュー試験催行	・アクティビティメニュー試験催行	・若狭路ハッピース マイル運動会海遊び 体験プログラム (9/13) ・アクティビティメ ニュー試験催行						
人材育成			・環境教育プログラム等指導者育成勉強会			・関連他団体との交 流会	・環境教育プログラム等指導者育成勉強会			
その他		•FEE Japan現地視 察(7/11•12)				·BF国内審査会				

団体が記入し、毎月5日までに地域支援事務局に提出							
報告者	吉岡 久		報告日時	8月2日			
事業名	ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築						
団体名	若狭高浜観光協会						
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	●認証取得をより地域の活性化に繁けるだめ、住民や事業者等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービスづくり、人材育成、景観整備を進めること ●町内外で、BFに対する認知度を向上させ		事業実施の 開始時にお ける課題・懸 念(協働カレ ンダー⑦から 転記)	(1)町内での盛り上がり/理解不足 BF認証を取得する意義が町民に十分理 されていない。また、地域や国内全体でBF の認知度が低い。 (2)海水浴客のモラル低下 近年、ゴミの不法投棄や迷惑行為など、ヨラルの低下傾向がみられる。 (3)認証取得の効果が実感にしくい 浜茶屋や民宿、観光メニューが質量ともに近年の観光ニーズに合致しておらず、美し海を満喫できるような受入体制がない。			
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容		
	7月11日	ビーチラグビー大会PRブー		8月1日	花火大会PRブース		
	7月11~12日	ス		8月5日	環境教育プログラム(ビーチ		
	7月14日	FEE Japan現地調査			コーミング、星空観望会)		
	7月17日	第一回水質調査 ポスター/のぼり旗制作	来月の事業	8月11日	環境教育プログラム(川の生き物探し)		
人口の古世	7月19日		実施予定	8月2日/9日	三方五胡PA出向宣伝		
今月の事業 実施内容	7月25日	環境教育プログラム(ライフ セーバー体験)	(実施日が決まっていればお書きくださ	8月15日	密漁パトロール		
		密漁パトロール	い)	8月16日	勉強会(砂浜生物観察)		
		環境教育ブログラム(ライフ セーバー体験)		8月19日	環境教育プログラム(ライフ セーバー体験)		
				8月21日	環境教育プログラム(磯の生き物探し)		
				8月22日	漁火想PRブース		
	実施日	議題及び合意事項	+ = +	実施予定日	議題		
	7月3日	第1回連絡会	来月の会議 予定	8月26日	BF推進部会(交流会)		
今月の会議	7月8日	BF推進部会	(実施日が決まっていれば		安心・安全な海構築会議		
	7月29日	BF推進部会	お書きくださ い)				
	7月30日	安心・安全な海構築会議	0.7				
協働の進捗に 関する振り返り (新たに認識された課題・懸念 と解決の見通 し、その他計画 外の事柄等)	・同じくFEE Japanより、環境教育フロクラムについては、特に環境といっことで狭い範囲に拘らないよう指導を受けた。例えば浜での喫煙状況を調べるなど広い視野で継続できる取り組みを作って欲しいとのこと。また、海水浴客対象となっているが、地元の子供たちが対象でもよい。ともかく無理をしないで、出来る範囲で取り組んで欲しいとのこと。						
メディア掲載(掲載日、掲載紙面面、見出し等)	7月3日 朝日新聞(福井版)「優良ビーチで人波戻れ 高浜町が国際認証めざす」 7月12日 チャンネルO(地元ケーブルテレビ) FEE Japan現地調査 7月14日 NHKテレビ ニュースザウルス福井の中でBF特集 7月14日 FBCテレビ ワイド若狭の中でBF特集						
支援事務局への 要望	【連絡事項】 ・湘南ビジョン	研究所との交流会は、11月	7日/8日で催行	〒予定です 。			

団体が記入し、毎月5日までに地域支援事務局に提出							
報告者	吉岡 久		報告日時	9月1日			
事業名	ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築						
団体名	若狭高浜観光	冶協会					
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	●海の関係者による議論や、和田地区の関係者の協働を進め、認証条件を全て満足するために必要な状況を整えること。 ●認証取得をより地域の活性化に繋げるため、住民や事業者等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービスづくり、人材育成、景観整備を進めること ●町内外で、BFに対する認知度を向上させ		事業実施の 開始時における課題・懸念(協働カレンダー⑦から(3)認証取得の効果が実 転記)		导する意義が町民に十分理解また、地域や国内全体でBFへい。 Dモラル低下 不法投棄や迷惑行為など、モ 可がみられる。 D効果が実感にしくい G、観光メニューが質量ともに ーズに合致しておらず、美しい		
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容		
	8月1日	若狭高浜花火大会PRブース		9月5日	密漁パトロール		
	8月5日	環境教育プログラム(ビーチ コーミング、星空観望会)		9月5日	 ハッピースマイルin高浜(ハン ディキャップを持つ子供たち の自然体験)		
	8月11日	環境教育プログラム(川の生き物探し)		9月20/21日	和田路地祭PRブース		
	8月12日	環境教育プログラム(流星群 観察会)		9月22日	金沢出向宣伝		
1 1 3 1 1	8月2日/9日	三方五胡PA出向宣伝	来月の事業	9月26/27日	神戸出向宣伝		
実施内容	8月15日	密漁パトロール		9月月26日	東京ドーム出向宣伝		
	8月16日	勉強会(砂浜の生物観察)					
	8月19日	環境教育プログラム(ライフ セーバー体験)					
	8月21日	環境教育プログラム(磯の生き物探し)					
	8月22日	漁火想PRブース					
	8月25日	和田地区盆踊りPRブース					
	実施日	議題及び合意事項		実施予定日	議題		
今月の会議	8月23日	日本ライフセービング協会打 合せ	来月の会議 予定	9月8日	安心·安全な海構築会議 (懇親会)		
	8月26日	BF推進部会(交流会)		9月16日	BF推進部会		
	8月31日	安心・安全な海構築会議					
協働の進捗に 関する振り返り	・BF認証基準のひとつである「安全リスク評価」の作成を委託している、日本ライフセービング協会の担当者が、8月23日に現地調査を実施。今後は、内部委員会の評価検討等を経て、10月中にはとりまとめ完成予定。						
メディア掲載(掲載日、掲載紙面面、見出し等)	・FBCラジオ 「良一い ドン!!」の「わかさホット直送便」番組内で、ブルーフラッグについて電話インタ ビューを受ける						
支援事務局への 要望	・8月12日に予	連絡事項】 11月7日の湘南ビジョン研究所との交流会には、FEEの国際審査員が参加予定です。 8月12日に予定されていた環境教育プログラム(流星群観察会)は、雨天の為中止。 シンポジウム開催が、10月17日(土)に変更になりました。					

報告者	吉岡 久	也以文版争粉向1∼提出	報告日時	10月3日				
事業名	ブルーフラック	ブ認証取得活動を通じた海岸						
団体名	若狭高浜観光	· 狭高浜観光協会						
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	●海の関係者による議論や、和田地区の関係者の協働を進め、認証条件を全て満足するために必要な状況を整えること。 ●認証取得をより地域の活性化に繋げるため、住民や事業者等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービスづくり、人材育成、景観整備を進めること ●町内外で、BFに対する認知度を向上させ		事業実施の開始時における課題・懸念(協働カレンダー⑦から転記) されていない。また、地域の認知度が低い。(2)海水浴客のモラル低近年、ゴミの不法投棄やラルの低下傾向がみられ(3)認証取得の効果が実転記) されていない。また、地域の認知度が低い。また、地域の認知を表して、強力を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表していない。また、地域の認知を表している。また、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は		导する意義が町民に十分理解また、地域や国内全体でBFへい。 のモラル低下 不法投棄や迷惑行為など、モ 向がみられる。 の効果が実感にしくい 旨、観光メニューが質量ともに ーズに合致しておらず、美しい			
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容			
	9月5日	密漁パトロール		10月17日	ブルーフラッグ交流会(シン			
	9月5日	ハッピースマイルin高浜(ハン ディキャップを持つ子供たち の海体験)			ポジウム)			
	9月5日	船釣りフェスタ2015PRブース						
ムロの声響	9月20/21日	和田路地祭PRブース	本日の声響					
今月の事業 実施内容	9月22日	金沢出向宣伝	来月の事業 実施予定					
	9月26/27日	神戸出向宣伝						
	9月月26日	京セラドーム出向宣伝						
	9月29日	ブルーフラッグ申請書提出						
	9月30日	和田地区委員会·地元説明 会						
	実施日	 議題及び合意事項		実施予定日	 議題			
	9月8日	安心・安全な海構築会議	±□∞△≅	10月20日	ブルーフラッグ推進部会			
今月の会議		(懇親会)	来月の会議 予定	10月28日	夏期反省会(全体会議)			
	9月16日	ブルーフラッグ推進部会						
協働の進捗に 関する振り返り					1			
メディア掲載(掲 載日、掲載紙面 面、見出し等)	9月4日 福井新	所聞 社説 海の認証目指す高	浜町					
支援事務局への 要望	【連絡事項】							

団体が記人し、毎月5日までに地域支援事務局に提出							
報告者	吉岡 久		報告日時	11月4日			
事業名	ブルーフラック	ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築					
		吉狭高浜観光協会					
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	●海の関係者による議論や、和田地区の関係者の協働を進め、認証条件を全て満足するために必要な状況を整えること。 ●認証取得をより地域の活性化に繋げるため、住民や事業者等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービスづくり、人材育成、景観整備を進めること ●町内外で、BFに対する認知度を向上させ		事業実施の 開始時にお ける課題・懸 念(協働カレ ンダー⑦から 転記)	(1)町内での盛り上がり/理解不足 BF認証を取得する意義が町民に十分到されていない。また、地域や国内全体でEの認知度が低い。 (2)海水浴客のモラル低下 近年、ゴミの不法投棄や迷惑行為など、ラルの低下傾向がみられる。 (3)認証取得の効果が実感にしくい 浜茶屋や民宿、観光メニューが質量とも近年の観光ニーズに合致しておらず、美海を満喫できるような受入体制がない。			
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容		
	10月17日	ブルーフラッグ交流会(シン		11月3日	若狭高浜ふぐ祭りPRブース		
	10月17~18日	ポジウム) ご当地キャラ博in彦根におい て、PR		11月7~8日	湘南ビジョン研究所との交流 会		
	10月18日			11月15日	まちの駅収穫祭PRブース		
今月の事業 実施内容		FEE Japan申請書確認と現地 確認	来月の事業 実施予定	11月21~22日	名古屋出向宣伝		
	10月30日	ゆるキャラ運動会(福井テレ ビの番組収録)においてPR		11月22~23日 11月29日	東京神楽坂商店街出向宣伝		
		FEE Japanからの指示の対応 について、福井県立大富永 先生と協議			勉強会(プロジェクトWET指導 者講習会)		
	実施日	議題及び合意事項		実施予定日	議題		
	10月20日	夏期反省会(全体会議)	来月の会議	11月25日	ブルーフラッグ推進部会		
今月の会議	10月28日	ブルーフラッグ推進部会	予定				
協働の進捗に 関する振り返り							
メディア掲載(掲 載日、掲載紙面 面、見出し等)	10月18日 福井	·新聞 安心な海認証「ブルー)	フラッグ」 高浜で	でシンポ			
支援事務局への 要望							

報告者	吉岡 久	也攻文援事務局に提出	報告日時	12月2日			
事業名							
団体名	若狭高浜観光協会						
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	●海の関係者による議論や、和田地区の関係者の協働を進め、認証条件を全て満足するために必要な状況を整えること。 ●認証取得をより地域の活性化に繋げるため、住民や事業者等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービスづくり、人材育成、景観整備を進めること ●町内外で、BFに対する認知度を向上させ		事業実施の開始時における課題・懸念(協働カレンダー⑦から転記)	別始時にお (2)海水浴客のモラル低下 近年、ゴミの不法投棄や迷惑 (協働カレ ダー⑦から (3)認証取得の効果が実感に			
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容		
	11月3日	若狭高浜ふぐ祭りPRブース		12月4日	和田地区委員会地元説明		
	11月7~8日	湘南ビジョン研究所との交流 会			勉強会(プロジェクトWETファ シリテーター講習会)		
	11月15日	まちの駅収穫祭PRブース		12月13日	和田三区区長会地元説明		
今月の事業 実施内容	11月21~22日	東京神楽坂商店街出向宣伝	来月の事業 実施予定				
	11月28~29日	名古屋テレビ塔下広場出向 宣伝					
	11月29日 11月30日	勉強会(プロジェクトWET指導 者講習会) 和田観光協会総会説明					
	実施日	議題及び合意事項		実施予定日	議題		
	11月25日	ブルーフラッグ推進部会	来月の会議	12月11日	安心安全な海構築会議		
今月の会議			予定	12月17日	ブルーフラッグ推進部会		
協働の進捗に 関する振り返り	・11月8~9日の湘南との交流会には、認証団体FEEの国際部長が参加され、ブルーフラッグの最新の情報をプレゼン・11月29日に、昨年に引き続きプロジェクトWETの指導者講習会を実施し、新たに13名の指導者を育成した。12月13日には、これに加えて同じくプロジェクトWETのファシリテーター講習に高浜町から2名が参加する。これにより、今後は指導者講習会を町内だけで随時開催できる体制ができる。						
メディア掲載(掲 載日、掲載紙面 面、見出し等)							
支援事務局への 要望							

		也域支援事務局に提出	+= // -+	l. = - =			
報告者	吉岡 久		報告日時	1月5日			
事業名		ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築					
団体名		若狭高浜観光協会					
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	●認証収得をより地域の活性化に繋げるにめ、住民や事業者等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービスづくり、人材育成、景観整備を進めること ●町内外で、BFに対する認知度を向上させ		事業実施の 開始時にお ける課題・懸 念(協働カレ ンダー⑦から 転記)	(1)町内での盛り上がり/理解不足 BF認証を取得する意義が町民に十分理解されていない。また、地域や国内全体でBFへの認知度が低い。 (2)海水浴客のモラル低下 近年、ゴミの不法投棄や迷惑行為など、モラルの低下傾向がみられる。 (3)認証取得の効果が実感にしくい 浜茶屋や民宿、観光メニューが質量ともに近年の観光ニーズに合致しておらず、美しい海を満喫できるような受入体制がない。			
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容		
	12月4日	和田地区委員会地元説明		1月10~11日	FEE Japan第2回国内審査会		
	12月6日	和田海浜組合地元説明					
	12月12~13日	勉強会(プロジェクトWETファ シリテーター講習会)					
A	12月13日	和田三区区長会地元説明					
今月の事業 実施内容	12月15日	FEE Japan協議(国内審査会 の指摘事項への対応につい	来月の事業 実施予定				
	12月15日	て) 安全リスク評価報告受領 それに伴い、日本ライフセー バー協会認定海水浴場に若 狭和田海水浴場が認定					
	実施日	議題及び合意事項		実施予定日	議題		
	12月11日	安心安全な海構築会議		1月22日	第2回連絡会/ステークホル		
今月の会議	12月17日	ブルーフラッグ推進部会	来月の会議 予定	1月26日	ダーダイアログ 安心安全な海構築会議		
				1月27日	ブルーフラッグ推進部会		
協働の進捗に 関する振り返り	・BFの認証基準にある「しかるべき団体による安全リスク評価を受けること」に対応し、日本ライフセービング協会に評価の実施を依頼してたものを、12月15日に受領しました。評価書を申請図書に添付するとともに、指摘されたリスクに対する対応方策を整理し、2月までにFEE Japanに提出予定。・上記評価を受けて、同協会による「認定海水浴場」に認定されることとなった(国内初)。						
メディア掲載(掲載日、掲載紙面面、見出し等)							
支援事務局への 要望							

		也域支援事務局に提出	+= //+	I. = - =	1	
報告者	吉岡久		報告日時	2月5日		
事業名	ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築					
団体名	若狭高浜観光協会					
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	●総証取得をより地域の活性化に繋げるにめ、住民や事業者等の関係者の協働をはかり、広報PRや新しい商品/サービスづくり、人材育成、景観整備を進めること ●町内外で、BFに対する認知度を向上させ		事業実施の開始時における課題・懸念(協働カレンダー⑦から転記)	(1)町内での盛り上がり/理解不足 BF認証を取得する意義が町民に十分理解されていない。また、地域や国内全体でBFへの認知度が低い。 (2)海水浴客のモラル低下 近年、ゴミの不法投棄や迷惑行為など、モラルの低下傾向がみられる。 (3)認証取得の効果が実感にしくい 浜茶屋や民宿、観光メニューが質量ともに近年の観光ニーズに合致しておらず、美しい海を満喫できるような受入体制がない。		
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容	
	1月10~11日	FEE Japan第2回国内審査委 員会		2月5日	ブルーフラッグ座談会(ライフセーバーによる住民説明会)	
	1月27日	パンフレット「若狭高浜の海 にブルーフラッグを立てよう」 完成		2月11日	FEE Japan最終国内審査委 員会	
今月の事業 実施内容		元以	来月の事業 実施予定	2月下旬	町内小学校でのパンフレット 配布	
	実施日	議題及び合意事項		実施予定日	議題	
	1月22日	第2回連絡会/ステークホル		2月6日	協働ギャザリング2016	
今月の会議	1月26日	ダーダイアログ 安心安全な海構築会議	来月の会議 予定	2月17日	ブルーフラッグ推進部会	
	1月27日	ブルーフラッグ推進部会				
協働の進捗に 関する振り返り	FEEによる国際	審査委員会の開催日が、4月1	3日に決定			
メディア掲載(掲 載日、掲載紙面 面、見出し等)						
支援事務局への 要望						

団体が記人し、毎月5日までに地域支援事務局に提出								
報告者	吉岡 久		報告日時	3月4日				
事業名	ブルーフラック	が認証取得活動を通じた海が	岸維持管理体質	制の再構築				
団体名		若狭高浜観光協会						
この取組で何を めざすか(協働 カレンダー②か ら転記)	係者の協働を述るために必要なる ●認証取得をあめ、住民や事業り、広報PRや親材育成、景観整	こよる議論や、和田地区の関 生め、認証条件を全て満足す は状況を整えること。 より地域の活性化に繋げるた き者等の関係者の協働をはか 行しい商品/サービスづくり、人 を備を進めること Fに対する認知度を向上させ	事業実施の開始時における課題・懸念(協働カレンダー⑦から転記)	(1)町内での盛り上がり/理解不足 BF認証を取得する意義が町民に十分理解 されていない。また、地域や国内全体でBFへ の認知度が低い。 (2)海水浴客のモラル低下 近年、ゴミの不法投棄や迷惑行為など、モ ラルの低下傾向がみられる。 (3)認証取得の効果が実感にしくい 浜茶屋や民宿、観光メニューが質量ともに 近年の観光ニーズに合致しておらず、美しい 海を満喫できるような受入体制がない。				
	実施日	実施内容		実施予定日	実施内容			
	2月5日	ブルーフラッグ座談会(ライフ		3月4日	和田地区委員会住民説明			
		セーバーによる住民説明会)		3月上旬	町内小学校でのパンフレット			
	2月11日	FEE Japan最終国内審査委 員会			配布			
		兵五						
今月の事業 実施内容			来月の事業 実施予定					
美旭內谷			天旭丁庄 					
	実施日	議題及び合意事項		実施予定日	議題			
	2月6日	協働ギャザリング2016]	3月8日	安心・安全な海構築会議			
今月の会議	2月17日	ブルーフラッグ推進部会	来月の会議 予定	3月9日	ブルーフラッグ推進部会			
協働の進捗に 関する振り返り	FEE Japanによる国内審査委員会が2月11日に開催され、若狭和田ビーチは審査を通過し、4月の国際審査委員会に推薦されることとなった。							
メディア掲載(掲 載日、掲載紙面 面、見出し等)	2月12日 福井新聞 高浜町国内審査通過							
支援事務局への 要望								

		.,		
記入者:吉岡 久	(③【GOAL】2018年度末までのゴールはどこか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・望ましい状態 町内での意識が徐々に上がり、新たな関連活動に参加する人も増えて いる。認証を活用したサービスや商品は、観光協会が主体になって進か るものに加え、民間にも少しづつ広がりをみせている。 ・確実に達成する状態 安全面やバリアフリーの面で国内の先進的な海水浴場となる。また夏 以外のシーズンも浜茶屋の一部営業や観光サービスが広がっている。	⑥【WHO】誰がどのような役割を果たすのか 高浜町:全体会議の事務局を担い、海をナーマにしたまちづくりを主導する。 者狭高浜観光協会町と七もに全体会議の事務局を担う。海水浴場の管理者として、BFの継続的な取得とその活用をはかり全体調整を担う。 高浜町水難救助員会:海水浴場の安全確保を、主に海上から行う。 高浜町水難救助員会:海水浴場の安全確保を、主に海上から行う。 高浜町水難救助員会:海水浴場の安全確保を、主に海上から行う。 古狭和町海ブイレービングラブ:海水浴場の安全確保を、主に砂浜側 から行う。様々な体験プログラム等を実施する。 地元区:定期的に海浜の清掃を行うほか、緊急時には行政等の対策に 協力する。 若狭和田海浜組合:浜茶屋(海の家)を経営を通じて、海水浴場の日常 的な清掃や安全確保、AEDの管理、お客様の対応等を行う。 若狭高汗流準域同組合:主に密漁対策を行うとともに、海戦事故等の際 には関係各者と協働する。 警察、海上保安署、消防署:法に基づき海浜および周辺の警備や違法 者の摘発を行う。	(1) [SOLUTION] 課題・懸念を解決するための対策はなにか(1)環境教育を推進すること 学校教育においてカリキュラムとして恒常的に実施される状況をめざった まずは特別授業や遠足などで導入を進める。そのためFEEのプログラムやプロジェクトWETなどの指導者を育成する。 (2) 水難事故となくすこと 水難救助員やライフセーバーを増強するとともに、安全リスク評価に基づく対策を確実し、全力として「一を増強するとともに、安全リスク評価に基づく対策を確実してありませ、「一大に一手か」ましての景観整備を進める。同時に浜茶屋のデザインやメニューなども、人々のニーズに合わせ、通年で営業できるような店舗の立地を誘導する。海のアケイビディメニュー等を充実させ、地域の人々が収益事業として取り組める環境づくりを進める。
管理体制の再構築 記入日:2016年1月25日	(②[WHAT]この取組で何をめざしますか・2016年時点・2016年時点 4月の正式な認証取得を実現する。これを契機として、環境教育の普及 4月の正式な認証取得を実現する。これを契機として、環境教育の普及 や、観光等の受け入れ態勢の充実(海のアクティビティメニューの提供、宿や浜茶屋の魅力づくりなど)を進めること。また、BFIC前向きな国内の他地域の方々と交流を進めること。	201740 中部品 上記2016年の取組みの継続に加えて、環境教育プログラムの面で学校教育との連携をはかること。また、町内でサインデザインや海沿いの建物等のコントロールなど景観整備を進めること。 2018年時点前年度の取組みの継続に加えて、国体開催(高浜町はセーリングとトライスロンの会場)について、地域を挙げて受入体制を充実させ、BFビーチの存在感をPRすること。	⑤[WHO] 誰とどのような関係性で協働するのか - *******	 ⑧[IMAGE]課題・懸念が解決された状態はどのようなものか(1)環境教育を含めて町内で様々な環境教育プログラムが行われ、町民、学校教育を含めて町内で様々な環境教育プログラムが行われ、町民、特に子供の海への関心や郷土愛が高まる。海水浴客にとっても、子供を通じてマナーが向上する。 (2)水難事故による死亡者がいなくなる水難事故が起きないような体制や仕組みができる。また仮に起きても教助教命措置が的確に行われる。 (3)地域にビーチカルチャーが広がる海をデーマとした魅力的な空間やサービスが充実し、年間を通じて魅力的な観光地となる。その結果関連産業が魅力的な職業となる。
事業名:ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理	①[WHY]この取組がなぜ必要なのか・現状表面化している問題 ・現状表面化している問題 海浜の維持管理体制つくりや来訪者のマナー向上、環境教育の普及をめざしてブルーフラッグの取得をめざしていているが、まだまだ住民や関係者の理解が不十分であり、またこれを活用しようという意欲が低い。このままでは認証取得できてまるか知。日にやいーだスートが懸今される	りての効果はRXをJJIによることが窓ぶられる。 ・問題を放置した場合に想定される状況 認証取得は、一部の住民や事業者によって活用されるだけ となり、取得を契機に集まった注目や期待を活用できないこと となる。また環境教育も定着せず、地域全体で海に対する関 いを高めることができない。これらの結果、継続的に認証を取 得しつ続けることが出来ない。(注:BF認証は毎年更新)	(4)[HOW] この取組で何をどのように行うか -2016年 -2016年 国内第一号のブルーフラッグ認証を取得する。「安心・安全な海構築会議」と「BF推進部会」の両輪による推進体制は継続しつつ、より具体的な議論を行う推進部会において、事業者や関係団体などより多くの参加を促し、BFをまちづくりに活用する方策を検討、推進する。 -2017年 前年度の取組みをさらに地域全体で広げるように、特に環境教育プログラムについて、学校教育を含めて実施機会を積極的に作る。また、町内全域を対象に、美しいビーチにふさわしい都市景観整備についての議論を広げる。 前年度の取組みをさらに地域全体で広げる。	①[PROBLEM]事業実施における課題・懸念はなにか要素例)人員、財政、法・制度など 要素例)人員、財政、法・制度など BF認証を活用して(1)環境教育を推進すること(2)水難事故をなくすこと(3)ビーチカルチャーを育むこと

	屈	双																																																																	
懸	13み ビスやii **	●関係者による協議会の運営 ●町内での普及、広報活動、関連サービスや商品 の開発支援等観光魅力の拡大 ●ビーチを活用したイベントの開催 ●ビーチを活用したイベントの開催 ●町外での広報活動、営業活動 ●水難救助員、ライフセーバーの増強 日標: ・環境教育プログラムの充実と学校教育への波及 ・町内外でのBFの認知度の向上 ・町内外でのBFの認知度の向上 ・国内のBF取得地域との連携 ・BF取得を活用した観光サービスの強化 ・町内の景観整備、コントロール ・水難事故の防止		育への鴻		育への源		:育への派		育への派		育への選択		育への泳池		育への湯		育への選供		育への演		:青への派針:		育への減能		.育への涙		育への法		育への鴻		s 女育へのii 強化		女育への)。 歯化		育への遊艇		育への選ば		育への泳代		育への泳げ		:青への渓		χ育への 強化		が育 への) 強化		が 数章への 強化 強化		数育への) 強化		が 教育への 海 地域化		が育への) 強化											国内審査会
2018年の事業内容・目標	業内容: BF認証基準を満足するための取組み BF認証基準を満足するための取組み 関係者による協議会の運営 III 所での普及、広報活動、関連サーに 開発支援等観光魅力の拡大 II 一子を活用したイベントの開催 II サベの広報活動、営業活動 NY 業教助員、ライフセーバーの増強			10月~								会 六	H																																																						
:の事業[の事業 足するた をの運 数条の運 をかり が にイベント で が で が で が が が が が が が が が が が が が	ムの充実 窓知度の1 或との連打 観光サーコントローントロートロー	2018年度	10							各種プログラム催行	セービング大会 各種スポーッ大会 ● 海開きイベント																																																							
2018年	業内容: Br認証基準を満足するための助関係者による協議会の運営町内での普及、広報活動、関連・明発支援等観光魅力の拡大に一子を活用したイベントの開催町外での広報活動、営業活動町外での広報活動、営業活動水難救助員、ライフセーバーの増	プログラ のBFの記 * 取得地が ・ 活用した 観整備、 ・ の防止		7月~							4種プログ	ライフセービング大会 ● 各種スポーツオ ● 海開きイベ	BF期間																																																						
	● 業内容: ● BF認証: ● 関係者に ● 可開発方 の 開発支持 ● にーチを ● エーチを ● 財子での	目標: ・環境教育プログラムの充実と学・町内外でのBFの認知度の向上・国内のBF取得地域との連携・BF取得を活用した観光サービン・町内の景観整備、コントロール・水難事故の防止		月~							ŔΠ	ナト	国際総会																																																						
		ш	l	4																																																															
	品の開発	●		1月~					(随時)		,		国内審査会																																																						
-田標	目標スク商品		丰度	10月~		連絡協議会の運営(随時			、説明会(随時)			きたがまか	<u>m</u>																																																						
2017年の事業内容・目標	の取組み 引連サーに 開催 動		2017年度	~		議会の運			月開催)		各種プログラム催行 	ライフセービング大会 ● ● 各種スポーツ大会 ● 海開きイベント																																																							
7年の事	するため ※の運営 ※活動、間 ベントの では業活			7月~		連絡協			推進部会(毎月開催			(フセート 各種)	BE期間																																																						
201	権を満足 たる協議会 等及、広幸 り拡大 汗にたイ に報活動、 に報活動、			4月~					推須			ı, •	国際総会																																																						
	事業内容: ●BF認証基準を満足するための取組み ●関係者による協議会の運営 ・町内での普及、広報活動、関連サーに 等観光魅力の拡大 ・ビーチを活用したイベントの開催 ・町外での広報活動、営業活動 ・町外での広報活動、営業活動	目標: ・環境教育プログ・ ・町内外でのBFの ・国内のBF取得地 ・BF取得を活用し ・町内の景観整備・ ・小難事故の防止									·		松																																																						
-	➡●●●郷●●●	E 標頭町国・ ・ ・ 場内内 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		1月									国内審查会																																																						
	や商品の	の波及	6年	10月~								会 大 × 会 ナ × か																																																							
7. 田標	2016年の事業内容・目標 事業内容: ●BF認証基準を満足するための取組み ●BF認証基準を満足するための取組み ●関係者による協議会の運営 ●町内での普及、広報活動、関連サービスや商品の開 発支援等観光魅力の拡大 ●ビーチを活用したイベントの開催 ●町外での広報活動、営業活動 ●町外での広報活動、営業活動 ・所難救助員、ライフセーバーの増強 日標: ・野認証を安定して獲得できる体制づくり ・環境教育プログラムの充実と学校教育への波及 ・町内外でのBFの認知度の向上 ・国内のBF取得地域との連携 ・BF認証を存起した観光サービスの強化 ・WF は、中で、FF を表表を表表を表表を表表を表示	づくり 数育への 数音への 数音	2016年	₹							各種プログラム催行	ライフセービング大会 ● 各種スポーツ大会 ● 海開きイベント																																																							
業内容		きる体制 実と学校:)向上 !携 一ビスの		7月							各種プロ	イフセー 一	会 昨期間																																																						
16年の事	業内容: Br認証基準を満足するための取関係者による協議会の運営町内での普及、広報活動、関連4支援等観光をエチを活動して・デーチを活用したイベントの開催町外での広報活動、営業活動が戦敗則員、ライフセーバーの増	目標: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		4月~								IĻ ■	国際総会																																																						
201	に基準を注明できるが、10年のが、10年ので、10年ので、10年ので、10年ので、10年ので、10日ので	による別の の の の の の の の の の の の の の			# 1,4	単世や3		邻	狐	派	 	が悪	文得																																																						
	華●●●発●両ととと、といるとは、また、といるとは、といるといるといる。また、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	目標: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· T# _/	17期計画	-{ -{ -{ -{ -{	女心女ゴは海侮簭令講	<u> </u>	BF推進部会	地元説明会	高見公抄	環境教育 体験メニュ-	関連イベント開催	BF認証取得																																																						

「平成27年度 地域活性化に向けた協働取組の 加速化事業」 中期計画シート(詳細版)

ブルーフラッグ認証取得活動を通じた 海岸維持管理体制の再構築

2016年2月7日

請負契約の受託 団体の法人名	一般社団法人 若狭高浜観光協会
受託団体の代 表者氏名	会長 大角一馬

目 次

- 1 組織概要
- 2 地域の課題
- 3 協働取組の概要
- 4 3年後のゴールイメージ
- 5 理想とする協働主体の関係図
- 6 2018年度の目標・事業内容・スケジュール
- 7 2017年度の目標・事業内容・スケジュール
- 8 2016年度の目標・事業内容・スケジュール
- 9 事業実施における課題・リスクと対策

1 組織概要

法人名	一般社協会	団法人	若狭高渊	兵観	光	代表者	,	会長 大角 一馬			
所在地	〒919			大っ	_	電話	(0770(72)0338			
川土地	福开県: 1-8	福井県大飯郡高浜町宮崎77- └-8				FAX	7	0770(72)	0774	ļ	
ホームページ	http://www.wakasa- takahama.jp/					e-mail	i	info@waka	asa-t	akahama.jp)
	役員		2	22	名	会員				153	名
組織体制	専従者			5	名	ボランテ	ィア			0	名
	パートタイ	1		7	名	その他()			名
	創立年		í	50	年	法人設:	立年	<u> </u>		4	年
これまでの活動実績	昭和29年 高浜町商工会観光部から独立して「高浜町観光協会」発足 平成21年10月1日 一般社団法人化「若狭高浜観光協会」に名称変更 毎年 砂浜の清掃活動を実施(海水浴場開設期間中は、毎朝実施) 毎年 町内のイベント「漁火想」等でのゴミ拾いプログラムの催行 毎年 各海水浴場でごみ袋を配布 その他 支部組織が海水浴場のトイレ清掃等の日常的な管理を行う										
過去5年間 に受けた補 助金等の 名称及び 金額	16,000=	千円/年						人件費とし 戈金はなし		浜町より	
	事業名	ブルー [・] 築	フラッグ言	認証	取得	活動を通	じた	:海岸維持	管理	関体制の再	構
事業地域	該当地 域		口全	主国				l	■地:	方	
	事業実 施地域	福井県	福井県大飯郡高浜町								
事業分野		□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	】 素社会	í	[盾環型] 민社会	自	□ 然共生社	会	■そのf (也)

2 地域の課題

現在表面化している問題

- ●これまで観光事業者が主に担ってきた、海岸清掃やトイレ、遊歩道等の施設 管理など、海岸の維持管理について、近年は、海水浴客の減少や、観光事業 者の減少・高齢化等を理由に、立ち行かなくなりつつある。
- ●水上バイクや砂浜の不法占拠等の問題が顕在化しており、町では「高浜町の 海岸を守り育てる条例」「若狭高浜海のルールブック」を制定し、継続的に規制 誘導や行動規範を示していく予定である。しかし、規制の具体的な内容につい ては、関係者によって意識が異なり、合意形成がはかりにくい。
- ●海水浴客の減少によって観光産業が衰退し、地域の活力が失われつつある。
- ●上記の対策の一つとして、ビーチの国際環境認証ブルーフラッグ(以下BF)の取得をめざしているが、住民の理解や協働の広がりが十分ではない。

問題を放置した場合に想定される状況

海浜の管理が不十分になるとともに、上記の問題行為がさらに増加する。その結果、地域資源としての海浜の価値が下がり、観光産業がますます減退する。さらには住民の我が町への愛着が低下する。またBFを取得できたとしても、その効果が限定的となる。

該当地域の社会的・地域的背景

- ●本町は、1970年代から海水浴でにぎわい、最盛期には一夏で120万人が訪れた。現在は16万人と衰退しているが、休業中も含めて民宿などがいまだに数多くあり、その活用が期待される。
- ●都市部からの移住や二地域居住を含む交流人口の増大をめざす上で、本町 の海の素晴らしさを客観的に評価する指標が必要とされている。
- ●本町の海は、関西都市部から2時間圏としては屈指の美しさを持つが、住民の多くはその価値を客観的に評価できていない。

地方公共団体の政策課題等との関係性

町では、「交流人口の創出による外需の取込み」を政策課題のひとつとしている。 また、「豊かな自然の中で、心地よい生活ができるまちづくり」、「子育て、教育環境の充実」をめざしている。

本町の最大の資源である海について国際的な環境認証を取得することは、観光 産業の活性化や、海岸を保全するための持続可能な体制づくり、高浜町ならで はの環境教育の振興に対して大きく寄与することが期待される。

3 協働取組の概要

協働取組の目的とテーマ

町内の海水浴場を中心とする海岸の環境維持について、これまでの経済的な受益者が中心になった体制を転換し、行政や町内の住民・事業者、町外の人や企業を巻き込み、将来に渡って持続可能な維持管理体制を構築することを目的とする。この目的を実現する上で、協働主体の共通の目標や指標となるべく、BFを継続的に取得していくことをテーマとする。

課題解決に向けたアイディアと協働プロセス

- ●現在本町では、海岸の維持管理についての関係者が協議する場としては、全町を対象に主に安全面や保安面について議論する「安全・安心の海構築会議」と、和田海岸を対象にBFの継続的な取得とその活用について議論する「ブルーフラッグ推進部会」を開催している。両者はBF取得を契機に発展または誕生したものであり、今後も協働の中心として機能させていきたい。
- ●町は、「高浜町の海岸を守り育てる条例」および「若狭高浜海のルールブック」 を施行し、これを充実することで海岸利用について適切な誘導をめざしている。 BFの認証基準を、規制誘導の理念や具体的な内容に活用したい。
- ●若狭高浜観光協会は、これまで夏期を中心に観光事業者が中心になって海 浜清掃等を実施してきたこと、BFの認証取得およびその維持に関する事務局 となり得る能力を継続的に有すること、BFの取得により期待できる経済効果の 主な受益者の団体であることから、主体的に本事業を推進するものとする。
- ●若狭和田海岸でのBFプログラムの活用は、町内の他の海水浴場や福井県若狭地域にも活用できる面が多く、横展開をはかっていきたい。
- ●アジア/国内初の認証が獲得できれば、以降もFEE Japanの活動と連携しながら国内のBFプログラムの構築普及に貢献したい。

地域・協力者の期待・ニーズとの整合性

- ●本町には関西屈指の美しい海があるにも関わらず、海水浴しか海に親しむ方法がない。BFを契機に、環境教育プログラムなど海の魅力を学び親しめる機会が増えることで、町民や海の利用者の海に対する愛情が育つことが期待される。
- ●観光収入など経済的な活性化の面でも、遊泳など旧来からのメニューしかなく 十分に活用できていない。BFを契機に、宿泊や飲食、アクティビティなどで魅力的なサービスが生まれ、地域の活性化が期待できる。
- ●BFを契機に観光産業が発展したり、地域魅力が向上すれば、地域に新しい サービスや雇用を生み、定住/移住のきっかけの一つになると期待される。

4 3年後のゴールイメージ

2018年度末のゴールはどこか(最高の状態)

前年2016年春に、BFの国内で第一号の認証を取得し、それを契機に地域住民と観光事業者、行政が一体となった海の管理体制が構築され、円滑に機能している。観光面では、民宿や浜茶屋、飲食店など、地域が一体となってBFにふさわしいサービスが提供されている。また、環境教育が学校教育に組み込まれている。

2018年度末のゴールはどこか(望ましい状態)

前年2016年春に、BFの国内で第一号の認証を取得し、それを契機に地域住民と観光事業者、行政が一体となった海の管理体制が構築され、具体的な問題点の解決に向けて取組みが始まっている。観光面では、民宿や浜茶屋、飲食店など一部の事業者がBFにふさわしいサービスを提供している。また、環境教育が、学校教育の不定期のカリキュラムに含まれている。

2018年度末のゴールはどこか(確実に達成する状態)

BFの国内で第一号の認証を取得し、それを契機に地域住民と観光事業者、行政が一体となった関係者の会議を継続的に開催している。また、民宿や浜茶屋、飲食店の一部では、BFにふさわしいサービスの向上がはかられるような取り組みが始まっている。環境教育プログラムが、随時町内で開催されている。

事業の結果を測る指標(アウトプット)

- ●BF認証を取得しているか
- ●ビーチ管理委員会を継続的に開催し、海岸の管理や活用に多くの町内外の人を巻き込んでいるか
- ●宿や飲食店での新たなメニュー開発や、体験メニューなど観光プログラムの造成に取り組んでいるか
- ●環境教育プログラムがどこまで定期的なカリキュラムとして定着しているか

事業の効果を測る指標(アウトカム)

- ●地域の観光消費額
- ●ブルーフラッグに関する地域の人たちの認知度
- ●浜掃除への住民参加人数
- ●町内で提供される環境教育プログラムや自然体験メニューの数
- ●地域の人たちが作る、BFを活用した商品やグッズの数

5 理想とする協働主体の関係図

高浜町 水難救助 員会 若狭和田 ライフセービ ングクラブ

FEE Japan

FEE

高浜町 まちづくり課

地元区

和田地区

以外の

高浜町

安心・安全な海 構築会議

> ブルーフラッグ 推進部会

警察· 海上保安署· 消防署

高浜町

以外

若狭地域

の海岸

若狭高浜 漁業協同 組合

地元 海浜組合

高浜まちづくりネットワーク

若狭高浜観光協会

NPOおひさま

高浜町産業振興課

やまぼうしの会

高浜町教育委員会

若狭和田ライフセー

和田地区委員会

ピングクラブ

地元事業者

和田小学校

若狭和田観光協会

和田小学校PTA

和田海浜組合

和田公民館

高浜国際交流協会

高浜保育所

高浜町和田地区住民、高浜町住民、高浜町以外の若狭湾沿岸住民、 国内・海外観光客

6 2018年度の目標・事業内容・スケジュール

2018年度の目標

- ●前年度に引き続き認証条件をクリアし、海水浴場開設期間においてBFを掲げること。
- ●アクティビティメニューをより充実するとともに、従来の海水浴とは異なるメニューや サービスを試行的に提供すること
- ●夏期シーズンのみならず、春~秋にかけて海岸沿いで魅力的な観光サービスが提供できること

目標を達成するための具体策

- ●BF認証基準に合致するために必要な水質調査や現地のハード整備、設備の購入、 次年度に向けたシミュレーションなどを、年内に行うこと
- ●海水浴場開設期間内に、5以上の環境教育プログラムを提供すること
- ●安心・安全な海構築会議での議論等を経て、必要な規制誘導事項を、「若狭高浜海のルールブック」に追加すること
- ●新しい宿泊プランや飲食メニュー、体験メニュー等のサービスを新たに造成すること

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	● FEE総	会	BF加	真の掲揚	j J						
PR	/普及活	動	-m + +	·		a	PR/	普及活	動		
				対育プロ 定、水/		り実施					
				高浜海ティビテ							

7 2017年度の目標・事業内容・スケジュール

2017年度の目標

- ●前年度に引き続き認証条件をクリアし、海水浴場開設期間においてBFを掲げること。
- ●アクティビティメニューをより充実するとともに、従来の海水浴とは異なるメニューや サービスを試行的に提供すること
- ●夏期シーズンの経験を踏まえて、より魅力的なサービスや商品を造成すること

目標を達成するための具体策

- ●BF認証基準に合致するために必要な水質調査や現地のハード整備、設備の購入、 次年度に向けたシミュレーションなどを、年内に行うこと
- ●海水浴場開設期間内に、5以上の環境教育プログラムを提供すること
- ●安心・安全な海構築会議での議論等を経て、必要な規制誘導事項を、「若狭高浜海のルールブック」に追加すること
- ●新しい宿泊プランや飲食メニュー、体験メニュー等のサービスを新たに造成すること

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	● FEE総	会	BF加	重の掲揚	ī Ī						
PR	/普及活	動		対育プロ 定、水質		の実施	PR/	**************************************	動		
				高浜海ティビテ							

8 2016年度の目標・事業内容・スケジュール

2016年度の目標

- ●5月に開催が予定されるFEEの国際総会において認証を受け、7~8月の海水浴開設期間にBFを掲揚すること
- ●BFの取得に関して、地域の多くの人たちと価値観や課題を共有すること
- ●BFを取得した海としてふさわしい受け入れ態勢の整備を進めること

目標を達成するための具体策

- ●FEE国際総会前に予想される現地視察に適切に対応する
- ●BF認証基準に合致するために必要な水質調査や現地のハード整備、設備の購入、 次年度に向けたシミュレーションなどを、年内に行うこと
- ●海水浴場開設期間内に、5以上の環境教育プログラムを提供すること
- ●安心・安全な海構築会議での議論等を経て、必要な規制誘導事項を、「若狭高浜海のルールブック」に追加すること
- ●新しい宿泊プランや飲食メニュー、体験メニュー等のサービスを新たに造成すること

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	● FEE総	会	BF加	関の掲揚	i Ī						
現地 実施	追加整	備の		対育プロリ定、水気	次年 グラム(点の整 度に向 の実施	l	構計画 			
				高浜海 ティビテ		I	I				

9 事業実施における課題・リスクと対策

分類	課題・リスク	対策
人員	・環境教育を広げる上で、インストラクターを務める人員が不足している。・海浜パトロールを行うライフセーバーや水難救助員が不足している。	・観光協会が主体になって、各協働主体と協力して講師等の養成講習会等を開催する。・活動の紹介や勧誘活動を積極的に行う。また子供対象の講習会等を行う。
財政	・BFは毎年申請であるが、審査料と水質検査費用が必要。 ・大規模なゴミ漂着など、海岸を清掃していく上では、特に資金面で広域的に対応する体制が必要となる。	・今後継続的に認証を 取得する上で、受益者 負担で経費を捻出でき る仕組みが必要。 ・交流を進める鎌倉市を 含む神奈川県の「かな がわ美化財団」の活動 内容を研究する。
法∙制度	・特になし	

第6回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 27 年 7 月 8 日 (水) 19:00-21:15	和田地区公民館

出席者		
若狭和田観光協会	小松 政春(会長)	今井 満 (事務局)
浜茶屋事業者	絵馬	
和田小学校	松井 昭男(教頭)	西野 仁貴(PTA)
和田公民館	村宮 博明	
######################################	細田 直彦	山本裕紀子
若狭和田ライフセービングクラブ	西岡 あゆみ	
やまぼうしの会	大塚 ひとみ	
地元事業者	今井 俊吾	
高浜国際交流協会	池田 充宏	
青の里地球まるごと会議	山田 志穂	
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡 久	須藤 竜乃介
高浜町まちづくり課 (事務局)	米川 浩司	角谷 有紀
事務局	亀川 麻衣	高田 慎平

議題

- (1) ブルーフラッグ取得に向けた今後のスケジュールについて
- (2) ビーチのゴミ問題について
- (3) その他

議事内容/結果

- 1. ブルーフラッグ取得に向けた今後のスケジュールについて
- ・水質検査は、ロケット花火の翌日に行ってほしい。現状大きな問題であるロケット花火が環境にどれだけ 影響があるのか、数値化する格好の機会である。
- →日程は、悪天候を考慮して最終週に予備の日を設けてある。現状では8月15日に計測する予定は組 みにくい。
- →無理であれば、地元のスタッフで対応できるか確認する。認証条件では、水質検査を実施できるの

は有資格者のみであるが、将来的には例えば標本の採取だけでも地元で対応できることが望ましい。

- ・バリアフリー対応について、先進地事例を見学できないか。大洗サンビーチ海水浴場(茨城県)が 我が国では先進地である。
- →見学ができないか、先方の受入体制や日程などについて調査する。
- ・8月25日に和田地区の盆踊りがある。地元の人が大勢参加する機会であり、地元向けの周知を進めるいい機会である。
- →PR ブースを設置して、広報や説明を行う。

2. ビーチのゴミ問題について

(1) 現状認識

- ・各浜茶屋の前にはドラム缶を設置し、ゴミ箱としている。ドラム缶は分別をしておらず、営業終了 後に毎日浜茶屋の従業員が分別をして各ゴミ袋に入れ、清掃センターに持って行っている。
- ・3年ほど前からドラム缶とは別に、ペール缶を設置し、ペットボトルと缶を分けて捨ててもらうようにしている浜茶屋もある。
- ・全体的に分別をするお客さんは増えている。かつて大量のお客さんが来ていた頃と比較して、今は 海が好きで来ている人が残っているという印象がある。
- ・ドラム缶は、和田観光協会が準備し、浜茶屋に配布している。
- ・浜茶屋事業者は、毎日朝と夕方の 2 回浜を清掃する。浜茶屋がないエリアについては、観光協会が 人を雇って清掃している。

(2)問題点と対策案

- ①モラルの低いお客さんへの対応
- ・普段地元ではしないような行為でも、海という解放感がゴミを捨てるという行為になるのでは?
- →清掃活動を続けるしかない。 綺麗な処にはゴミは捨てにくい。 例えば皆で BF の T シャツを着て清掃している姿を見せるなど。
- →海を大切にしてくれる人にターゲットを絞る。
- ・ゴミ箱の中身が見えないと、何でもいいから捨てようという気になる。
- →新たに設置するゴミ箱は、中身が見える形態とする。
- ②ルールを守る意思のあるお客さんへの対応
- ・ゴミ箱が分かりにくい。数が少ない。どこに捨てていいか分からないから捨てる。
- →ゴミは原則持ち帰りというルールを浸透させていきたいので、沢山ゴミ箱を置くというのは考えにくい。まずは駐車場のゴミ箱を分別対応とし、現状の浜茶屋の前のゴミ箱と並行して運用していく。
- ・分別する意識は確実に普及している。
- ③浜茶屋で対応できない大型ごみについての対応
- ・急に雨降りとなって、BBQ などをそのまま撤収せずに帰るお客さんも居る。そのほか、古いテント やベンチなどをそのまま捨てていく場合もある。

- ・冷蔵庫や電気ガマなどを捨てていく者もいる。
- ・大型ごみは、ある程度たまったらまとめて和田観光協会が清掃センターに持ち込んでいる。
- ・ライフセーバーが回収したものは、救護所の裏に置いている。処置に困っている。
- ・浜茶屋が建っていないエリアや、特に高齢者が経営しているエリアでは対応しきれない。
- →対応するための体制づくりが期待されるが、ゴミを捨てる行為を増長させる面もあるため、慎重に 検討したい。

(3) 具体的な取組み

- ・ライフセーバーは 16:00 に監視活動が終わる。それから浜掃除を 15分でも 20分でも実施する。 その場にいるお客さんや住民の有志、参加可能な浜茶屋の人間が参加する。
- →まずはライフセーバーの活動として始めるが、まち全体に広げていきたい。
- →帰りかけのお客さんは、マナー違反をしにくくなるのではないか。
- →定番化するようなアナウンスや音楽を流す。

3. その他

- (1) 若狭和田駅前看板の設置について
- ・夏の海の画像を使った案と、夕日の画像を使った案を提示。比較検討した。
- →夕日の画像案とする。理由は、色味が目立つこと、若狭高浜駅前の BF 看板が海の画像ベースである こと、夕日の美しさを知らない人が多いこと、わざわざ画像を示さなくてもすぐ近くに海があること、など。
- ・看板のターゲットを明確化することが必要
- →町外に向けては、駅前からは見えない綺麗な海の存在感を示すこと。いかに魅力的かを伝えることで「ようこそ」と言うより効果的。町内に向けては、BFの趣旨を伝えること。

(2) 今後の広報に向けて

- ・目的や意義について、一言で説明できるフレーズや資料が必要。
- →「地域の誇りである美しい海を次の世代に引き継ぐために」というのが、一番分かりやすい。
- →観光など経済面ばかり出しても理解されない。まずは和田の人たちが目的を共有している状況をめ ざしたい。

次回会議予定

日時	場所		
7月29日(水)	和田地区公民館		
議題			
・広報、価値観の共有について 他			

第7回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 27 年 7 月 29 日(水)19:00-20:40	和田地区公民館

出席者		
和田小学校	西野 仁貴 (PTA)	
和田公民館	村宮 博明	
若狭和田ライフセービングクラブ	山本裕紀子	西岡 あゆみ
やまぼうしの会	大塚 ひとみ	
おひさま	小島 真弓	
高浜町教育委員会	仲野 博之	
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡 久	須藤 竜乃介
高浜町まちづくり課 (事務局)	米川 浩司	角谷 有紀
事務局	亀川 麻衣	高田 慎平

議題

- (1) FEE Japan 現地調査の報告
- (2) ブルーフラッグのアピールについて
- (3) その他

議事内容/結果

- 1. FEE Japan 現地調査の報告
- (1)砂浜のごみについて
- ・砂浜に細かいごみが多く、このままでは環境基準を満足できない
- →ビーチクリーナーで収集するには細かすぎる。人力で対応するしかない。
- ・浜茶屋事業者の一部が、漁業の養殖で使用するタモ網を使っているのを見るが、腰をかがめること なく効果的に細かいごみ収集が出来ている様子である。例えば観光協会でこれを購入して浜茶屋に 配布してはどうか。
- →観光協会および行政で検討する。
- ・大きなごみは相変わらずの状況である。昨年よりは減ったという印象はあるが、無くならない。
- (2)ペットの連れ込みについて

- ・犬の連れ込みは禁止。リードをつけるなど管理体制を提案したが却下された。
- →ブルーフラッグビーチの範囲を狭くして、他所で犬を連れ込むことが出来るエリアを設ける必要がある。犬を連れて海に来る人はマナーのいい人が多く、遊べる場所を確保してそちらに誘導することでトラブルは避けられると思われる。
- →地元の愛犬家については、ビーチの開設時間である 9:00~16:00 の間は散歩を避けてもらうことで対応する。
- (3) 車いす対応駐車場区画の設置について
- ・7 月に安全鉄工前の駐車場を改良し、車いす対応区画を 2 区画設置した。今のところ運用上の問題は聞いていない。
- ・当初は、歩行者帯を塗装で明示する予定であったが、予算の関係で未実施。来年度以降実施する。
- 2. ブルーフラッグのアピールについて
- (1) ビーチクリーンキャンペーン
- ・前回の部会で決まった 16 時からの浜清掃は、7月 11 日より始めた。少しずつ浸透していると思うが、特に平日はライフセーバーの数が少ないため、実施していること自体が認識されにくい。
- ・効果的に放送でアピールをしたいが、7番ポールより西側は放送が聞こえない。
- →放送設備は以前から要望があったので、役場で前向きに整備を検討する。
- ・ライフセーバーがごみ集めをしていると、自分が出したごみを都合よく捨てるお客さんが居る。原 則は持ち帰りだということを徹底したい。持ち帰りが徹底されるまでには長期間を要すると思われ るが、続けるしかない。
- ・現在は町のごみ袋(緑)を使っているが、消費量が多く勿体ない。例えばバケツなどを準備して新たなごみが発生しない工夫も必要ではないか。

(2) 意識の向上

- ・これからの海の管理は、お客さんの意識をどう向上させるかにかかっている。
- →例えば「海に感謝する日」などを設定し、定期的にイベントを行えばよい。

(3)経済効果

- ・各浜茶屋にそれぞれ一つずつブルーフラッグにちなんだ商品を作って貰うのはどうか。各店でそれ ぞれ工夫してもらえるのがよい。
- ・例えば食品としては、アイスやかき氷、うどん、カレーなどがある。

(4)入れ墨への対応

- ・海外から来た人にとって、タトゥーはファッションである。現在のルールブックの記述では、入れ 墨を入れている人間は粗暴であると決めつけている印象が持たれる可能性がある。
- →今後、掲示板やパンフレットなどで外国語対応をする際には、留意する。

(5) 認知度の向上

・昨年と比較して町内の認知度は確実に上がっている。お客さんについても、のぼり旗やTシャツを

見て、「ブルーフラッグって何ですか?」という質問を受けることが増えている。

→地元の浜茶屋や民宿の事業者の多くは、質問に対して「よく知らない。何か役場がやっていることだ」と回答する人が多い。今後は町内の事業者にも理解を深める必要がある。

(6) キャッチフレーズ

- ・一般の人は、○○で何位とか、○○で初めて、といったフレーズが印象に残る。日本初やアジア初ということをもっとアピールしていきたい。
- ・まずはブルーフラッグの取得を通じてまちの雰囲気が変わることが大切。観光地としての魅力はあ とからついてくるのではないか
- ・比較対象があるといい。住民は、綺麗な海が当たり前だと思っている。たとえば有名だけど水が綺麗ではない海岸と比較して、高浜の海の素晴らしさを強調しても良いのではないか。

3. その他

- (1) 湘南ビジョン研究所との交流会の実施
- ・11月7日~8日で、部会のメンバー有志で湘南まで行き、湘南でブルーフラッグの取組みを進める 湘南ビジョン研究所さんの皆さんと交流会を行いたい。参加できる方は、今からスケジュールを調 整してください。
- ・内容の詳細は現在調整中。
- (2) 広報誌 Blue + の第2号の発行に向けて
- ・文章チェックと写真の提供をお願いしたい。
- ・画像については、もっと広い範囲から公募してもよいのでは。表紙は子供の絵でも面白い。
- →子供たちに海に関する絵画を描いてもらい海岸で展示するようなことも、環境教育プログラムとなるので、取り組みたい。
- (3) 今季実施予定の環境教育プログラム
- ・8月5日(水) 19:30~ 星空観望会
- ・8月11日(火) 9:00~ 川の生き物探し
- 8月16日(日) 9:00~ 水辺の生き物観察会(兼 指導者講習会)
- ・8月21日(金) 9:00~ 磯の生き物探し

(4) その他

・浜茶屋の現状を紹介する際に、「高齢化している」といったネガティブな表現は、当事者から怒られる。 前向きな表現を用いるよう注意すべき。

日時	場所		
8月26日(水)	浜茶屋その他 BBQ場		

第22回安心・安全な海構築会議

議事録

日時	場所
平成 27 年 7 月 30 日(木)19:30-21:30	ぷらっと Home 高浜 会議室

出席者			
水難救助員会	会長 磯部 功		
小浜海上保安署	署長 窪田 保司		
高浜警察交番所	署長 谷本 裕也		
消防高浜分署	分署長 吉田 考完		
西三松観光協会	役員 秋岡 武治		
若狭和田観光協会	会長 小松 政春		
白浜海浜組合	組合長 松岡 明雄		
城山海浜組合	組合長 臼井 弘明		
東三松区	区長 笹部 政雄		
はまなすパーク管理組合	組合長の中元の皎允		
若狭高浜漁業協同組合	組合長 板倉 健治		
高浜町役場まちづくり課	主査 米川 浩司	主事補 本郷 要因	
艾林克运知业办人	会長 大角 一馬	副会長 藤本 誠	副会長 永野 和夫
若狭高浜観光協会	事務局長 吉岡 久	館長 武村 享導	

議題

- (1) 水難事故の発生状況
- (2) 水難事故の対応策
- (3) 水上バイク対策
- (4) 密漁パトロール
- (5) 海のルールブックの運用状況
- (6) ブルーフラッグ認証取得に向けた取組みの進捗状況

議事内容/結果

- 1. 水難事故の発生状況
- ・開設期間後に発生した水難事故 3 件(7月 25 日 2 件、7 月 29 日 1 件)について、状況および対応の報告がなされた。

2. 水難事故の対応策

- ・各地区の海浜組合で呼びかけを強化する
- →特に「小さな子供から目をはなさない」を重点に
- ・呼びかけのためには放送設備が必要である
- →各海水浴場で放送設備の状況を確認する。
- →はまなすパーク海水浴場は、特に幅が広く、放送を入れても聞こえにくいエリアがあるので、具体的 に確認する。
- →若宮海水浴場は確認済。問題ない。
- →白浜海水浴場は、全体的に聞こえにくい。全体的に施設が老朽化しており、特にマイクの状態が悪い。
- ・警察は、警ら中にパトカーから浜に向かって積極的に拡声器で呼びかけるようにする。
- ・シュノーケルは危険である。3 件目の事故は、子供の水中眼鏡が首に絡んでおり、飛び込んだ際にあわててくわえていたシュノーケルから水を飲んだことが要因と考えられる。
- →各組合から浜茶屋に通達し、出来るだけシュノーケルは販売しないようにしてほしい。販売停止が困難な場合は、特に子供に販売する際に注意をするようにしたい。
- ・注意喚起のチラシを作成し、駐車場等で配布する。
- →効果が低いという声もあるが、とりあえず今やれることをやるという姿勢でいきたい。
- →チラシより、ティッシュなどの方が効果がある。特に夏場はウェットティッシュが人気である。
- →ウチワに注意書きを表示するのもよい。
- ・和田海岸においては、ライフセーバーから、ともかく子供が単独で居ると声を掛けることを続ける。ラ イフセーバーが不在のその他の海岸は、注意喚起の放送を強化したい。

3. 水上バイク対策

- ・今シーズンから遊泳者保護区域内への進入を見かけたら、すぐに通報して欲しい。
- →例外的な事例を見つけたら、水上バイク事業者が言いがかりをつける口実やきっかけになる。例外な く排除する姿勢が必要。
- ・警察および消防、保安署の協力が不可欠である。
- ・お盆の繁忙期には、事業者が無理やり戻ってくる可能性があるので、中止したい。
- ・7月以降、一度プレジャーボートが大黒飯の定置網付近に近寄ったので PT から注意したことがあった。 今後注視が必要である。遊泳区域を閉めたことへの嫌がらせである可能性もある。

- 4. 密漁パトロール
- ・7月25日の実施報告
- ・次回は8月15日 13:00~ 漁協駐車場
- 5. 海のルールブックの運用状況
- ・記載事項が、全部同じ強さで併記されており、大切なことが伝わってこない。強弱をつけたい。
- →特に大切な事項としては、「ゴミは持ち帰り」「飲酒しての遊泳禁止」「子供から目を離さない」を強調 したい。
- ・こういう広報物は、外からの目で再考することが効果的。皆でチェックして改善していきたい。
- 6. ブルーフラッグ認証取得に向けた取組みの進捗状況
- ・7月11日/12日の FEE Japan の現地調査の様子と、指摘事項の報告
- ・犬の連れ込み禁止は、高浜町全域に適用するのではなく、まずはブルーフラッグ取得の為として和田海 岸限定のローカルルールとしたい。
- →実際の運用は難しいと思われる。定着するには何年も要すると考えられる。

7. その他

・海水浴客の入込状況は、土日については荒天続きであった昨年より多いが、平日が閑散としている。総 数では昨年と同じが減少するのではないか。

日時	場所			
平成 27 年 8 月 31 日(月) 19:30~	ぷらっと Home 高浜 会議室			
議題				
・各者からの夏期シーズンの報告				

第23回安心・安全な海構築会議

議事録

日時	場所		
平成 27 年 8 月 31 日(月)19:30-21:30	ぷらっと Home 高浜 会議室		

出席者			
水難救助員会	会長 磯部 功		
小浜海上保安署	署長 窪田 保司		
高浜警察交番所	署長 谷本 裕也		
消防高浜分署	分署長 吉田 考完		
若狭和田観光協会	会長 小松 政春		
白浜海浜組合	組合長 松岡 明雄		
東三松観光協会	区長 吉田 松栄		
はまなすパーク管理組合	組合長 一瀬 幸生		
若狭高浜漁業協同組合	組合長 板倉 健治		
高浜町役場まちづくり課	課長 河合 徹	主査 米川 浩司	主事補 本郷 要因
艾林克运知业协会	会長 大角 一馬	副会長 藤本 誠	
吉狭高浜観光協会	事務局長 吉岡 久	館長 武村 享導	

議題

- (1) 今夏の状況及び課題報告、来夏に向けての対応
- (2) その他

- 1. 今夏の状況及び課題、来夏に向けて(出席各者より報告)
- (1)事務局
- ・今シーズンは8件水難事故があり、8名が病院搬送、内5名が死亡した。死亡事故は、いずれも海水浴場外で、あるいは海水浴場開設期間外での発生であった。水難事故の原因はすべてシュノーケルが関係している。
- ・海水浴場開設期間後、開設期間内であっても遊泳注意/禁止の状況下での注意喚起が課題である。
- ・水上バイクについては、意図通り海水浴開設期間については排除することができた。トラブルもあったが 概ね想定内であった。

(2)警察

- ・シーズン中の海浜警備としては、海水浴期間開始直後とお盆期間前について、チラシの配布やパトカーの 車載マイクからの声掛け、制服警官の浜のパトロール、パトカーの駐留などを実施した。
- ・行政および観光協会に対しては、「子供から目を離さない」旨と、当日の波の高さや離岸流の状況について、看板等を設置して現地表示をしてほしい。
- ・町および観光協会の WEB 頁で、波の高さなどを毎日告知してほしい。波が高い日でも「せっかく来たのだから」といって遊泳する人は多い。発地を出発する前の早い時間帯での告知が必要。
- ・今年は水難事故が比較的早い時間帯に発生している。監視時間帯を出来るだけ早めてほしい。
- ・遊泳注意/禁止の発令は、各浜茶屋組合が実施しているが、禁止を発令する際のボーダーラインを下げる 方向で検討してほしい。

(3)消防

- ・緊急連絡を受けた際に、自分がどこに居るのか分かってない人が多かった。海水浴場ではない場所であっても、実情として遊泳者が居る場所には、注意書き共に現在地(例:ここは小泊漁港です)を表示する看板を設置して欲しい。
- ・遊泳注意/禁止の判断基準を、明確化する必要があるのではないか。
- →今判断している人間は、長年浜茶屋経営をしているベテランであり、経験に基づき判断をしている。経営 的な視点が働いたり、正しい判断が出来るベテランが少なくなっているという面がある。

(4) 水難救助員

- ・水上バイクは居なくなったが、船外機付きのゴムボートなど(注:2馬力船外機)が増えている。それに 対する規制誘導の方針が、海水浴場によって徹底されていない。
- ・波の高さは、昨年より救護本部前では毎日表示している。
- ・密漁対策はともかくイタチゴッコである。検挙例などを新聞等で広報すれば効果が上がるかもしれない。
- →行政や観光協会の WEB 頁で積極的に発信していきたい。
- ・波の状況は、海水浴場によって大きく異なるし、午前午後でも変わる。 危ないときに如何に注意喚起をするかが難しい。

(5) 漁業協同組合

- ・水難事故が発生した際に、事故者を捜索するための道具があれば、もう少し効率的に協力できると思う。
- ・今年の密漁の検挙実績は、6件14人であった。

(6) 事業者および地元区

- ・白浜海岸では、サーファーが多いときは遊泳禁止の判断の参考にしている。
- ・遊泳可否の判断は難しい。明確な基準があればいいとは思う。毎日(遊泳可/注意/禁止の)旗を揚げていたが、毎日悩んだ。
- ・和田海岸では、PT からのマイクでの呼びかけが効果的であった。
- →水難救助員としては、浴客数が多いときは積極的にマイクでの呼びかけを実施した。

- ・和田の浜茶屋では、従来ヤス、モリ、シュノーケルの販売を禁止していたが、事業者の中には徹底されていない者もいた。既に仕入れたものは仕方ないとして、今後は新たに仕入して販売することは禁止とする。
- ・近年は水中眼鏡とシュノーケルがセットになっている商品も多い。販売中止は難しい。

(7) 観光協会

- ・シュノーケルは、使用方法をもっと広報すべきである。必ず 2 人一組で使用する、波が高いときは使用不可、ライフジャケットを使用する、といったことが守られれば、かなり改善されるのではないか。
- →ライフジャケットをレンタルする体制を整備していくべき。
- →和田では全ての浜茶屋がライフジャケットを3つレンタル用に持っている。これまではボートを利用する 子供向けであったので、シュノーケルの利用者にも対象を広げたい
- ・遊泳可能の表示を出している際に事故が発生したとして、発令者に法的責任はないのか。
- →県条例では、遊泳者側に禁止事項を守る義務があることとなっている。管理者は、禁止事項を表示する義 務はあるが、あくまで遊泳者の自己責任がベースにある。
- →役場の顧問弁護士に詳細を確認する。
- ・海水浴場のフロートが危険。ロープの緩みなど、設置者はかなり管理をしっかりして欲しい。
- ・ハマナスパーク海水浴場は、延長が 1,500mあり、旗 1 本では十分な告知ができない。かといって、何本もの旗を管理するのは困難である。
- ・海水浴場の主要な入口には、出来るだけ大きな看板で注意喚起をすることが必要。その際は、分かりやすい表現が必要。

(8) その他

- ・入込者数は、総数では増えたが、平日はむしろ減っているのではないか。
- ・ヒラタブンプクなど、危険な生き物の被害が多かった。

2. その他

- (1) ブルーフラッグ認証取得に向けた取組み報告
- ・ごみ測定および水質調査の結果から、ロケット花火とブルーフラッグの共存は不可能である。
- →海水浴場開設期間内には開催しない方向で調整する。
- →消防、警察ともに、ロケット花火大会は危険であり、いつ大きな事故が起こってもおかしくないと感じている。出来るならやめてほしい。
- (2) グランピングイベントの開催予告
- (3) 密漁パトロールの予定
- ・次回は9月5日 13:00~ 高浜漁港集合
- (4) 海水浴場安全連絡協議会について
- ・例年、夏期反省会を 10 月初旬に開催している。当会議と重複することも多く、両者を一本化するよう、 次回夏期反省会の際に提案する。

日時	場所
平成 27 年 9 月 8 日(火) 18:30~	城山荘
議題	
・交流会	

第8回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 27 年 9 月 16 日(水)19:00-20:40	和田地区公民館

出席者				
和田地区委員会	湯浅	邦夫(委員長)		
和田小学校	松井	昭男(教頭)		
若狭和田ライフセービングクラブ	細田	直彦	西岡	あゆみ
浜茶屋事業者	小幡	憲仁		
若狭和田観光協会	安田	渉(顧問)	今井	満(事務局)
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡	久		
	米川	浩司	角谷	有紀
高浜町まちづくり課	亀川	麻衣	高田	慎平
### ^ 1 0 1/=0=1 / \\ / \= 1/= \tau	卜部	兼慎	麻田	風児
株式会社GK設計/ジイケイ京都	濵田	佳祐		

議題

- (1)シンポジウム、湘南交流会の案内
- (2) ビーチデザイン等について
- (3) その他報告事項

- 1. シンポジウム、湘南交流会の案内
- (1) シンポジウム
- ・公開座談会のパネリストは、ライフセーバー代表は細田氏(若狭和田ライフセービングクラブ代表)、事業者代表は今井氏(若狭和田観光協会事務局)に打診し、それぞれ了承をいただいた。
- (2) 湘南交流会
- ・ホテルの予約の都合があるので、参加希望される方は早めに申し込みをお願いします。
- 2. ビーチデザイン等について
- (1) 景観整備方針
- ・GK設計およびジイケイ京都さんの担当者から、現在進行中業務で検討している若狭和田海水浴場

のビーチデザインについてプレゼンテーション

- ・トイレの男女の区別が分かりにくい。表示を分かりやすくしてほしい。
- →トイレの男女の表示は、看板が壊れているので分かりにくいと思われる。早急に修理する。
- ・全体的に色彩を統一するのはいいと思うが、色弱の人にとっては段差が分かりにくくなることもある。注意すべき。
- →色弱の人はどう見えるかをチェックするソフトがある。最低限それくらいのチェックはしていきたい。
- ・現地について、ファーストインプレッションは非常に大切であり、提案のようなシンプルなデザインとしたい。
- →入口部分は、遠景の海や島を体制にすべき。周囲の建物や構造物は自己主張しないよう配慮する。
- →お客様である「都会の人」からすれば、金属やガラスといったいかにも人工物といった素材はあまり見たくない。

(2) ネーミングについて

- ・現状の「若狭和田海水浴場」について、オールシーンへの対応、外国人向けの表記、これまで積み 重なってきた歴史といったことを考慮し、「若狭和田ビーチ」としたい。
- ・新しい名前を付けても浸透するかも分からないし、既存の「和田」は大切にしたい。
- ・「和田」は近隣を含めて全国にある。「若狭」を付けるのは必須である。
- ・海水浴場というと、夏場だけしか入れないイメージを持つ人も多い。夏以外も売り出したいので、 海水浴場はとりたい。
- ・「和田浜」も多く使われているが、英語表記にした際に「Awajishima-Island」や「Arakawa-River」のような妙な表記なる。
- →この推進部会としては、「若狭和田ビーチ」(Wakasa Wada Beach)を採択する。
- →今後、観光協会や商工会、地元地区委員会等で議論、了承を得ていきたい。

3. その他報告事項

- (1) 東端のトイレのバリアフリー化について
- ・現状、全て通常便器(男子小便器×3、男子大便器×2、女性便器×4)であるが、これを車椅子対応 に改装する(男子小便器×3、ユニバーサルタイプ×3)。
- ・現状このトイレは最も混雑する施設のひとつであり、特に女性はピーク時には長い行列ができる。女性用 便器の数は極力減らさないようにしてほしい。
- →男子小便器×3、ユニバーサルタイプ×2、女性便器×2 に計画変更したい。

日時	場所
10月28日 (水)	和田公民館
議題	
・湘南交流会について	
・今後の取組みについて	

平成 27 年度 夏期シーズン反省会

議事録

日時	場所		
平成 27 年 10 月 20 日(火)14:00-16:00	ぷらっと Home 高浜 会議室		

出席者			
高浜町議会	議長 横田 則孝		
同総務産業常任委員会	委員長 山本 富夫		
小浜海上保安署	署長 窪田 保司		
小浜警察署 高浜交番	署長 谷本 裕也		
若狭消防署 高浜分署	分署長 吉田 孝完		
高浜町役場まちづくり課	課長河合徹	主事 本郷 要因	主事 刀祢 義宏
高浜町役場防災安全課	主査・朽木		
高浜町区長連合会	会長 秋岡 武治		
高浜町水難救助委員会	会長 磯部 功		
高浜町商工会	会長 田中 康隆		
高浜町防犯組合	組合長 松岡 弘志		
関西電力 高浜発電所	副所長 朝倉		
サオラン知识力へ	会長 大角 一馬	事務局長 吉岡 久	館長 武村 享導
若狭高浜観光協会	和田 今井 満	須藤 竜乃介	
同 和田支部	支部長 小松 政春		
同 東部支部	支部長 藤本 誠		
同 内浦支部	支部長 永野 和夫		

議題等

- (1)挨拶(若狭高浜観光協会会長、高浜町議会議長)
- (2)今夏の全般概要報告(観光、海上警備・監視、交通防犯警備、救急・消防、夏期シーズン概要)
- (3)各種団体による概要報告(高浜町区長連合会、高浜町商工会、関西電力高浜発電所)
- (4)夏期観光に関する意見交換

1. 挨拶

(1) 観光協会会長

・ひと夏の関係者への御礼の言葉。夏期水難者(8 件水難事故があり、8 名が病院搬送、内 5 名が死亡)の報告をした。今夏の観光入込客数を、昨年の入込数を超えたこと、平日と土日の格差に触れながら報告した。今年からパドリングフェスタ、アクアスロン、ハッピースマイル運動会等、多様なスポーツ大会が誘致できたことに触れ、来年はトライアスロンが開催されることも紹介し、今後も各種スポーツ団体の受け入れをしていきたい、と述べた。各種団体からの報告を受けて、来年に向けて取り組んでいきたい。今後の協力依頼をし、挨拶を終えた。

(2)議会議長

・好天が続いたこと、京都縦貫道等高速道路網の整備により観光客に伸びがあった。が、日帰り客が増えたことを触れた。今後はブルーフラッグ取得に向けた取り組みで、他にないオンリーワンのビーチを目指す必要がある。今夏はシュノーケリングの事故が相次いだことから、安全対策をすすめたい。議会としても、意見を取り入れて尽力していきたいと述べ、挨拶を終えた。

(3) 総務産業常任委員長

・観光客、外国人観光客のため、受け皿整備が今後の誘客のカギになってくる。

2. 全般概要報告

(1)観光関連

まちづくり課

・資料に沿って説明を行った。今夏は8月に15日の晴れ(前年比+12日)となり、各海水浴場の浴客が増加した。今年は嶺北を中心とした県内客は減少した。しかし、京都縦貫道の開通し、県外客が増加に伴って総入込客が増加した。

総入込客数(28%増、宿泊客数 7%減、日帰り客数 36%増)を昨年と比較して紹介した。

観光客のニーズ、集客イベントの開催等を再検討すべき時期に来ていると提案した。

- ・海のルールブックの改訂・運用により、長年の課題であった水上バイクの進入については関係機関との連携強化によってほぼ抑える事が出来た。2年の運用で、浴客に徐々に浸透している。今後も継続した取り組みで安全な海水浴場づくりに取りくんでいきたい。
- 今夏の水難事故を受けて、水難救助員会・ライフセーバーの増員、シュノーケリング対策、海水浴場開設期間の見直し、遊泳条件の基準作り、ライフジャケットの貸し出しなど課題に対して、解決に向けた検討を 進めたい。
- ・誘客に向けて、マリンスポーツなどの自然体験プログラム普及を行い、もてなしについて再確認したい。 ・浜茶屋・民宿の利用促進を狙いとしたマップを作成し、広報活動を行った。
- (2) 海上警備・監視

小浜海上保安署

・管内で発生した人身事故が13件。内、高浜町内が8件。子どもの事故が多かった。親が目を離した隙に

発生する事が多いため、注意喚起活動が大切になってくる。

- ・スノーケリング事故の要因説明を行った。
- ・船舶事故として、青戸で水上バイクの衝突による死亡事故の報告。
- ・今夏の町内での水難事故はすべて県外者であった。
- ・密漁者4名を検挙した。密漁者を発見した場合には警察にも連絡をお願いしたい。

(3)水難救助委員会

7/11~8/16 の 37 日間の開設期間中監視を行った。開設期間中 3 件の事故が発生したが、助かった。監視を終えた 16 日以降に 5 件の事故が発生した。緊急出動を行っている時に同時に事故が発生してしまい人手不足となった事や、開設期間を終えると救護所が閉鎖になること、救助員会の高齢化等、課題を今後検討していきたい。来年は水難事故 0 となるように、あらゆる面で対策をしていきたい。

3. 交通防犯警備

(1)防災安全課

- ・町内4ヶ所、土日やイベント開催日を中心に17日間、交通整理員の配置を行った。
- ・7/21~30 夏の交通安全県民運動に伴い、夜間のパトロールを行った。
- ・防犯隊には 7/18~8/22 の毎土曜、延べ 188 名の夜間巡回パトロールを実施してもらった。

(2)高浜町防犯組合

・今夏の活動報告、特に問題がなかったとの報告

(3)高浜交番

・水難事故に関しては継続して動いていきたい。特に県外からの浴客への広報活動に注力していきたい。

4. 救急・消防

若狭消防署高浜分署

- ・火災、救急、事故、救助、水難の出動件数の報告があった。
- ・漁火想時に風が強く、保安距離が保てなくやむなく途中で中止とした。
- ・ロケット花火大会においては安全面への課題が多く、今後は安全対策を検討していきたい。

5. 夏期シーズン概要報告

(1) 観光協会

配布資料に沿って説明した。

- ・一日の平均入込数は土日が8,610人に対して、平日1,870人と五分の一となっている。
- ・海水浴場別の入込数は、若狭和田が72%となっている。

①観光振興誘致宣伝事業

- ・各海水浴場の説明を加えた若狭高浜ビーチナビの改訂、増刷をして外部へ発信した。
- ・京都縦貫道の開通に合わせて、京都市北部や大阪府北部にポスター、パンフレットなどの広告物の配布を 強化した。

②受け入れ体制充実事業

- ・浜ベキュー施設の白浜BBQパークの拡張、広報・ケータリングの充実を図った。
- ・安心安全な海構築会議の取り組みとして、各海水浴場にAEDを設置した。
- ・ブルーフラッグの取得を目指した具体的な取り組みとして水質・ごみ調査や環境教育プログラムを実施した。
- ・協会会員費改訂に伴い、春~夏にかけて取材を行い情報収集をして、現在は HP の整備を進行中。

③広域交流事業

- ・若狭路6市町での出向宣伝をおこなった。
- ・おおい町との共同で出向宣伝、イベント、教育旅行開催を実施した。

4)新規顧客獲得

- ・西の鯖街道協議会でのPR活動やモニターツアーの準備を進めた。
- ・インバウンドに向けた取り組みとして、舞鶴市との連携により韓国人ブロガーを招聘し、情報交換を行った。
- ・パドリングフェスタ開催の支援を行った。
- ・海遊びメニューのツアーや無料体験を実施した。

⑤花火大会

- ・実施報告。入込32,000人(前年+4000人)
- ・町内シャトルバスの運行状況と反省課題の報告
- ・京都方面の来客が多く、宿泊者も増加した。
- ・駐車場についてわかりにくいとの声があったためスマートフォンを活用した情報発信も検討していく
- ・協賛金の募集は期間を前倒しにしていく

6. 各種団体による概要報告

(1)高浜町区長連合会

・今年度は様々な事故があったが、来年度は関係機関の連携により、事故の無いようにお願いしたく協力を お願いします。

(2)高浜町商工会

・9月の役員会にて、海水浴客が街中に出てこなくなっているとの声があり、浜辺でモノの消費などが完結 している。街中に人がくる仕組みをお願いしたいが、現状難しい。逆に浜辺での消費拡大を考えて、そこ に流通が回るようにしてはどうかと提案した。

(3)関西電力高浜発電所

- ・再稼働に向けて、安全対策第一に進めている。
- ・観光に関しては若狭の宿を通じて、高浜の良さを伝えていっているとの報告。

(和田支部)

・BFについて一般住民レベルの認知度が低い。その盛り上げを検討していきたい。平日の入込を増やしていきたい。

(東部支部)

- ・宿泊客減少を実感している。BBQの入込は30%ほど増加している。
- ・4~6 月、9~11 月の観光客がいるので、浜辺をきれいに保つこと、海岸線がわかる看板を年中設置しておくといいのではないかとの提案。

(内浦支部)

・海水浴客が増えている実感がある。が、難波江での事故を受けて、シュノーケルや離岸流の対策を検討してほしい。

(三松支部)

- ・不法投棄など、マナーの悪い浴客が増えている現状。
- 7. 夏期観光に関する意見交換

(永野氏)

- ・スノーケリングについて、来年も5人10人と事故が起こる可能性がある。早めに対策を練りたい。 (大角会長)
- ・水難事故発生地点は毎年同じような場所。離岸流やスノーケリングの注意喚起をGWあたりから看板設置することを検討してはどうか。

(河合課長)

- ・今日は参考意見を聞きながら、次回の安心安全な海構築会議の場で決めていきたい。現実としては、ライフジャケットの設置着用の推奨、禁止にせず対策をもって様子を見ていきたい。
- ・海水浴場開設期間外の事故が多発したことについて、浴客の入込が1週間ほど長くなっている。

開設期間を単に伸ばすのは負担が大きいので、ボランティアベースになるが検討したい。

- ・漁火想、ロケット花火の安全対策を再度検討したい。特にロケット花火については、今年はじめて主催者と話が出来た。来年はBFとの関連もあるため、実施日程についても協議が必要となる。
- ・BF取得が出来たら、外国人対応が必要となる。宿が機械で説明が出来る仕組みや、和田の観光協会に案内人を配置できるように検討したい。
- ・客単価の高いビーチを目指していきたい。グランピング、アクティビティーの紹介。
- 5月、9~10月にたくさんの人を呼べるようにBFを活用したい。また、海の好きな人が移り住んでいくような地域にしたい。

(吉岡局長)

・まずは日本になれた外国人が先に来ることを期待したい。フルサービスが必要な外国人の受け入れは当面難しい。観光協会の2階にあるカフェの店員2名は外国語に長けているので、まずはそこに立ち寄っていただき、案内できるように現在相談中。指さし案内ボードを準備していきたい。

美山町の事例を紹介しながら、まずは出来るところから取り組んでいくと、徐々に広がりが出ていくのではないか。

(松岡氏)

・白浜の海浜組合で提案し、子供用のライフジャケットを各浜茶屋で 5 着ずつ配布した。浜茶屋の経営者が、 親に注意事項を伝える事が大事。

(磯部氏)

・波が出てくるとサーファーが来て、一般客がつられて海に入ってしまう。注意はしているが、対策の検討が難しい。

(大角会長)

・漁火想は来年20日の開催が決定している。ブイの撤去もそこまで待ってもらい、土日だけでも水難救助 委員会にお願いしたい。水上バイクの乗り入れが出てしまうので。難波江では乗り入れが出来ないと松田さ んが対応した。本当に水上バイクの動きが少なくなり、静かな高浜になった。このまま継続していきたい。 現状として高浜では降ろす場所がない。

(永野氏)

・音海のウミックのそばで降ろしている噂は聞いている。

(藤本氏)

・スノーケル部分が $3\sim40$ cmがあるが、1mくらいにしたらどうなるのか。

(小窪氏)

・スノーケルを長くすれば、逆に水を吐き出せなくなる。

第9回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 27 年 10 月 28 日(水)19:00-21:15	和田地区公民館

出席者		
若狭和田観光協会	小松 政春 (会長)	安田 渉
和田小学校	西野 仁貴 (PTA)	
和田公民館	村宮 博明	
芝林和田二ノフセービングカニゴ	細田 直彦	山本裕紀子
若狭和田ライフセービングクラブ 	西岡 あゆみ	
やまぼうしの会	大塚 ひとみ	
高浜国際交流協会	池田 充宏	
おひさま	小島 真弓	
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡 久	須藤 竜乃介
高浜町まちづくり課(事務局)	米川 浩司	角谷 有紀
事務局	亀川 麻衣	高田 慎平
その他	GK 設計 3 名	環境省 EPO 中部 3 名

議題

- (1) 報告事項(湘南ビジョン研究所との交流会について)(申請状況)
- (2) 今後の取組みの検討
- (3) 地元の皆さんへの周知・広報について

- 1. 報告事項
- (1) 湘南ビジョン研究所との交流会について
- ・開催趣旨、参加目的について
- →興味のある方が参加しやすいイベントの開催について学ぶ
- →高浜でも参考にしながら定期開催できる方法の検討、関わる人、応援者を増やす
- (2)申請状況
- →10月18日に FEE Japan との協議し、各項目の問題点には対応を投げかけている状況である。

- 2. 今後の取組みの検討
- ・認証が決まった瞬間や直後の取組み
- →子ども達と共有したい。小学校の体育館を利用してはどうか。
- →浜で「BLUE FLAG」の人文字(航空撮影ドローンを使用?)
- →JR 九州新幹線開通事例を真似してはどうか?ブルーの旗をもった映像を撮影。のちのち映像を残しておくと今後のプロモーションで活用できる
- →決まった瞬間でなくとも事前に映像を撮影してはどうか? 時期的には4月1週目に和田浜の防砂ネットはずすときが有力
- →事前に周知しておけば人は集まる。区長会→各区総会
- →取得のタイミングで餅つき、もちまきをしてはどうか
- ・認証をきっかけに高浜に注目した人への情報発信
- →現状高浜町に興味をもった人が WEB サイトで検索したときに検索結果が上がってこない。 WEB サイトの整備は必要。また英語版のサイトも必要である。
- →ライブカメラを角度が変更できるものに変更してはどうか。現状のものは角度を変えたりすることはできない。観光協会の WEB サイトからライブカメラで海の状況を発信。
- ・認証をきっかけに和田の海を訪れる人のおもてなし
- →国際交流協会ベティさんに通訳してもらってはどうか。
- →宿の料理、せっかく高浜に来たのに魚が食べられないと期待を裏切ってしまう。 観光協会で基準をもうけ、条件の整った宿を中心に案内したほうがいいのでは。
- →空き屋を利用してはどうか。1週間もしくは1ヶ月のロングスパンで滞在してもらえるような環境をつくる。自分達で料理ができる場所が好ましい。火の使用は怖いのでIHに更新する。
- →ブルーフラッグについてのメインインフォメーションは?
 - A. 方法論については検討中であるが、和田救護所で行なう。
- →救護所は年中あけたい
- →夕日が沈む時間を掲示板等に明記してはどうか。
- ・海水浴期間中の取組み
- →海に来ない人、町中にも放送で呼びかけてはどうか
- →ビーチクリーンキャンペーンの際に専用のタモがあると作業しやすい。
- →専用のゴミ袋を作り、活動が分かりやすくなるようにしてはどうか。
- 3. 地元の皆さんへの周知・広報について
- ・これまでの映像をまとめて有線放送(92 チャンネル)でしつこいくらい流してはどうか。
- →NHK で BF が紹介された映像、ライフセーバー、村宮さんが NHK に出演した映像など
- ・12月の地区の懇親会の席で説明してはどうか。新旧の区長に説明しやすいのでは。
- ・子どもヘブルーフラッグを浸透させれば、親にも伝わるのでは。

- →小学生には読み聞かせや紙芝居してはどうか。
- →ライフセーバーが制作した小学生向けの「ブルーフラッグとは?」のパワーポイントがある。 大塚さん 11/18、12/2 に和田小学校にブルーフラッグの読み聞かせを行なう。
- →中学生、毎週木曜日に新聞を呼んで感想を書く NIE 教育というものがある。NIE 教育にブルーフラッグの内容を取り入れることは可能。BLUE + の記事を使えばすぐに取り組める。

教育委員会を通じて中学校に依頼してほしい。

・観光協会、役場だけではなく部会メンバーで役割を分担して誰が何をするか次回までに整理する TODO リストにし、しっかり期限を設けて活動したほうがよい。

4. その他

- ・GK 設計より掲示板に表記する地図に和田のスポットなどのせて親しみやすいものにしていきたい。 地元のみなさんのお持ちの情報を教えてほしい
- →地蔵や景観スポット、漁師の気圧計、晴明石などを記入した。和田 24 景というものも資料として あることが分かった。(和田公民館管理)

日時		場所
11月25日(水)		和田地区公民館
議題		
・地元の皆さんへの周知・広報について	他	

第11回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 27 年 11 月 25 日(水)19:00-21:15	和田地区公民館

出席者		
若狭和田観光協会	安田 渉	今井 満
浜茶屋事業者	小幡 憲仁	
和田小学校	西野 仁貴(PTA)	松見 浩司
和田公民館	村宮 博明	
若狭和田ライフセービングクラブ	山本 裕紀子	
やまぼうしの会	大塚 ひとみ	
おひさま	小島 真弓	
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡 久	須藤 竜乃介
高浜町まちづくり課(事務局)	米川 浩司	角谷 有紀
事務局	亀川 真衣	高田 慎平
その他	環境省 EPO 中部 2 名	

議題

- (1)湘南視察報告
- (2)各人・各団体として、今後どんなことができるか
- (3) イベント
- (4) Blue+ vol.3
- (5) 和田小学校での読み聞かせ

- 1. 湘南視察報告/参加者の感じたこと・報告 ※資料1参照
- ・今井さん
- →鎌倉市の禁酒等の条例でしばっていくことに疑問を感じている。禁止ばかりでは海の楽しさを味わえない。
- ・安田さん

→和田地区から積極的にゴミ拾いを呼びかけていけるとよい。最初は少しずつでも住民を巻き込ん だ活動をしていきたい。

高価な火箸だが、利用しやすそうであった。

- 須藤さん
 - →湘南も課題が多いので少し安心した。足りないものをブルーフラッグで補っていくことが重要。 ビーチグラスのクラフトをした。清掃活動後クラフトなど取り入れると子どもや若い人が増える のでは。
- 亀川さん
 - →行政主導でないのがすごく印象的だった。
- ・吉岡さん
 - →湘南のトングを高浜に取り入れていきたい。ゴミ拾いに関してボランティアが力を発揮できる仕組みをぜひ作っていきたい。
- 米川さん
- →行政側として、ゴミの回収の仕組みづくりに取組んでいきたい。ブルーフラッグは 33 項目をクリアしても課題はでてくる。ブルーフラッグを利用して、地域の課題をクリアできるツールだということが再認識できた。

~意見~

- ・小島さん
- →喫煙コーナーを設けないと、タバコのゴミは減らないのでは。分煙していく方向がいい。
- 2. 各人・各団体として、今後どんなことができるか

【小島さん】

- ・☆すぐ取組めそう おひさま HP にリンクを貼る
- ・☆すぐ取組めそう 身内にライフセーバーになるよう薦める
- ・★New おひさま関連のイベントでブルーフラッグについて PR していきたい。
- ・★New <u>おひさまが運営する「いっぷくや」でのぼり、パンフなどで BF を紹介、質問の仲介役な</u>ど
- ・★New 障害者の就労(例)ビーチクリーンの仕事、スタンプはり、袋詰めなど
- ・★New グッズの開発など(例)ハンカチ、タオル、チャック袋
- ・★New 移動図書できそう。古本の在庫は結構ある。
- ★New おひさまとして6月に障害者でビーチクリーンをしようと考えている。

【大塚さん】

- ・☆すぐ取組めそう やまぼうしの会の HP、ブログなどにリンクを張る。
- ・☆すぐ取組めそう 年末年始の集まりで大人向けにブルーフラッグの理解を深めてもらう
- ・☆すぐ取組めそう 集りの際は必ずフリップ、BLUE+を持参しブルーフラッグの紹介をしていきた

い。(町内外問わず)

- ・☆すぐ取組めそう 身内にライフセーバーになるよう薦める
- ・★New やまぼうしの会として、5月ビーチクリーンをしていきたい。

【小幡さん】

- ・☆すぐ取組めそう <u>海浜組合と BF 部会とでギャップがある。今後の取組みとしてギャップを埋め</u>ていきたい。
- ・☆すぐ取組めそう ブルーフラッグ部会に海浜組合メンバーを誘い巻き込んでいく。
- ・☆すぐ取組めそう 2016 年に認証ですべった場合もう一度チャレンジするのか。継続して取組む 姿勢を説明することも重要ではないのか。
- ・★New ゴミ箱の改良に取り組んでいきたい。
- ・★New 問題解決に向けた組織作りをしていきたい。実際に行動できるよう BF 部会に人を増や していく等
- ・12月6日(日)18:30、海浜組合にブルーフラッグの説明をしてほしい。

【安田さん】

- ・☆すぐ取組めそう 浜に落ちているガラスや貝殻など自然素材のものでクラフトできるとよい。
- ・★New 浜への恩がえしの気持ちを見せていけると地域住民に理解が深まるのでないか。
- ・★New 和田観光協会・地区委員会が先頭に立って月に一度浜への感謝をこめて月/1回「ビーチ クリーンの日」を作ってはどうか。
- ・★New 健康維持で砂浜散歩をかねてビーチクリーンを老人会の方も参加してもらえるとよいのでは。
- ・★New ビーチクリーンの活動状況がわかるよう浜茶屋の軒に日報帳をさげてはどうか。

【西野さん】

- ・☆すぐ取組めそう 身内にブルーフラッグの話をしていきたい。
- ・☆すぐ取組めそう 各地区の説明会に BF 部会メンバーが一緒に参加すれば理解を得やすい (西野さんであれば 1 区)
- ・★New PTA として水の勉強に取りくんでいきたい。 楽しみながら BF が浸透できるようにしたい。

【今井さん】

- ・☆すぐ取組めそう 観光協会として、ブループラス配布に力を入れていく。
- ・☆すぐ取組めそう 臨派、倉庫などに BF 関連のポスター設置依頼があれば協力していく。
- ・☆すぐ取組めそう 役員会・理事会での BF の経過報告及び BF 座談会を開催する。
- ・☆すぐ取組めそう Facebook 等で広告・拡散・PR をより積極的に行なっていきたい。
- ・☆すぐ取組めそう 地区への理解を深める説明をしていきたい。

- ・☆すぐ取組めそう 観光客への説明ことあるごとに BF の PR をしていきたい。
- ・★New 和田でのイベント時、BF コーナーを設け PR していきたい。
- ・★New <u>キャンプ場の看板を GK 設計が整備する看板と調和のとれた内容のものにしていく。</u> これから作成する看板・チラシ等は BF の景観ビジョンにあったものを作成する。
- ・★New 湘南ビジョン研究所と情報交換し、交友関係を築いていきたい。
- ・★New 定期的に和田観光協会主催の浜そうじを行なっていきたい。
- ・★New 3 月に雪解けキャンペーンと題して浜そうじをしていきたい。(以前あったものを復活させる)
- ★New 何故これをとろうとしているのか。取得したらどうなるのか。をまず理解してもらう。手間が増えるということではない。大変なことではないということを理解してもらう。
- ・★New 将来的には「グリーンキー」を取得できる和田ならではの民宿をやってみたい。
- ・11月30日に和田観光協会へBFの説明をする。
- ・12月に和田地区民全員で浜そうじを行なう。
- ・観光協会、理事会、理解が浸透していない。繰り返し説明していく必要がある

【村宮さん】

- ・☆ すぐ取組めそう Facebook でブルーフラッグの活動を PR する。
- ・☆すぐ取組めそう 公民館に Blue+のパンフレットを設置する。
- ・☆すぐ取組めそう 継続して磯・川の環境教育活動していく。
- ・☆すぐ取組めそう ゴミの持ち帰りを呼びかける。
- ・★New 今後は小学生が川・磯などでの活動した後、発表ができる場を作っていきたい。和田 de 路地祭りで調査結果を発表してもらう。
- ・★New 環境教育で海だけではなく、山の植物調べや、星空観望会、化石採集などを行いたい。

【松見さん】

- ・☆すぐ取組めそう 知り合い、遠くにいる親族にも話す。
- ・☆すぐ取組めそう 11月に紙芝居を3・6年生対象に行なった。BFをあまり理解していない様子。 継続して紙芝居をしてもらい浸透させていきたい。
- ・★New 総合学習で BF の取り組みから自分達でできることはないか考える時間を設ける。
- ・★New 全校生徒に向けて説明をしていただくと理解が深まる。4 月にセレモニーをするのであれば、2 月頃には説明をしてほしい。
- ・★New 和田小学校に BF のぼり旗を設置することは可能である。
- ・★New 学校職員が BF T シャツを着ることは可能である。
- ・★New メンバー以外の人間が気軽に BF 部会に参加しできる仕組みをつくっていきたい。
- ・和田小学校では、継続して 5・10 月に浜ひろいをしていく。
- ・地域の住民の巻き込みが課題である。行政のトップダウンではなく地域住民からのボトムアップ

が重要。

・小学校にBFを浸透させていくにはひとりでは少し限界を感じる。

【吉岡さん】

- ・★New BF 広報としてパンフレット・HP・ムービーの作成をしていく。(ムービーは福井テレビに発注予定)
- ・★New 高浜駅 2F に外国人対応の情報ステーション設置を検討している。
- ・★New 平日やシーズンオフに利用できる宿泊プラン・飲食メニューを作っていきたい。

【小松さん】

- ・★New 無関心の人理解してもらえるように対話していく。
- ・★New 全員参加を目標にBFを共有できるよう話しかけていく。
- ・★New 海浜組合・旅館組合など、役割分担を明確にしていく。
- ・★New 長期的には和田から三松までの海岸遊歩道を有効利用していきたい。

【EPO中部 新海さん】

- ・宮崎県綾町ではユネスコエコパークを取得したら観光客が増えた。
- ※ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)…ユネスコが認定する自然(動植物)と人間社会の調和がとれた地域
- ・外向き・内向きアピールと手段・方法を模索していけるとよい。
- 3. ブルーフラッグ関連イベントについて
- ・認証セレモニー
- →ドローンを使用し、和田浜で人文字を撮影したい。「BLUE FLAG」は大変なので、ロゴマークなら人文字を作れるのではないか。ブルーの旗?ブルーの帽子?ブルーのゴミ袋?を利用する。
- →和田だけでなく町内の方に参加してもらうと、一体感が生まれるのでは。
- →子どもが参加すると、より理解が深まる。
- ・オープニングイベント
- →ブルーフラッグ浴衣で総踊りするとおもしろい。
- →障害者の体験はできるなら別の日の静かな時にする方が好ましいが、オープニングイベントでお 披露目できると、バリアフリービーチのよいアピールになるので、場所・環境等は調整していきた い。
- ・掲揚式
- →海水浴開設期間を現在、7/9~8/21 で調整中である。
- 一つの案とし、ビーチラグビーの開会式で掲揚式を行なう。実行委員会と調整していく。
- 4. BLUE+ vol.3
- 構成内容(75%の状態)

誰もが安心安全に楽しめる海に関した写真を表紙に使いたい。

マイナス意見をプラスに変える Q&A

国内審査の中間発表し、ブルーフラッグによって何が変わるか

鎌倉市湘南の取り組みを報告

ライフセーバーの特集、山本さんのドイツ大会の報告、HP・FB への誘導

Happy Smile の紹介、ボランティア登録促し

GK 設計によるトータルデザインの紹介、和田浜の名称統一の発表

プロジェクト WET の紹介、指導者講習会の様子・指導者の紹介

メンバー募集ページ

子どもへの広報活動の様子を報告、和田小学校での読み聞かせ・まち歩きガイドの紹介

~意見~

写真を多くして、文章を短くしたほうがいい。

ご意見・ご指摘があれば次回ヒアリングします。

5. 和田小学校での読み聞かせ

11月18日小幡さん・大塚さんが和田小学校3・6年生に対し、ブルーフラッグを噛み砕いた内容の紙芝居の読み聞かせを行なった。

大塚さん

その日は内浦小学校の子どもたちも和田小学校にいたので合同で行なった。子ども達はおとなしかったが、意見が少し聞けた。ブループラスを子どもにも分かりやすくしたほうがよいと感じた。 紙芝居は低学年用・高学年用を用意したほうがいいかもしれない。

小幡さん

難しい表現がところどころにあるので、わかりやすく示す必要がある。環境教育には反応があった。 ~意見~

厚紙でもっと大きなものを用意していきたい。

日時	場所	
12月17日 (木)	和田地区公民館	
議題		
・個人、団体としてできることのまとめ ・イベントにつ	いて ・Blue+ vol3 他	

第24回安心・安全な海構築会議

議事録

日時	場所
平成 27 年 12 月 11 日(金)19:30-21:30	ぷらっと Home 高浜 会議室

出席者			
水難救助員会	会長 磯部 功		
高浜警察交番所	署長 谷本 裕也		
消防高浜分署	分署長 吉田 考完		
白浜海浜組合	組合長 松岡 明雄		
東三松観光協会	区長 吉田 松栄		
はまなすパーク管理組合	組合長 一瀬 幸生		
若狭和田 LSC	代表 細田 直彦		
高浜町役場まちづくり課	主査 米川 浩司	主事補 本郷 要因	
+V><60.04.15.0	会長 大角 一馬	副会長 永野 和夫	
若狭高浜観光協会	事務局長 吉岡 久	館長 武村 享導	

議題

- (1) H28 海水浴場開設に向けて
- (2) H28 海のルールブックについて
- (3)H28に向けて取り組むこと
- (4)ブルーフラッグの進捗について

- 1. H28 海水浴場開設に向けて
- (1)海水浴場開設期間
- ・11月24日に開催された「平成27年度高浜町水難救護活動反省会」において、7月9日~8月21日という案が出ている。昨年の開設期間終了後の事故を受けて、来シーズンは、監視期間を1週間長くし、44日間とすることで議論している。12月17日に再度議論する予定。
- ・8 月 21 日までとすることには異論が出ていない。議論となっているのは監視の開始時期を 7 月 9 日にするか 16 日にするかという点である。

- ・警察としては、期間が延びても問題はない。重点的に警備するのは土日だけである。
- ・消防としても問題なし。
- ・H29 以降も延長するという意味ではない。各年カレンダーに応じて設定する。
- →当会議としては、44 日間でお願いするという姿勢とする。

(2) 游泳情報旗

- ・開設期間外は、原則「遊泳注意」の旗を掲揚すればどうか。具体的にはブイが設置され浜茶屋が営業している期間であり、7月9日~8月31日の期間である。
- ・今季問題となったのは、開設期間後であっても遊泳者が多いという「グレーゾーン」をどうするかということである。その為に来期は44日間の延長を議論しているのであり、7月9日~8月31日の期間何らかの旗を揚げるのは意味がない。

→継続して議論

(3) 遊泳注意・禁止の基準

- ・雷は気象庁の注意報が出れば、自動的に遊泳禁止とする方が良い
- ・海が全くの凪状態であるにも関わらず雷注意報が発令されることがあり、そういう場合遊泳禁止にする と浜茶屋事業者からクレームがくる。対応が難しい。
- →雷は浜に居ても危険であり、屋内に避難することを誘導する。浜茶屋事業者には理解してほしい。
- →今後ルールブックに盛り込む方向で、表現など具体的な内容について検討する。
- ・現状、遊泳注意、禁止の判断は海浜組合が行っているが、和田に関してはライフセーバーが加わって判断する
- ・水難救助員が各海浜の検討の議論に加わることは、スタッフ不足の中不可能である。
- →和田では海浜組合+ライフセーバーで判断する。他の海岸は従来通り海浜組合が行う。
- →海の状況や発令状況については、海浜組合、水難救助員、ライフセーバーで出来る限り情報を密に交換 すること。

2. H28 海のルールブックについて

(1)シュノーケルの安全誘導

- ・正しい装着方法を誘導する
- →基本的にライフジャケットを着用の上実施するよう誘導していく

(2) ラフジャケット貸出事業

- ・町の補助事業として観光協会が一括で購入し、各浜茶屋に原則 5 着貸出用のライフジャケットを支給する。管理は各海浜組合で行ってほしい。
- ・ヱビス浜では管理人が15時に引き上げるため、返却の対応が課題である。
- ・浜茶屋が営業している浜では、対応が可能。
- ・紛失や、大人数のグループが一度に借りたい場合など、詳細な運用方法を想定検討しておく必要がある。
- ・和田では、ボート貸出時に子供には無料で貸与している。ライフジャケット単品での貸し出しでは 500

円/人を徴収している。

- ・白浜では、既に海浜組合で5着/軒分を購入し、300円/人で貸出ている。
- →各海浜組合で管理運営することを基本に、貸出料金や具体的な運用方法については、浜ごとの事情を踏まえて運営方法を検討する。
- →ライフセーバーとしては、ライフジャケットは、浅い海でこそ着用を推奨したいと考える。
- 3. H28 に向けて取り組むこと
- ・ルールブックの遵守について広報を強化する。
- ・ウエットティッシュやうちわなど配布グッズを検討する
- 4. ブルーフラッグの進捗について
- ・現状報告

7.02m37.0	
日時	場所
平成 28 年 1 月 26 日(火) 18:30~	ぷらっと Home 高浜
議題	
・今回会議の継続議題	

FEE Japan 打合せ

議事録

日時	場所
平成 27 年 12 月 15 日(火)10:30-12:30	FEE Japan

出席者		
FEE Japan	伊藤 正侑子	
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡久	

議題

- (1) 今後の審査スケジュール
- (2) 申請書追加資料について
- (3) その他

- 1. 今後の審査スケジュール
- ●確定している審査スケジュールは下記の通り
 - ・11 月末に国内審査員会開催、指摘された事項について追加資料を提出要請
 - ・追加資料について、2016年1月9~11日に審査員がそれぞれの分野ごとにチェック
 - ・1月11日または12日に再度質問状を発送、申請者はそれについて追加資料を作成し対応
 - ・2月11日に国内審査会 ←10日必着で申請書類を含む資料一式を5部提出
 - ・4 月初旬から国際審査会開催
- ●国内審査会を通過したからといって、国際審査会が通るとは限らない。また、逆に国内審査会で駄目であっても、国際審査会で認められる場合もある。
- ■国内審査会の審査員は5名。それぞれ専門分野について分担して審査を行う。
- 2. 申請追加資料について
- ●情報掲示板の「BLUE FLAG」の表示は、FEE のシンボルマークと町章が入るのが通常。サンプル画像を 参照のこと。
- ●海洋保護区域については、水産資源に関する保護区域のほかに、自然公園法の保護区域も併せて記述して おくこと(指定はない旨)。
- ●除去された藻の処置については、堆肥化などのリサイクルが最も望ましいが、埋め立てでも可である。要は焼却がまずいということ。鎌倉市は全て埋め立てで対応している。

- ●ごみ箱の設置および回収状況としては、通常時には問題がないが、あふれた際にどう対応しているかがポイントになる。例えば、現状把握→連絡経路→対応といった仕組みが記述されていることが望まれる。
- ●分別ごみ箱に「BLUE FLAG」のロゴは入れない方が良い。認証が取り消されたときに面倒である。
- ●リサイクル対応ゴミ箱については、リサイクルされるまでの経路/仕組みを整理すること。
- ●トイレの清掃については、頻度を明記しておくこと。
- ●浜に進入が許可されている車両については、例えばステッカーと貼るとか、パウチの許可証を作るなど、 常時表示しておくことが望まれる。
- ●建物や設備の維持管理における環境への配慮としては、特に大きなことは必要ない。例えば下記のような ものでもよい。
 - ・浜茶屋では割り箸や使い捨ての食器を使用していないこと
 - ・または割り箸は間伐材等の端材をしようしており、そのことを箸袋に明記していること
 - ・浜茶屋の建物は、木造で環境に優しくない素材は使用していないこと
 - ・浜茶屋の建物は、常設で廃棄物の排出は最低限であること
 - ・トイレ等に節水やトイレットペーパーの使用節約を促す貼り紙をしていること
- ●珊瑚礁または海藻の存在については、「海域生物環境調査報告書」(1994年3月環境庁)の記載を添付すること。
- ●生物環境の保護等については、必ずしも現地に表示する必要はない。むしろ、トイレ等に表示する方が認知度や読まれる確率が高いという報告もある。
- ●事故発生時の海水浴客への情報伝達としては、例えば鎌倉では大規模な電光掲示板を設置(設置者は神奈川県)して有効に機能している。将来的には高浜でも導入を検討してはどうか。
- ●障がい者の浜への進入ルート(駐車場から救護所まで)について、地図だけでなく、現地の画像も添付すること。
- ●交通管理計画は、都市計画マスタープランの記載事項でよい。

3. その他

- ●認証の通知方法としては、現地からの電話が適当と考える。時間帯としては、下記が想定される。
 - ・認証された当日の会議終了時(日本時間では夜中)
 - ・認証された会議の翌日朝(日本時間では夕方17時頃)

第12回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 27 年 12 月 17 日(木)19:00-21:15	和田地区公民館

出席者				
若狭和田観光協会	安田 渉	今井 満		
和田地区委員会	山口 忠志			
浜茶屋事業者	岸野 一男			
和田小学校				
和田公民館				
若狭和田ライフセービングクラブ	西岡 あゆみ			
やまぼうしの会	大塚 ひとみ			
地元事業者				
高浜国際交流協会				
おひさま	小島 真弓			
青の里地球まるごと会議				
高浜町教育委員会				
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡 久	須藤 竜乃介		
高浜町まちづくり課(事務局)	角谷 有紀	亀川 真衣		
事務局				
その他				

議題

- (1) これまでのふりかえり 新しく部会に加わった方の紹介
- (2) JLA 認定海水浴場の報告および BF 認証取得の経過報告
- (3) Blue+ vol.3「クエスチョン&アンサー」ページについて (取得までに残された課題について)
- (4) ブルーフラッグ関連イベントについて

議事内容/結果

- 1. これまでのふりかえり
- (1) 新加入者紹介
 - ・山口副地区委員長、西野浜茶屋組合長から自己紹介があった。
- (2) これまでのふりかえり(吉岡)
 - ・町内のブルーフラッグ取得までの歩みを説明した。主に部会の趣旨について触れ、2つの会議の違いを解説した。
 - ・安心安全な海構築会議→行政機関を中心とした町全体の海水浴場について BF 部会→地域住民、団体をまじえ和田の BF に特化したもの
- 2. JLA 認定海水浴場について(吉岡)
 - ・高浜町が取得を目指しているブルーフラッグの取得には、国際ライフセービング連盟(ILS)による海水浴場のリスク評価とその安全対策の評価が必要。そこで、ILS の日本代表機関である日本ライフセービング協会(JLA)に海水浴場のリスク評価を依頼。その結果、安全な海水浴場という評価を受け、JLA認定海水浴場(国内第一号)となった。

今回の認定を受け、ブルーフラッグの認証取得に向けてまた一歩前進した。

- ○認証取得までのスケジュール(予定)
- ・1月追加申請書提出、2月11日最終国際審査会(予定)
- ・4月国際審査会
 - ・JLA から届いた評価書を項目ごとに読み合わせを行い、課題点の共有も行った。
- 3. Blue+ vol.3 について (亀川)

亀川さんが現段階案を読み合わせ、質問項目ごとに現状把握・意見交換を行った。

- ○旗について
- 岸野さん
 - →遊泳条件の旗は毎日掲げて、毎日下げるのか。毎日であれば大変。遊泳条件が変わらない限り掲げた ままにしたい。
- →BF の旗に関して、海水浴場開設期間中は掲げたままにしておく。次年度は 7/9~8/21(仮) 遊泳条件についても同様で良いのではないか。
- O犬の散歩について
- 大塚さん
 - →BF 適用時間外(~9時、16時~)で犬が水中に入った場合の衛生面はどうか。住民や浴客への周知 方法はどうするか
- → (吉岡) 当日や翌朝の水質検査で基準値を外れない限りは問題ないと認識する。周知方法は検討中である。案内看板を作るなどしたい。

- (岸野) 浴客で犬を放し飼いなどしていた場合、注意しづらい時もある。
- (安田) 漁協から流れている放送内容を改定してはどうか。
- (須藤) BF ビーチの範囲外(渚ボートより西側)は犬の制限がないのでそこに誘導したい。

Oタバコについて

亀川→分煙、禁煙、携帯灰皿(円錐型で浜にさしておけるものや、少し変わったオシャレなものを 推奨して砂浜に捨てないようにする等、意見交換したい。

- (小島) 浜に刺す形の携帯灰皿は、子ども達が踏んで怪我や、火がくすぶっているものを踏んでやけどしないか心配。
- (岸野) 昔より浜のゴミ量としては減った。昔は浜茶屋で販売したが、ごみ処理の手間から販売を辞めた経緯がある。現状、浜茶屋の吸い殻入れやゴミ箱にもタバコのゴミはかなり集まっている。
- (今井) 5年前に、JT と共同でパラソルと喫煙所を設けた時には、分煙効果が高かった。分煙の灰皿 などを浜などに設置するのもよいが、どこにおいて誰が回収するかまで決めておかないと難しい部 分もある。
- (山口) 分煙スペースが浜茶屋近くにあると、わざわざ歩いていくのに遠くて、結局浜ですわれてしまうのではないか。

(小島、山口) 歩きタバコについては絶対にしないように周知したい。

結論: 将来的に禁煙を目指しつつ、まずは看板への記載、分煙スペースの設置、携帯灰皿の配布の組み合わせで取り組んでいく。

O花火について

現状の看板や周知のとおり、22時までは砂浜での実施は可能ということでまとまった。

- 〇ロケット花火について
 - ※今回の紙面の記載から外す。

今年は、和田地区三役に話を持って行ってから、1~6区区長の承諾書を貰い行っていた。

水質調査、浜のごみ調査でも、他の測定日よりも著しく結果が悪かったため、BF 期間(海水浴場開設期間)での実施はできない。今後どうするか、主催者とも協議を行っていない。

- (西岡) ロケット花火はゴミ問題で規制となっているが、8月1日の花火大会は問題ないのか。
- (吉岡) 花火大会は自然に返る素材を使っていることが異なる点。
- 〇ルールや監視・注意について
 - (須藤) 罰や、監視、注意は表現が強いため柔らかくしてほしい。ライフセーバーも監視や注意 よりも声をかけて安全を促すよう心掛けているので、誤解の無いようにしたい。

また、BF ビーチの守ってほしいことなども、何か起こってからではなく定期的に事前に救護所の放送を活用して浴客に周知していく事も、放送担当者を雇用している和田観光協会とライフセービングクラブで検討していきたい。

- 4. ブルーフラッグ関連イベントについて
 - ・宿題の回収を行い、時間の都合上議論には及ばなかった。

次回会議予定

日時	場所		
1月27日(水)	和田地区公民館		
議題			
・オープニングイベントについて			

・ブルーフラッグ認証に向けた周知方法について

第25回安心・安全な海構築会議

議事録

日時	場所
平成 28 年 1 月 26 日(火)19:30-21:30	ぷらっと Home 高浜 会議室

出席者			
水難救助員会	会長 磯部 功		
高浜警察交番所	署長 谷本 裕也		
消防高浜分署	分署長 吉田 考完		
和田海浜組合	組合長 岸野 一男		
白浜海浜組合	組合長 松岡 明雄		
東三松観光協会	区長 吉田 松栄		
はまなすパーク管理組合	組合長 一瀬 幸生		
若狭和田 LSC	代表 細田 直彦		
高浜町役場産業振興課	課長 冨永 輝生	主査 米川 浩司	主事補 本郷 要因
若狭高浜観光協会	会長 大角 一馬	副会長 小松 政春	副会長 永野 和夫
	副会長藤本誠	事務局長 吉岡 久	館長 武村 享導

議題

- (1) H28 海水浴場開設に向けて
- (2) ライフジャケット整備事業について
- (3) H28 ルールブック内容について
- (4)ブルーフラッグの進捗について

- 1. H28 海水浴場開設に向けて
- (1)海水浴場開設期間
- ・7月9日(土)~8月21日(日)の44日間とする。
- →5月の高浜町海水浴場安全連絡協議会で正式に決定する。
- →その際に、海水浴場安全連絡協議会は発展的解消という形で、当安心・安全な海構築会議に吸収するという方向で合意形成したい。

→海水浴場安全連絡協議会は、かつては海水浴期間の一方通行の設定など多くの議題があったが、近年は 海水浴場の開設期間の設定のみとなっている。そのため解消して当会議に吸収されることは合理的である。

(2) 期間終了後のグレーゾーンについて

- ・遊泳期間終了後にも実際には遊泳者が多い、いわゆる「グレーゾーン」期間については、遊泳情報旗の 掲示をしないこと、ブイも撤去することなど、海水浴期間は終了したということにしたい。
- ・海水浴期間=受入体制がとれている期間という認識を広めていきたい。
- →色々と問題はあろうと思うが、まずは H28 年シーズンを通してやってみる。シーズン後に各海水浴場の 実態を把握して今後の動きを検討したい。
- ・遊泳情報旗は、開設期間外は、掲揚しない。

2. ライフジャケット整備事業について

- ・基本的に子供を対象とし、整備するライフジャケットは、未就学児と小学校低学年を想定して購入する。
- ・配備する数量については、一旦各海浜組合から希望提示してもらい、観光協会で調整、再配分する。
- ・貸出しの具体的な運用については、各海浜組合で議論して設定する。
- →あくまで今回配布するライフジャケットを元に、各海浜組合で今後ライフジャケットを貸し出せる体制 を作るという事業である。今後も全て無料で配るということは基本的にはない。出来るだけ運用益を出し て、今回配布する以上の数を配備したり、メンテナンスする費用を捻出してほしい。

3. H28 ルールブック内容について

(1) 基本方針

・文言が分かりにくい、長くて読む気が起しない、といった声を反映して、シンプルな表記に統一する。

(2)密漁の禁止

- ・「たった1個でも罰せられる」、という表記は適切なのか? 刑事罰になることはまずありえないし、表現として強過ぎないか?
- →「たった1個でも違反になります」という表現で調整したい。
- →漁協としては、1個でも深刻な問題であり、そういう気持ちがこの表現に反映されていると思う。
- ・一昨年からパトロールを実施し、高浜は密漁するのには面倒だというイメージが出ているのではないか。少しずつ効果が出ているのではないか。

(3)シュノーケルに関連する事故防止

- ・ブルーフラッグビーチでは、使い方の講習会が学習プログラムになるのではないか。
- →水難救助員会で講習会を開催することが出来る。H28 シーズンからでも可能な範囲で始めたい。
- ・シュノーケルを全面中止する訳にはいかないので、シュノーケルをする場合は 1 人ではしない、という 指導も必要なのではないか。

- ・シュノーケルの使用に関わらず、保護者に向けて「子供から目を離さない」という注意喚起が必要。
- ・注意書きを表示する場所は、効果的な場所にすること。
- ←ビーチの入り口はあまりじっくり見られない。トイレなどが有効ではないか?
- 4. ブルーフラッグの進捗について
- ・現状報告

次回会議予定

日時	場所
平成 28 年 3 月 8 日 (火) 18:30~	ぷらっと Home 高浜
議題	
・H28 年度海のルールブックの内容の確定	

第13回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 28 年 1 月 27 日(水)19:00-21:15	和田地区公民館

出席者		
若狭和田観光協会	安田 渉	小松 政春
和田地区委員会	平田 一通	
浜茶屋事業者	岸野 一男	
和田小学校	西野 仁貴(PTA)	松見 浩司
和田公民館	村宮 博明	
若狭和田ライフセービングクラブ	西岡 あゆみ	
おひさま	小島 真弓	
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡 久	須藤 竜乃介
高浜町産業振興課(事務局)	米川 浩司	角谷 有紀
事務局	亀川 真衣	高田 慎平

議題

- (1) オープニングイベントについて
- (2) ブルーフラッグ認証に向けた周知方法について
- (3) その他

議事内容/結果

「和田の特徴である路地の雰囲気」

→路地から海へ抜ける道

塩田付近・キャンプ場付近・稚紫壯付近 和楽荘、わたつみの湯から海へ抜ける道

寺の前の細い道? (別荘群を抜ける道)

- →和田 de 路地祭り静止画
- →人(地元・外国人・老若男女) 「興味を引くアクティビティ等」
- →SUP の風景
- →サーフィン
- →浜茶屋からボートを借りるとこから葉積島着までの映像
- →葉積島飛び込みは NG
 - <オープニングイベント>
 - →福井県のブレイヴドルフィンズ(障がい者を対象にした水泳教室)

「イベント案」

- →大漁旗や伝馬船を昔は出していた。
- →スプラッシュウォーターパークは子どもは絶対に喜ぶ。が現実、予算的に厳しそう →ウォーターボールよさそう
 - →砂の上移動映画館 シネマキャラバン
- →Happy Smile (障がい者) イベントは昼ごろから夕方までには終わりたい
 - 2. ブルーフラッグ座談会について(別紙参照)
 - 2月5日(金)和田公民館 1階和室にて実施予定

ブルーフラッグに対しての間口を広げ、理解を深めたい。

スタンスとしては畳の上に座りながら気軽にお茶を飲み緩やかに行う。

知り合いに声掛けのご協力をお願いします。

会費 100円/人(飲み物・菓子代として)

- 3.子ども向けブルーフラッグパンフレット(別紙参照)
- 800部作成した。BF 取得後は内容を更新し増刷予定。

次回の開催予定

WILL STORE S	
日時	場所
2月17日(水)	和田地区公民館
議題	
・オープニングイベントについて 他	

109

第1回ブルーフラッグ座談会

議事録

日時	場所
平成 28 年 2 月 5 日(金)19:00-20:30	和田地区公民館

出席者		
若狭和田観光協会	安田 渉	
浜茶屋事業者	岸野 一男	
和田公民館	村宮 博明	
高浜中学校	Sing Chan	
若狭和田ライフセービングクラブ	細田 直彦	細田 由香梨
	西岡 あゆみ	横田 浩和
	上尾 椋太	
若狭高浜観光協会	須藤 竜乃介	
高浜町まちづくり課	高田 慎平	
その他	毎日新聞の高橋	

議題

- (1) ブルーフラッグ運用時の疑問点や解決策
- (2) ライフセービング大会についてのアイデア出し平成28年6月11~12日

議事内容/結果

- 1. ブルーフラッグ運用時の疑問点や解決策
- ·BF ビーチ時間内、区域内の「犬の連れ込み禁止について」

看板だけでは伝わりにくい、放送を1日に何回か呼びかけてはどうか(岸野)

浜茶屋で犬を預かってと言われた場合対応できない(岸野)

簡易でもよいのでドッグランは必要なのでは(安田)

→場所は空き浜茶屋のスペースやライフセーバーのタワーを収納していたスペースなど

ライフセーバーも犬の注意は行うが、浜茶屋の方にも注意喚起をお願いしたい(細田)

駐車場の誘導員の方に事前に海水浴客に声かけをしてもらってはどうか(岸野)

- →BF ビーチのマップを配布してもらう(須藤)
- →犬連れの方が東側の駐車場に止めようとした時に言われたら、お客が西に流れてしまうのではないか?

浜茶屋内に注意喚起のビラの貼り付けをお願いしたい(須藤)

→海浜組合会議時に話題に挙げる(岸野)

湘南はどのように対策を考えているか聞いてみては(安田)

・「ゴミの分別について」

リサイクルゴミ箱は設置されるのか?

認証上必要なのでリサイクルゴミ箱は設置される(須藤)

リサイクルごみ箱が設置されることで浜茶屋さん等の負担が増えるのではないか?(西岡)

浜茶屋の前に設置してある分別ゴミ箱は割と分別してゴミが捨てられているのであまり心配はしてい ない(岸野)

→シルバーの方の分別は楽になるのではないか?いきなり 100%分別が出来るようになることは難しいが、誰かが分別してくれれば同じようにしてくれる人が増えると思う。混ぜこぜでごみを捨てる事が出来る環境になっていたことが問題。(須藤)

ビブス着用など清掃員の存在を目立たせると、お客さんのマナーが向上するのではないか(安田)

・「ビーチクリーンキャンペーンについて」

去年初めて導入して、アナウンスも日替わりでやっていたが、今年は音声を録音して取り組みの意義 もしっかりと説明していきたいと考えている。例えば、浜茶屋さんも手が空いていれば手伝ってくだ さいと言っても良いか? (細田)

夕方であれば落ち着くし、1人2人、人を出せないか海浜組合に声をかけてみる(岸野)

H28 はごみを拾ってというアナウンスではなく、和田のビーチはマナーレベルの高いビーチなんだということが分かってもらえるようなアナウンスを行っていきたい。(細田)

「タバコについて」

分煙か禁煙か検討中である。携帯灰皿の配布も検討中(須藤)

タバコを吸う事や、お酒を飲むこともできなくなるといううわさが広がっている。(岸野)

→吸うこと自体は問題ではないが、ごみの問題もついて回るので対策(禁煙、分煙、その他)が必要 になる(須藤)

カニの絵になる海外のビーチの取り組みを紹介(高田)

「ロケット花火大会について」

昨年のゴミのデータ、水質データも持って、海水浴場開設中はブルーフラッグ掲揚期間であるので NG と言う事は伝えてある。

→花火は発注済みで8月中に実施したい意向と耳にしている。(西岡)

2. ライフセービング 競技大会 第29回全日本種目別選手権大会について

開催日:6/11・12

大会本部は救護所もしくは塩田駐車を検討中である。

「大会を盛り上げる方法について」

住民の方に来てもらえるような方法としてオリジナルTシャツを制作したい。

- →小学生の絵をのせるなど、住民の方が関われるような方法がよい
- →制作費については未定。協賛金を募るか、町に一部負担していただけないか。
- 「グッズの制作について」

当日は全国からライフセーバーが参加する。大会の報告は毎大会ごとに Facebook で発信している選手や審判が多い。

大会成績以外に、ロケーションや地元の良さを発信してもらえる仕掛け(魅力、おもてなし)をしていきたい。例えば参加した選手 500 人が、ブルーフラッグの説明も含めて貰えれば、500 人×100 人 (そのひとの facebook 友達) に対して高浜の魅力やブルーフラッグの宣伝効果になる。上記は最低人数だが、100 人以上友達が居る人にはさらに発信効果が期待できる。(須藤)

ブループラスの Facebook ページも「いいね」してもらえば 500×100 で 5 万人にアピールできることになる。(高田)

- →高浜らしいグッズを制作してアピールしていきたい。
- →マフラータオルや、バスタオルなどは使用してもらいやすい。
- →ブルーフラッグのアピールもできるグッズの展開も行っていきたい。
- →Facebook で「Blue+」を「いいね」してもらったスクリーンショットを産業振興課 or 観光協会にメールしてもらって、冬にカニフグを抽選でプレゼントとかしてみてもおもしろい。
- ・「屋台など飲食の提供について」

会場レイアウトも主催者に提案できる。町に少しでもお金が落ちる×選手も喜ぶ×地元の人と関われる機会=相互の満足度に繋がると思う(須藤)

選手のテント設営エリアをメインゲート前のみ空けて、浜茶屋前のスペースを東西に広く設けてはどうか (岸野)

浜茶屋さんに場所を提供いただき、町内の事業者に出店してもらう。

海浜組合にもアイデアとして出していきたい(岸野)

浜茶屋さんはシャワーだけでも開設していただいければ収益をあげてもらえる。

(6月なのでライフセーバーに温水シャワーの需要はかなりあると思う)

町内事業者案:秋岡屋(ワゴン販売)、アンヴェルブ、源六餅、大次郎、漁協の干物宅配予約、ふぐセット予約販売など。商品だけ預かり、浜茶屋さんや塩屋が対応してもいい。

特に飲食に関わらず、特産品販売や手作りものを販売していると遠方に大会に来た満足度が上がると思う。3月中までに一度おもてなし協議会を開催したい。町内事業者の出店を募りたい。(須藤)

その後事業者と浜茶屋のマッチングをしていきたい。(高田)

・「地元の人が会場に来てくれるには」

おもてなしの炊き出しなどに積極的にかかわってもらう(西岡)

→地元の人が食べてもいい (細田)

ビーチラグビーをまねてじゃんけん大会(細田)

- →ビーチラグビーの事務局が大会スタッフとして手伝いたいと意見が出ている(上尾)
- →お願いする方向。ミーティングが 15 日の 19 時半頃から予定(須藤参加)

次回会議予定

日時	場所
3月3週目くらい?	未定
議題	
・未定	

第14回ブルーフラッグ推進部会

議事録

日時	場所
平成 28 年 2 月 17 日(水)19:00-21:00	和田地区公民館

出席者		
若狭和田観光協会	今井 満	
浜茶屋事業者	岸野 一男	
	菅原教頭	松見 浩司
和田小学校	西野 仁貴(PTA)	
和田公民館	村宮 博明	
若狭和田ライフセービングクラブ	細田 直彦	西岡 あゆみ
やまぼうしの会	大塚 ひとみ	
おひさま	小島 真弓	
地元	井上 順也	
若狭高浜観光協会(事務局)	吉岡 久	須藤 竜乃介
高浜町産業振興課(事務局)	米川 浩司	角谷 有紀
事務局	亀川 真衣	高田 慎平

議題

- (1) 国内審査会結果について
- (2) ブルーフラッグ関連イベントについて
- (3) その他

議事内容/結果

- 1. 国内審査会結果について
- ・高浜町無事に国内審査を通過した。

次回 4/13 から行われる国際審査で審査通過すれば、正式取得。

・鎌倉市は国内審査通らなかった。国際審査に選考は出す予定であるが取得は厳しい状況である。 原因については、海の家の雑排水が問題であった。

2. ブルーフラッグ関連イベントについて

〈取得セレモニーについて〉

・日程について

国際総会は 4/13~10 日前後で審査が行われる

町長選 4/20~4/24 があるため、4/25(月)が有力

・場所について

和田海水浴場、救護所前で行う。

救護所内に記者会見背景などを設置する。

テント1張は必要

内容について(アイデア出し)

コンセプト:日本らしいブルーフラッグ(日本初、アジア初)

YOUTUBE などを切りはりして映像を流す

記者会見(結果発表)町長に連絡入り→万歳三唱

町長コメント 花火(ブルーフラッグの形で打ち上げる?) (青色、○の形だけでも OK?)

打ち上げ場所、漁港の桟橋の突堤?

関係者インタビュー(ブルーフラッグ部会メンバー)

キャンドル(ブルーフラッグのマークを作る)町民の数だけキャンドル並べる?

子どもたちが参加できる内容 カラー綿菓子 (ブルー)、(かき氷) (チアガール?)

太鼓(日本初なので日本らしい内容がよいのでは)

和田4区 区長さんに要確認 叩ける子どもがいるので、そこでも子どもの参加を促してはどうか 音海太鼓? 囃子? 子ども神輿? 名田庄 勇粋連?

有線放送で事前告知(取得できたら花火が上がり、太鼓がなります、ご参加下さいなどの案内放送 ふるまい(鏡開き)

フラダンス(おばまガールズ)?

焼き印でブルーフラッグ饅頭?

次回、部会開催までにタイムスケジュールを出し、詳細つめていく。

<オープニングイベントについて>

和田の海開きイベントと絡めてオープニングイベントを行う。

・日程について

7/2(土)

内容について(案)

総踊りをするなら和田だけだと 100 名前後。町内に声をかけて集まってもらえると良い。 300 名集まった実績あり。

葉積島ライトアップ。普通にやっても見えない。サーチライト・灯台から光当てれば見える。 ハンディキャップイベント「Happy smile」13-16 時予定。

浜茶屋、この時期例年半分くらい開店している、全店開店するのであれば事前にお願いが必要。

・PR、サービス(案)

谷かまぼこ(ブルーフラッグかまぼこ)?

浜茶屋営業中は忙しいので、浜茶屋以外の飲食店の演出も必要。

スタンプラリー(浜茶屋周遊)などで若狭和田ビーチにリピートして来てもらえるきっかけづくり もしていきたい。

ガリガリ君ブルーフラッグバージョン?

・広報 (案)

ブルーフラッグTシャツを和田小学生に配布したい。

のぼりはやめて、今年は横断幕でいきたい。

気球・アドバルーン

大きなポスター (海イメージポスター)

ミニフラッグ(おこさまランチに指す旗のBF版)

グッズ(案)

富士山ロックグラス

フェイスペイント用ステッカー

ステッカー

アサヒビール オリジナルロゴ入れ

おそうじグッズ(環境系グッズ)地域貢献で売上をバックできる仕組み

BF コースター スタンプラリー(浜茶屋周遊)用として

表:BF 裏:浜茶屋の名入れ

(案) 5 軒集めるとタオル 10 軒で T シャツ プレゼント

<ブルーフラッグ掲揚式について>

・日程について

7月9日(土)

・ビーチラグビーの開会式に合わせて行うイメージである。

<認証~海水浴開設までの盛上げについて>

・4月

4/25 ブルーフラッグ取得セレモニー

·5月

5/22 ふれあい広場

・6月

6/11・12 ライフセービング種目別選手大会

6/25・26 パドリングフェスタ

取得から海水浴開設まで期間があるので不安である。盛り上げ案については要検討。

<ブルーフラッグのブランディングについて>

どのように世に広めていくか

イベントを開催、単発で終わりではなく、継続して少しずつ発展していくイメージで進めていきたい。 5カ年計画でまずは和田から骨格をしっかり作っていきたい。

環境・教育などを前面に出しながら、儲かる仕組みを作っていきたい。

宿泊施設や、飲食などの受け入れ体制のこともあり概ね賛成である。

和田全体のおもてなしの向上を図っていきたい。

くその他>

・教育

「プロジェクト WET」

講師増えてきた。イベントでの突発的な実施ではなく継続的に月1回でも開催していきたい。 (学校のカリキュラム(総合学習等)に取り入れたい)学校側は取り入れる余裕はあまりない。 放課後のびのび教室や、ヒューマンサークル Jr.などで実施できそうである。

「高浜小学校」

天神橋出向宣伝での売上金2万円で、トングを町に寄贈していただけることになった。

次回会議予定

日時	場所
3月9日(水)	和田地区公民館

議題

- ・取得セレモニータイムスケジュールについて
- ・オープニングイベントについて 他

高浜町ブルーフラッグ交流会計画書

1. 開催の目的

ビーチの国際環境認証である「ブルーフラッグ」について、人々の認知度を高めること。また、既にご存じの方については、その理解度を高めること。

特に今回は、地元関係者より、昨年の開催から1年間の取組みや将来展望を報告いただき、それを 通じて、ブルーフラッグ認証取得がまちづくりへと拡がっていくための可能性を探るものとする。

2. 全体構成

主催(一社)若狭高浜観光協会、高浜町

協力 環境省中部環境パートナーシップオフィス

日程 2015年10月17日(土)

13:00~16:30 体験メニュー/パネル展示(城山公園、城山荘1階ホール他)

14:00~16:30 シンポジウム(城山荘3階ホール)

17:00~20:00 懇親会 中庭でガーデンパーティ(会費制)

■シンポジウムの流れ

時間	内容	備考
14:00~	開会	司会:有堀さん
(5分)	主催者開会挨拶、来賓挨拶	挨拶者:町長、振興局長
14:05~	講演 1【FEE Japan 伊藤正侑子氏】	海外事例、取得後の展開 他
(30分)	「ブルーフラッグビーチの魅力」	
14:35~	講演 2【株式会社 GK 設計関西事務所所長 門脇宏治氏】	景観整備の事例、高浜のビー
(30分)	「ビーチデザインの可能性」	チデザイン案他
15:10~	公開座談会	各パネリストからご自身の取
(75分)	「ブルーフラッグを活かしたまちづくり」	組みや今後取組みたいことを
	●若狭和田 LSC 代表 細田直彦氏	紹介
	●NPO おひさま 代表 小島真弓氏	専門家からアドバイス
	●和田地区公民館 館長 村宮博明氏	
	●和田小学校 教諭 松見 浩司氏	
	●浜茶屋/民宿事業者 今井 満氏	進行:若狭高浜観光協会
	●地球環境パートナーシッププラザ 尾山 優子氏	吉岡
16:25~	閉会	挨拶者:観光協会会長
(5分)	主催者閉会挨拶	

※セッティングの時間を含む

シンポジウムは、カジュアルな雰囲気で行いたいと思います。 参加者は、全員普段着でお願いいたします。

■会場等配置図





城山荘 3 階ホール(100名)



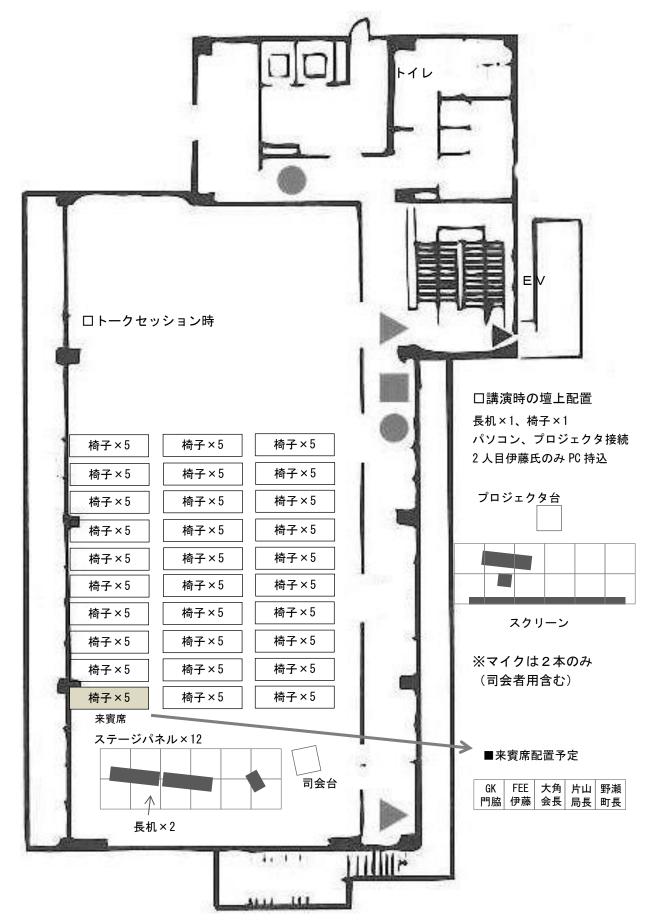
城山公園芝生広場

3. シンポジウム進行表

時間	内容
13:15	打合場所:城山荘 1 階 135 号(12:00 からお使いいただけます)
	打合内容:講演、公開座談会の進め方
	※別途、控室は隣の 134 号室を確保しています
14:00	開会【5分】(司会:有堀さん)
~14:05	主催者あいさつ:野瀬町長様 来賓あいさつ:片山嶺南振興局長様
14:05	■講演 1【3O 分】「ブルーフラッグビーチの魅力」
~14:35	• 海外事例を中心に、ブルーフラッグを取得したビーチの状況紹介
	• 日本におけるブルーフラッグ認証制度の状況と将来展望
	講師:FEE Japan 代表理事 伊藤正侑子様
14:35	■講演2【30分】「(仮題) ビーチデザインの可能性」
~15:05	・他所のデザインの事例とトータルデザインに取り組む意義
	・和田を中心とする高浜町のビーチデザイン展開の考え方
	・ビーチデザインがまちづくりにもたらすもの
	講師:株式会社 GK 設計関西事務所所長 門脇宏治氏 他
15:05	休憩【5分】
~15:10	トークセッション会場準備
15:10	■公開座談会「ブルーフラッグを活かしたまちづくり」
~16:25	町内で今進行中のさまざまな取組のうち、ブルーフラッグと関連があるものについて、
	当事者のご意見がご感想をいただきながら、これからブルーフラッグを高浜のまちづ
	くりにどう活かすかのヒントを探る。
	(進行:若狭高浜観光協会/吉岡 計 75 分)
	1. 趣旨説明(吉岡)【1分】
	2. 簡単な自己紹介(6名様)【2分】
	3. 高浜町内での動き【60分】
	(1)ライフセーバー活動について(細田様)
	・これまでの主な活動内容
	・活動を通じて感じること、課題
	・高浜の海の魅力(ライフセーバーの視点、移住者の視点)
	・これからの展望、どうしていきたいか
	(2)高浜で進めるバリアフリーのまちづくり(小島様)
	・これまでの主な活動内容
	・活動を通じて感じること、課題
	・ビーチがバリアフリーになればどうなるか
	・今後高浜のまちづくりに期待すること
	(3)公民館活動報告(村宮様)
	・これまでの主な活動内容
	・公民館活動を通じてめざしていること

	V=+VTD1 + 44.0 物力 /), 口がける		
	- ・海を活用した社会教育/公民館活動		
	(4)学校教育における高浜の海(松見様)		
	・和田小学校における海との関わりの現状		
	・これからの学校教育に期待されていること		
	・将来の展望		
	(5)海水浴の現状とこれからの展望(今井様)		
	・海水浴客の現状、最近の傾向		
	・民宿や浜茶屋の取組み状況や意識		
	・駐車場や海浜の清掃など、管理上の問題点		
	このままではどうなるか。今後どういう取組みを進めていくべきか		
	(6) 取組みに対する総評/アドバイスなど(EPO 中部様) ・報告のあった各取組に対するエール、アドバイス ※批判や欠点の指摘だけではなく、協働主体のやる気が出るようなコメントをよろ		
	しくお願いいたします。		
	4. 質疑応答【12分】		
	お客さまの中からコメントをお願いする。特に関連団体の長や来賓と同等の方から		
	は積極的にいただく。		
16:25	閉会【5分】		
~16:30	主催者あいさつ:観光協会会長 大角一馬		
17:00	懇親会 (ガーデンパーティー)		
~20:00	会費: お一人 3,000円		
	※雨天の場合は室内で実施。会場準備のため 17:30 開始		
	●開会の挨拶・乾杯:岡本副町長様		
	●閉会の挨拶:FEE Japan 代表理事 伊藤正侑子様		

■平面図(城山荘 3階平面図)



4. 懇親会(ガーデンパーティ)

時間 17:00~ (雨天時は3階ホールにて実施 その際は17:30~)

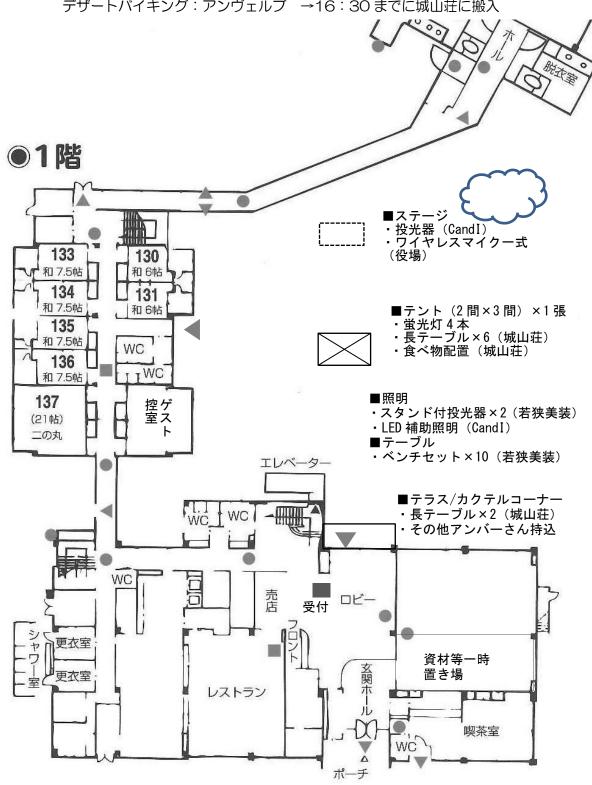
場所 城山荘中庭

会費 おひとり様 3,000円

料理 主な料理:城山荘(ビュッフェ形式、デザートはフルーツのみ)

カクテル/ドリンク実演提供:アンバーカフェ

デザートバイキング:アンヴェルブ →16:30 までに城山荘に搬入



5. 体験コーナー

実施 若狭和田ライフセービングクラブ、プロジェクト WET

地域自慢プロジェクト・アクティビティ部会

場所 城山公園芝生広場

時間 13:00~16:30 (参加者の様子を見て16:00まで)

内容

項目	内容	担当者
プロジェクト WET	・町内子供会単位で申し込みいただく・予約制・併せて 11/29 のWET指導者講習会の申込案内/受付	亀川(まち課)
ゆっくり遊び	・スラックライン・ハンモック・イス	設置のみ
薬草体験	・ハトムギポップコーン	健康長寿の里

6. 準備物

(1)事前~前日

分類	内容【担当者】
漁協駐車場	口漁協さんに使用依頼
	□イベント駐車場看板準備 → 16日夕方から看板設置(サーファー対策)
玄関ロビー	□入□装飾デザイン、製作【角谷】【協会/野村】
	□芳名帳シート制作 □アンケート回収箱×2 制作
	ロクラブ・ブルーフラッグ登録用紙制作 口懇親会領収証制作
シンポジウム	□野瀬町長への依頼(まちづくり課)~ 挨拶文原稿作成、町長説明
〈3 階ホール〉	口片山嶺南振興局長への依頼(まちづくり課)〜挨拶依頼
	口大角会長 挨拶依頼 口花発注【丁字屋】
	口当日会場配布用資料作成(パンフレット、アンケート、登録書)
	※EPO 中部協働のパンフレット同時配布(←10/16 に到着予定)
	□城山荘設置マイクの数確認 →マイク2本(司会者用含む)
	口講演会•演者名札(伊藤氏、門脇氏)
	ロトークセッション演者名札(6名)
	口客席背もたれ名札(野瀬町長、片山局長、大角会長、伊藤氏、門脇氏)
体験メニュー	
〈芝生広場〉	
懇親会	口城山荘に料理内容、料金、人数指示(@料理 3,000 円+飲物 1,000 円)
〈中庭〉	ビールサーバー、その他飲み物一式
	ロアンバーカフェにドリンク依頼(必要なもの確認)
	ロアンヴェルブにスイーツ依頼
	口若狭美装に発注 ※16日13:00~設置立ち合い
	テント 2 間*3 間×1 張 、スタンド付投光器×2
	白ベンチセット×10
進入路	□のぼり旗掲揚箇所抽出→許可 □のぼり旗回収(和田海岸)
	口のぼり旗設置(城山公園周辺)
	ロイベント会場誘導看板×3(10/16)
案内状送付	口案内状作成 ~ 参加申込用紙添付
チラシ送付	□嶺南5市町観光協会·行政観光担当部署 □県観光営業部
	口嶺南振興局県民サービス室 口舞鶴市/綾部市/福知山市観光担当部署
広報	ロ小浜記者クラブ投げ込み(10/9)
	口新聞折り込みチラシ(10/15)
	口町内放送

(2) 当日

分類	内容【担当者】		
	□野瀬町長 お迎え【役場/ 】		
1階 134 号室	口片山嶺南振興局長		
1 1 1 3 1 3 1	□FEE Japan 様(1 名) 城山荘宿泊		
	□GK設計様 (3名) 城山荘宿泊		
	口地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)(2名)		
	□飲み物準備(最大7名使用)		
トークセッショ	13:30~出演者打合 打合進行【協会/吉岡】		
ン打合せ	出席予定者:●若狭和田 LSC 代表 細田直彦氏、●NPO おひさま代表 小島真弓氏、		
1階 135号室	●和田地区公民館館長 村宮博明氏、●和田小学校 出席者調整中、●浜茶屋/民宿		
	事業者代表 今井満様、●EPO 中部 未定		
	□飲み物準備(最大7名使用)		
 1 階受付	• 受付/懇親会費徴収【観光協会/門脇、役場/田渕】 ※受付 13:30~		
	~机(小)と椅子は城山荘に借用→卓球室にある □つり銭 30,000円		
	・玄関ホール装飾【役場/角谷】【協会/野村】		
	・シンポジウム終了後、アンケートとクラブ・ブルーフラッグ登録用紙の回収		
	□玄関ホール入□装飾		
3 階ホール	・会場設営【役場/角谷、田渕】【協会/須藤、野村】		
	• 客席配置【城山荘】 • 進行補助【協会/須藤 役場/田渕】		
	ロプロジェクター/スクリーン/パソコン【役場】		
	ロゲスト用飲み物(6)【協会】 ロプロジェクタ台【城山荘】		
	●講演会時席配置 → 長テーブル×1(白布) 椅子×1 飲物+コップ		
	名札(伊藤正侑子氏、GK 門脇氏)		
	●トークセッション時席配置 →長テーブル×2(白布) 椅子・名札×6		
漁協駐車場	• 誘導係不要		
体験メニュー	口立看板(各メニューの名前と簡単な内容)×4 種類		
〈芝生広場〉	口若狭美装に発注 ※16日13:00~位置決め立ち合い→設置		
	テント 2 間*4 間×2 張 、長机×4、パイプ椅子×5		
	ロハンモック【小川】 口音響【角谷】		
	ロドラムコード×4【協会】 ロイーゼル【協会×2 役場×2】		
懇親会場	・会場準備【役場/角谷】【協会/野村】		
〈中庭〉	・17 時までにアンヴェルブよりデザート納品【城山荘受け取り】		
	ロアンバーカフェ バーカウンター設置 長机×2+追加台【城山荘】		
	ロドラムコード×4【役場】		
	□長いテーブル×9→ 白布と追加台を置いて食べ物置き場【城山荘】		
	ロワイヤレスマイクー式【役場】 ロ投光器【Candl】		
その他	・マスコミ対応【役場/米川】・町長、振興局長お見送り【 】		
	• 町長 6:15 に懇親会場より退席		

7. スケジュール

	【前日】10月16日(金)			
	城山荘 3 階	城山荘1階・中庭	城山公園	その他
13 : 00				
14 : 00				
				●進入路のぼり旗 設置
15 : 00		次++160. 3 コムと		
		資材搬入可能		
16 : 00		・中庭 いきいき前		-
17 : 00				
17:00				
18 : 00		-		

		【当日】10月	月17日(金)	
	城山荘 3 階 【総括:吉岡】	城山荘1階·中庭 【総括:角谷】	城山公園 【総括:米川】	その他
11 : 00 12 : 00	●シンポ会場準備	中庭、活き活き 前に資材等搬入 可能 ●玄関、受付設営	●テント設置、テーブル椅子搬入 (若狭美装) 10:00~ ●体験会場準備 亀川、刀祢、本郷	
13 : 00	椅子:城山荘 その他設置:須藤、 蒔田	角谷、野村 ●受付 1階ロビー 13:30~ 門脇、田渕	●体験コーナー 13:00~16:30 WET:亀川 託児:保育所 名 薬草:田原、堀口	●来賓控室 1階 134号 担当: ●事前打合 13:30~ 1階 135号 進行:吉岡
14 : 00	●シンポジウム 14:00~16:30	●懇親会会場準備 角谷、蒔田、野村	-	
15 : 00	司会:有堀 会場:須藤、田渕	用台、時田、野村 デント、テーブルセ ット:若狭美装		
16 : 00				
17 : 00		●懇親会		
18 : 00		会場:角谷、蒔田開会挨拶:岡本副町長 閉会挨拶:FEE 伊藤		
19:00		さん 18:15 町長退席		
20 : 00		●懇親会会場撤収 全員 翌日 AM 資材設置可		
21 : 00		能		

※全体撮影・記録:高田

湖南ビジョン研究所との交流会 計画書

●日 時 2015年11月7日(土)~8日(日) 1泊2日

※7日朝5:30 若狭高浜駅出発 5:40 頃和田観光協会出発

8日夜20:00頃 高浜町帰着予定

●内容 7日 ・湘南ブルーフラッグカフェ(13:30~16:00 建長寺にて)

・ 懇親会 (大船駅前 いろは茶屋)

8日 ・環境教育プログラム体験(由比ヶ浜海岸)

• その他

●交通手段 貸し切りバスで高浜町から湘南まで往復します。

※次ページ参照

●参加費 食事代は各自でご負担ください。交通費、宿泊費、拝観料、シンポジウム参加費は無料です。※懇親会費 4,500 円はご負担ください。

●宿泊先 ホテルメッツかまくら大船

〒247-0056 神奈川県鎌倉市大船 1-2-1

TEL (0467)40-1192 (代表) FAX(0467)40-1180

2. プログラム

(1) 1日目 11月7日(土)

■13:30~ 開会

■13:35~ 海外から学ぶブルーフラッグの魅力

講師: Sophie Bachet Granados 氏

■14:45~ パネルディスカッション

日本における鎌倉市・高浜町での「Blue Flag」取得に向けた取組み

■15:45~ 閉会

■17:00~ 懇親会(大船駅前 いろは茶屋)

(2) 2日目 11月8日(日)

■10:00~ 集合 ビーチクリーン

■10:40 ビーチクリーン終了

■10:40~ 湘南地域の海岸ごみの話(湘南クリーンエイド代表五十嵐実氏)

■10:50~ 環境教育プログラム

(FEE International Blue Flag Director が実施)

■11::30~ ワークショップ 参加料:1000円 自由参加

(S-Nature 湘南ビーチグラス工房)

※ワークショップはビーチグラスを使ってペンダントを作ります。

■12::00 解散

ご旅行計画表

若狭高浜観光協会(社) 期間 平成27年11月7日~11月8日

株式会社 京都交通社 舞鶴営業所 京都府舞鶴市字倉谷 1248 番地 TEL0773-76-1374 担当 高田 —

行	昼食は途中 SA にて各自 大船駅へ送った後はお客様は自分達でホテルへ	お客様は自分達で会場へ、乗車場所、時間等事務局長とよく打合せ ホテル 由比ケ浜(お客様乗車)横浜横須賀道路経由横浜町田 IC~(高速経由)~小浜西 IC
月/日	11.月 7.日 (土)	11.月 8.日 (日)

ブルーフラッグに関するアンケート調査結果

調査日時 2015年11月15日(日)

調査場所 福井県高浜町内で開催されたイベント「ぷらっと Home 高浜収穫祭」本部にて

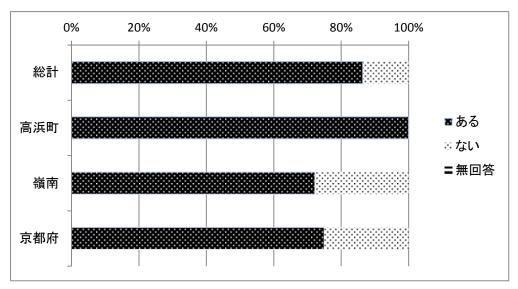
調査方法 対面式で説明しながらご記入いただく

調査票数 59票 (高浜町内:28票、その他福井:18、県外:12票、不明:1票)

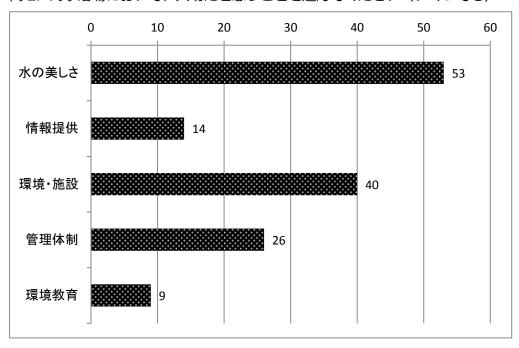
実施主体 一般社団法人若狭高浜観光協会

■調査結果

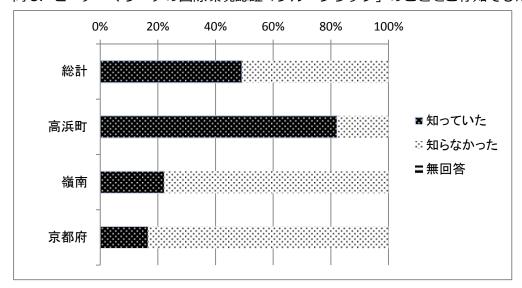
問 1. これまで高浜町の海水浴場を訪れたことはありますか?



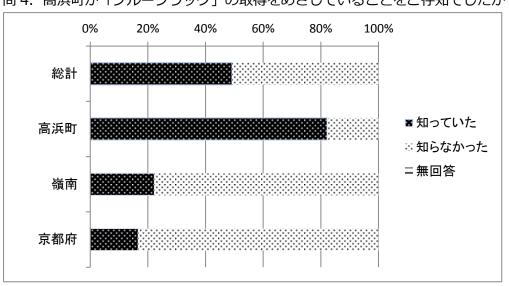
問 2. 海水浴場において、大切だと思うことを選んでください(いくつでも)



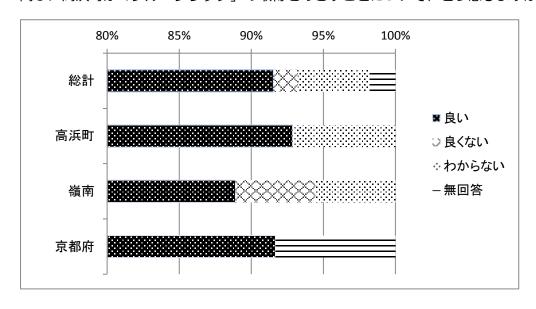
問3. ビーチ・マリーナの国際環境認証「ブルーフラッグ」のことをご存知でしたか?



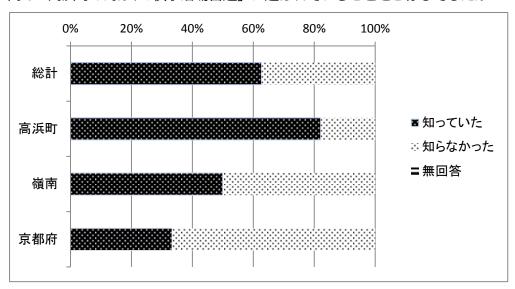
問 4. 高浜町が「ブルーフラッグ」の取得をめざしていることをご存知でしたか?



問5. 高浜町が「ブルーフラッグ」の取得をめざすことについて、どう感じますか?



問 6. 高浜町の海が、「快水浴場百選」に選ばれていることをご存じでしたか?



■調査の様子







高浜町の海に関するアンケート

A. ある (回くらい / 数えきれない) B. ない

1. これまで高浜町の海水浴場を訪れたことはありますか?

2015年11月15日 (一社)若狭高浜観光協会

 2. 海水浴場において、大切だと思うことを選んでください。(いくつでも) A. 透明度や汚染度などの、「水の美しさ」 B. 利用のルールや地図などの、「情報提供」 C. ゴミの分別やトイレなどの、「環境・施設面」 D. 救急設備や安全対策などの、「管理体制」 E. 自然体験などの、「環境教育面」 F. その他() 3. ビーチ・マリーナの国際環境認証「ブルーフラッグ」のことをご存じでしたか? 	
A. 知っていた B. 知らなった	
4. 高浜町が、「ブルーフラッグ」の取得をめざしていることをご存じでしたか? A. 知っていた B. 知らなった	
 高浜町が「ブルーフラッグ」の取得をめざすことについて、どう感じますか? 	
A. よいことだと思う	
B. あまりよいことだとは思わない	
C. どちらともいえない	
※上記の理由()	
6. 高浜町の海が、「快水浴場百選」に選ばれていることをご存じでしたか? A. 知っていた B. 知らなった	
※ご回答をいただいた方について	
●性別(男性 / 女性)	
●年齢(10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代~)	
●お住まい(高浜町内 / 町外 ~市町村名:)	

リサイクル適性の表示:印刷用の紙にリサイクルできます この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて制作しています。